

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業

MSM に対する有効な HIV 検査提供と  
ハイリスク層への介入に関する研究

令和 2 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 塩野 徳史

大阪青山大学

令和 3(2021)年 3 月

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業  
MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入に関する研究  
総括・分担研究報告書

目 次

I. 総括研究報告	
MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入に関する研究	1
	塩野徳史 (大阪青山大学健康科学部)
II. 分担研究報告	
1. 北海道における MSM に対する検査提供と介入の効果評価	12
	塩野徳史 (大阪青山大学健康科学部)、他
2. 東北における MSM に対する検査提供と介入の効果評価	18
	塩野徳史 (大阪青山大学健康科学部)、他
3. 首都圏における MSM に対する検査提供と介入の効果評価	25
	金子典代 (名古屋市立大学看護学部)、他
4. 東海における MSM に対する検査提供と介入の効果評価	36
	金子典代 (名古屋市立大学看護学部)、他
5. 近畿における MSM に対する検査提供と介入の効果評価	46
	塩野徳史 (大阪青山大学健康科学部)、他
6. 中国・四国における MSM に対する検査提供と介入の効果評価	51
	和田秀穂 (川崎医科大学)、他
7. 九州における MSM に対する検査提供と介入の効果評価	64
	塩野徳史 (大阪青山大学健康科学部)、他
8. 沖縄における MSM に対する検査提供と介入の効果評価	72
	健山正男 (琉球大学大学院医学研究科)、他
III. 調査研究報告	
1. MSM に対する検査提供と介入の効果評価 -受検者アンケートの分析-	79
	金子典代 (名古屋市立大学看護学部)
IV. 研究成果の刊行に関する一覧表	89

## MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入に関する研究

研究代表者 塩野徳史 大阪青山大学健康科学部看護学科 准教授

### 研究要旨

初年度は、ゲイコミュニティが存在し、当事者を中心とした CBO と行政、医療者、研究者との協働体制が構築されている地域、あるいはその可能性が高い地域(北海道、東北、東京都・神奈川県・首都圏、愛知県・東海、大阪府・近畿、岡山県・中国、愛媛県・四国、福岡県・九州、沖縄県)で、より感染リスクの高い層やこれまで介入が届きにくかった層を対象とした検査機会を提供することとしていたが、自粛の影響をふまえ、保健所などの検査機会の現状を共有し、各地域で新たなに有効な検査手法を検討し、その効果評価の体制を整備することとした。特に令和2年2月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は7割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。そこで各地域では、郵送検査キットを配布する取り組みを開始した。各地域の状況に合わせて、対面配布とWEB配布する方式を組み合わせ実施した。また検査行動に関する形成調査を実施し、様々な検査機会利用者の特性を明らかにすることを目的とした。具体的には日本のインターネットサイトを運営するA社が保有するアンケートモニター登録者を47都道府県と年齢階級によって層化し二段層化抽出法を用いてMSMを対象に、本調査を2020年12月に3,000人を対象に実施し、その結果について分析を行った。

初年度、各地域の連携のもと、郵送検査キットを1,053キット配布し、受検者アンケートに回答した人は1,048人であった。このうち、実際に利用した人は769人であり、配布数に占める利用者の割合は73.0%であった。このうち、結果画面を視認したと考えられる人は736人(95.7%)であった。新規のHIV陽性率は推定で1.8%、新規の梅毒陽性率は推定で5.6%であった。アンケートには回答したが、検体を送付しなかったものは全体で417件、実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送した回答者は631件であった。実際に検査を利用したものが、アンケート回答のみのものより若く、HIV検査経験があり、PrEP認知が高かった。

また形成調査として実施した質問紙調査の結果は、初年度は、MSMを対象に検査行動に関する形成調査を実施し、3,205人の回答を得た。これまでのHIV検査経験は32.5%であり、過去1年間では15.1%であり先行研究と比べてやや上昇していた。また利用した検査機関で最も高かったのは保健所即日検査(13.1%)、郵送検査は2.3%であった。これまでに、医療機関で医療職者から、HIV検査をすすめられたことがあった人は12.8%であり、過去1年間では9.6%であった。今年度新型コロナウイルス感染症拡大の影響でHIV検査を利用する回数や頻度は減ったと回答した人の割合は16.1%であり、この期間に検査を受けることができたと回答した人は11.7%であった。本調査では検査機会の指向に関して尋ねており、最も利用希望の高かったのは保健所即日検査(35.5%)で、郵送検査は10.0%であった。

研究分担者氏名（所属研究機関名及び所属研究機関における職名）

研究 4 金子典代（公立大学法人名古屋市立大学 看護学部 准教授）

研究 6 和田秀穂（川崎医科大学 教授）

研究 8 健山正男（国立大学法人琉球大学 大学院 医学系研究科 准教授）

## A. 研究目的

日本では MSM (men who have sex with men) におけるエイズ対策として、全国 6 ヶ所のコミュニティセンターが設置され、当事者性を活用し、HIV 抗体検査の自発的な受検勧奨を推進しており、MSM における受検割合は 7 割程度まで上昇している。一方で、現状の検査体制では対応できていない未診断感染者が一定程度存在することが指摘されている。世界では ART 普及の効果について、UNAIDS 主導でケアカスケード分析がおこなわれ、各国のエイズ対策の柱となっている。また、ART の早期導入は、HIV 感染症の生命予後が著しく改善されるだけでなく、パートナーへの感染予防効果も示され、「U=U」としてメッセージは広がり、HIV 感染症に対する恐怖やスティグマの低減に加え、受検行動にも影響を与えることが示唆されている。

日本の現状は、感染者の診断率が 6 割から 8 割程度と報告されており、達成目標である 9 割に届いていない。エイズ動向委員会の報告では、新規 HIV 感染報告における感染経路の 7 割は男性同性間の性的接触によるもので、加えて新規感染報告数に占める AIDS 患者割合が約 3 割であり、早期受検、早期治療の重要性をふまえると、MSM における HIV 抗体検査の受検勧奨は必須である。

CBO (Community based organization) が主体的になって取り組んだ検査事業では、陽性割合が保健所より高く、県レベルでの新規感染報告数に占める AIDS 患者割合の減少がみられるなど、一定の成果を得てきたが、日本

全体に影響を及ぼすには、提供できた検査機会が少ない。また、感染リスクの高い層には性行動が活発な人、未受検者や薬物使用者が内包され、都市部と地方の実態も異なる。先行研究では介入認知群の受検割合は 9 割に到達しつつあるが、非認知群では 5 割程度と低いことも明らかとなった。MSM では、これまでの介入が届きにくい層が存在しており、新たな知見を活用し、今後は、感染リスクの高い層に焦点をあてた介入を積極的に展開していく必要がある。加えて今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、新型コロナウイルス感染症の影響で、MSM の検査機会も減少し、エイズ発症割合も増加している。またコミュニティセンターの開館時間も大幅に短縮となり、ゲイ向け商業施設やイベントも激減し、啓発普及の変更を余儀なくされた。一方で保健所等の検査機会も縮小する場合も多く、潜在的な HIV 検査ニーズは高まっていた。郵送検査には自宅都合の良い時間に受けられるメリットもあるが、支援や情報提供が不足しがちになるデメリットもある。そのため本研究では、6 箇所のコミュニティセンターを中心に日本 9 地域で郵送検査やクリニック・診療所での検査を活用し、三密を避けながら保健所以外の場所で、検査を受けられる方策の整備および受検者アンケート体制の構築、オールジャパン統一で広報体制を構築することを目的とした。

## B. 研究方法

初年度は、ゲイコミュニティが存在し、当事者を中心とした CBO と行政、医療者、研究者との協働体制が構築されている地域、あるいはその可能性が高い地域(北海道、東北、東京都・神奈川県・首都圏、愛知県・東海、大阪府・近畿、岡山県・中国、愛媛県・四国、福岡県・九州、沖縄県)で、より感染リスクの高い層やこれまで介入が届きにくかった層を対象とした検査機会を提供することとして

いたが、自粛の影響をふまえ、保健所などの検査機会の現状を共有し、各地域で新たなに有効な検査手法を検討し、その効果評価の体制を整備することとした。

これに伴い、検査行動に関する形成調査を実施し、様々な検査機会利用者の特性を明らかにすることを目的とした。具体的には日本のインターネットサイトを運営するA社が保有するアンケートモニター登録者を47都道府県と年齢階級によって層化し二段層化抽出法を用いてMSMを対象に、本調査を2020年12月に3,000人を対象に実施し、その結果について分析を行った。

本調査の質問項目は検査行動や新型コロナウイルス感染症拡大の影響、HIV検査機会の指向性などを尋ねた。データの集計および統計処理にはIBM SPSS Statistics 23 (Windows)を用いた。有意水準を5%未満とした。

啓発介入で展開する検査提供が、意図した対象に提供されていたかを評価するために、受検機会を利用した人を対象に質問紙調査の準備進め、受検経験・性行動などの受検者特性の把握および地域間比較、一部地域では保健所受検者との比較、初期の診断状況を把握する仕組みを検討した。

また、令和2年2月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は7割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。そこで各地域では、郵送検査キットを配布する取り組みを開始した。各地域の状況に合わせて、対面配布とWEB配布する方式を組み合わせる形で実施した。

(倫理面への配慮)

本研究は大阪青山大学倫理委員会、また研究分担者や研究協力者所属の研究機関に組織される倫理委員会の承認を得て実施される。ゲイ・バイセクシュアル男性やHIV陽性者は

社会からの偏見・差別が強くこれらの点についての配慮が必要である。このため本研究では各地域の当事者を中心とした9地域のCBOやゲイコミュニティのキーパーソン、HIV陽性者当事者団体および支援団体と連携し、意見聴取を行いつつ、調査方法や介入内容を検討し、対象者が本研究参加によって性的指向や感染の有無による差別や偏見を受けないように配慮した。

本研究は血液検査が含まれており、協力依頼時には訓練された専門のスタッフが書面および口頭によって説明し、研究主体、研究目的、調査参加の任意性、予想されるメリット、デメリット、厳密な個人情報の保護、不参加の際に不利益を受けないこと、途中での中止の自由について十分に理解を得たのちに同意を得たうえで実施する。結果判明後の診療・支援体制についても保健所と同等の環境を整備した上で研究を実施する。また研究結果については、関連学会や出版物などで個人が特定されないように処理したデータの分析結果のみを公表することを説明する。

## C. 研究結果

本報告では、各地域で取り組まれた保健所以外の検査機会の拡大における取り組みについて報告する。

### 研究1 北海道におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

道内5か所で配布場所を設定し、WEB配布も組み合わせ、総計100キットを配布した。会場を借りての5か所での対面配布で86件配布した。アンケートに回答したものは101名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは79名であった。91.1%が結果サイトにログインしていた。HIV陽性件数は2件、梅毒の陽性件数は15件(既往歴も含む)であった。

## 研究2 東北におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

総計172キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布40件、WEBでの配布が132件であった。アンケートに回答したものは180名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは133名であった。96.2%が結果サイトにログインしていた。

HIV陽性件数は2件、梅毒の陽性件数は8件（既往歴も含む）であった。また「GO TO 検査 TOHOKU」キャンペーンを実施し、保健所クリニック等の検査機会の再普及に取り組んだ。

## 研究3 首都圏におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

東京地域では総計95キットを配布した。コミュニティセンターaktaでの対面配布のみであった。予約サイトを活用し、密を避けて受付対応を行った。アンケートに回答したものは118名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは79名であった。96.2%が結果サイトにログインしていた。HIV陽性件数は1件、梅毒の陽性件数は15件（既感染も含む）であった。

神奈川地域では総計160キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布75件、WEBでの配布が85件であった。貸し会議室等の配布会場を借りるなどし、密を避けて受付対応を行った。アンケートに回答したものは178名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは137名であった。95.6%が結果サイトにログインしていた。HIV陽性件数は3件（うち1件は確認検査受検の確認済み）、梅毒の陽性件数は27件（既感染も含む）であった。

## 研究4 東海におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

名古屋市、岐阜県でクリニック検査に新た

に取り組んだ。クリニック検査については、広域の地方圏である岐阜県において、岐阜市内の利便性が高いクリニックから協力の承諾を得て、検査提供を行った。また名古屋市の利便性の高い繁華街の性感染症クリニックからも協力を得た。2クリニックで総計31名の利用があり、過去にHIV検査の経験がないものも19.4%いた。HIVの陽性件数は0件であった。梅毒は既往歴と新規感染合わせて8名の陽性が見られた。

ゆうそう検査は、総計79キットを配布した。コミュニティセンターriseでの対面配布が64件、WEBでの配布が15件であった。アンケートに回答したものは71名であった。実際に検体を検査会社に郵送したものは60名であった。96.7%が結果サイトにログインしていた。HIV陽性件数は0件、梅毒の陽性件数は7件（既往歴も含む）であった。

## 研究5 近畿におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

初年度は大阪府、大阪市と連携して保健所を含め受検者調査の実施体制を整備した。またクリニック検査（224件）、コミュニティセンターでの検査（114件）を継続した。

また自粛の影響を考慮しつつ、郵送検査を対面で提供する方法を検討し、試行した。総計142キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布が69件、WEBでの配布が73件であった。アンケートに回答したものは103名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは87名であった。96.6%が結果サイトにログインしていた。HIV陽性件数は2件、梅毒の陽性件数は14件（既往歴も含む）であった。

## 研究6 中国・四国におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

初年度は岡山県ではクリニック検査を継続できたが、他地域では展開が困難であった。

しかし他地域でクリニック検査の協力機関を増やし、次年度の体制を整備した。

岡山県ではクリニック検査を継続し、夏季に31件、冬季に25件の利用があった。また、2020年12月までの保健所・拠点病院・クリニックでの受検者アンケートの解析を進めた。

郵送検査は、総計124キットを配布した。コミュニティセンターはないため、すべてWEBでの配布であった。アンケートに回答したものは141名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは84名であった。郵送検査利用者のすべてが結果サイトにログインし閲覧していた。HIV陽性件数は0件、梅毒の陽性件数は13件（既往歴も含む）であった。

#### 研究7 九州におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

自粛の影響を考慮しつつ、コミュニティセンターで、郵送検査を対面で提供する方法を検討し、試行した。総計104キットをコミュニティセンターにおいて対面方式のみを使い配布した。アンケートに回答したものは106名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは68名(65.4%)であった。そのうち97.1%が結果にログインしていた。HIV陽性件数は1件、梅毒の陽性件数は6件（既往歴も含む）であった。

#### 研究8 沖縄におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

あらたに取り組んだクリニック検査キャンペーンでは、募集枠50人に対して46人が応募した。最終的には39人が受診した。HIV陽性は0人、梅毒2人陽性であった。

郵送検査は、総計77キットを配布した。実際にアンケートに回答したものは50名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは42名(54.5%)であった。そのうち92.9%が結果にログインしていた。HIV陽性件数

は1件、梅毒の陽性件数は8件（既往歴も含む）であった。

初年度、各地域の連携のもと、郵送検査キットを1,053キット配布し、受検者アンケートに回答した人は1,048人であった。このうち、実際に利用した人は769人であり、配布数に占める利用者の割合は73.0%であった。このうち、結果画面を視認したと考えられる人は736人(95.7%)であった。新規のHIV陽性率は推定で1.8%、新規の梅毒陽性率は推定で5.6%であった。

アンケートには回答したが、検体を送付しなかったものは全体で417件、実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送した回答者は631件であった。実際に検査を利用したもののほうが、アンケート回答のみのものより若く、HIV検査経験があり、PrEP認知が高かった。

検査結果とアンケート結果の連結に同意した者における年齢別の比較では、外国籍者の占める割合は34歳未満群に高かった。過去6か月にアプリで出会ったものとの性交渉経験は35歳未満層に多かった。過去6か月のコンドーム常用は24歳以下では15.3%、25-34歳では20.2%にとどまった。検査結果でHIVまたは梅毒がいずれか陽性であったものは97名であった。

また形成調査として実施した質問紙調査の結果は、初年度は、MSMを対象に検査行動に関する形成調査を実施し、3,205人の回答を得た。これまでのHIV検査経験は32.5%であり、過去1年間では15.1%であり先行研究と比べてやや上昇していた。また利用した検査機関で最も高かったのは保健所即日検査(13.1%)、郵送検査は2.3%であった。これまでに、医療機関で医療職者から、HIV検査をすすめられたことがあった人は12.8%であり、過去1年間では9.6%であった。今年度新型コロナウイルス感染症拡大の影響でHIV検査を利用する回数や頻度は減ったと回答した人の割合は16.1%であり、この期間に検査を受け

ることができたと回答した人は 11.7%であった。本調査では検査機会の指向に関して尋ねており、最も利用希望の高かったのは保健所即日検査 (35.5%) で、郵送検査は 10.0%であった。

#### D. 考察

初年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、コミュニティの中でも自粛が広がり、計画の変更が必要であった。郵送検査をコミュニティで配布する場合には、支援や情報提供が不足しがちになることを共有し、各地域の実状に即した手法を検討した。12月には配布を開始し、7地域にて3ヵ月間で1,053件を配布した。受検者アンケートの結果をもとに効果評価を行った。また保健所以外の検査機会としては大阪、岡山で展開されているクリニック検査の実施体制が中国四国、東海、沖縄で試行された。

形成調査の結果より、MSMにおけるこれまでの HIV 検査経験は先行研究と比べ増加しており、過去1年間の HIV 検査経験も増加していた。ここ数年の間に検査促進の啓発が増えてきたと考えられるが、一方で4月5月には保健所の検査機会が縮小され、その後受検利用が基に戻らないと言われている。今年度 HIV 検査を利用する回数や頻度は減ったと回答した人の割合は 16.1%と高い割合であり、利用者側も三密を避けるなどの理由で受検行動に結びつきにくかったと考えられる。またこの期間に検査を受けることができたと回答した人は 11.7%であり、より詳細に分析を進めれば、この割合は高くなる可能性もある。

また MSM における郵送検査利用は 2.3%であり、医療機関での HIV 検査勧奨経験は 12.8%であった。これらの次年度以降、保健所以外の検査機会を積極的に展開した場合には介入効果を示す基礎的な資料となる可能性がある。

#### E. 結論

各地域の取り組みは、年に数回コミュニティセンターや MSM ALL JAPAN 会議において、その成果を還元してきた。そのため、先行事例である診療所・クリニックと連携した検査機会や郵送検査を活用した検査プログラムの手法については実践可能な状況であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、予定していた対面での打合せ等が進まず、進行が遅くなった。そのため、これまでに提供できた検査件数は目標を下回る結果となったが、次年度に向けて、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていたとしても、新しい生活様式を意識しつつ展開できる体制を整備できた。一方でコミュニティの状況や HIV/AIDS や検査に対する意識も変化していることが指摘されている。各地域の行政も対応に追われており、MSM コミュニティにおける HIV 検査の機会は減少している。またエイズ発症割合も高くなっていると報告されており、検査ニーズはより高まっていると考えられる。

#### F. 健康危険情報

特になし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山政男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一: 成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態 - 2009 年調査と 2012 年調査の比較-. 日本エイズ学会誌. 19(1):16-23, 2017.
- 2) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性, 厚生指標, 2018, 65(5):35-42
- 3) 金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一. 地方都市在住の MSM

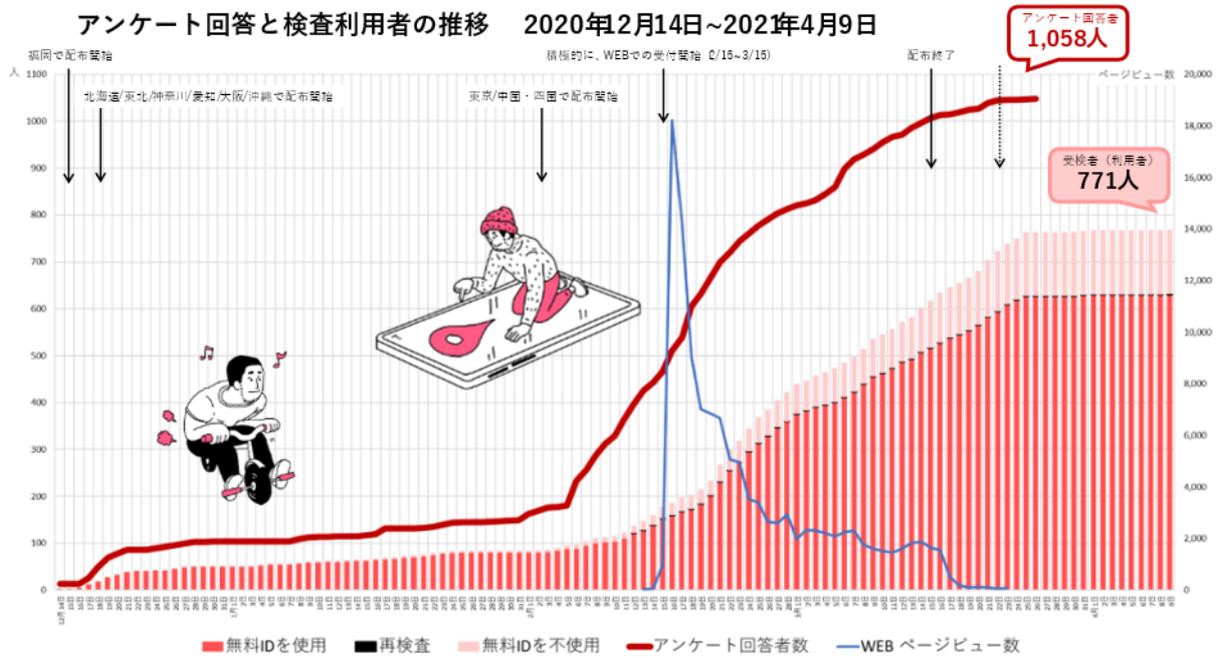
- (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年のHIV検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 21(1): 34-44, 2019.
- 4) Takahashi, N., Matsuoka S., Minh, T. T. T., Ba, H. P., Naruse, T. K., Kimura, A., Shiino, T., Kawana-Tachikawa, A., Ishikawa, K., Matano, T., and Thi, L. A. N. Human leukocyte antigen-associated gag and nef polymorphisms in HIV-1 subtype A/E-infected individuals in Vietnam. *Microbes Infect.* (18), 30163-30171. 2018.
- 5) Kato H, Kanou K, Arima Y, Ando F, Matsuoka S, Yoshimura K, Matano T, Matsui T, Sunagawa T, Oishi K. The importance of accounting for testing and positivity in surveillance by time and place: an illustration from HIV surveillance in Japan. *Epidemiol Infect.* 12:1-7. 2018.
- 6) 松岡佐織: 2015年以降の日本国内HIV/AIDS発生動向分析. 病原微生物検出情報. 2018, Vol. 39(9) p151-152.
- 7) 嶋根卓也, 今村顕史, 池田和子, 山本政弘, 辻麻理子, 長与由紀子, 松本俊彦. 薬物使用経験のある HIV 陽性者において危険ドラッグ使用が服薬アドヒアランスに与える影響. 日本エイズ学会誌, 20(1): 32-40, 2018.
2. 学会発表
- 1) ○塩野徳史 ゲイコミュニティにおける HIV 抗体検査—『これまで』と『これから』 シンポジウム 3 HIV 将来予測と流行阻止 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 2) ○塩野徳史 HIV 検査の受検阻害要因としてのスティグマ シンポジウム 4 スティグマの払拭は誰が担うのか 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 3) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 4) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島 岳, 太田 貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山 賢, 金城 健, 本間隆之, 市川誠一 akta で展開したセーフアセックスキャンペーンとコミュニティベース調査による効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 5) ○宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一 MSM における性交相手との出会いの場所と方法—年齢層による差異について— 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 6) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい MSM における検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンター-dista 利用者の変化 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 7) ○後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野徳史 若年層向けの行政と連携した予防啓発方法の試み 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 8) ○川畑拓也, 小島洋子, 森 治代, 駒野 淳, 岩佐 厚, 亀岡 博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 柴田敏之, 木下 優 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 28 年度実績報告 第 31 回日本エイズ学会

- 学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 9) ○Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjamts Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia The 31st Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Tokyo, Nov. 24-26, 2017
- 10) ○櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向 潤, 植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一 保健福祉センターにおける HIV 抗原抗体検査受検者アンケートから見た MSM 対策の評価 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 11) ○塩野徳史: U=U をめぐるメッセージと予防啓発 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム 9 U=U 誰が何をどう伝えるか: 陽性者の人権とステイグマゼロへの取り組みを視野に入れて 大阪, H30. 12. 2-
- 12) ○塩野徳史: 社会分野における予防指針の課題 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 日本エイズ学会シンポジウム エイズ予防指針改定の背景と課題 大阪, H30. 12. 2-4
- 13) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代. MSM(Men who have sex with men)に包摂される女装者たちの性行動や HIV 感染症に対する意識. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会 熊本, 2019. 11. 27-29.
- 14) 金子典代, 太田貴, 荒木順子, 岩橋恒太, 石田敏彦, 宮田りりい, 塩野徳史, 玉城祐貴. コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会 熊本, 2019. 11. 27-29.
- 15) 塩野徳史. MSM におけるセクシュアルヘルス (HIV 検査行動、新しい知識) に関する現状. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会 熊本, 2019. 11. 27-29.
- 16) 宮階真紀, 塩野徳史, 要友紀子, 宮田りりい, 松下修三. セックスワーカーにおけるセクシュアルヘルスに関する現状. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会 熊本, 2019. 11. 27-29.
- 17) 塩野徳史. HIV Futures Japan プロジェクトの調査結果から～老後・災害に焦点をあてて～. 共催シンポジウム 1 長期療養時代の医療・行政・コミュニティの協働態勢の構築 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会 熊本, 2019. 11. 27-29.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

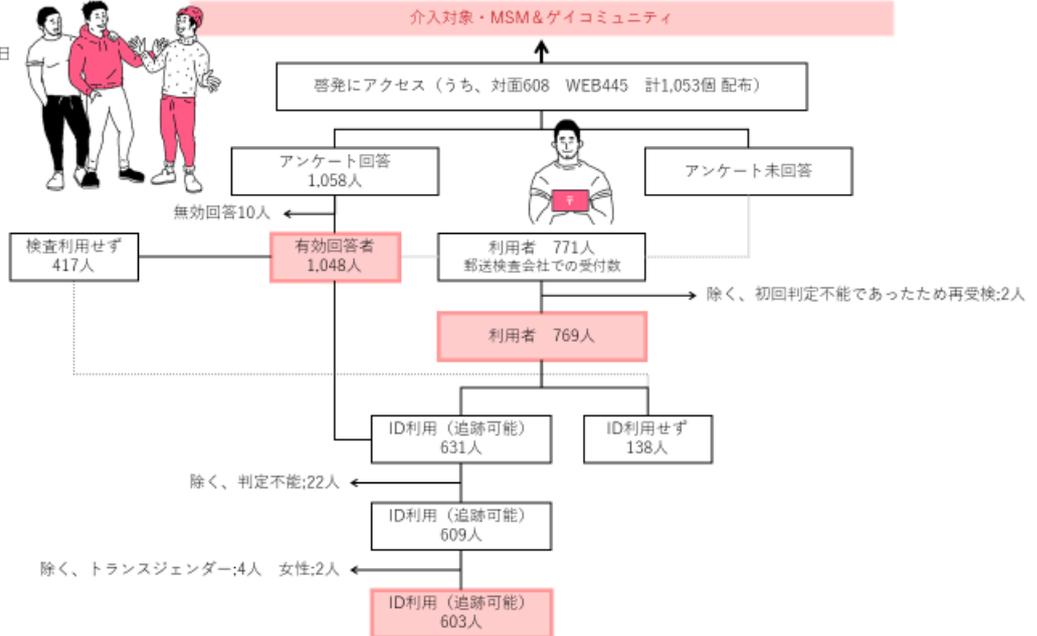
1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。

## アンケート回答と検査利用者の推移 2020年2月14日~2021年4月9日



## 分析対象の概要

2020年12月14日~2021年4月9日



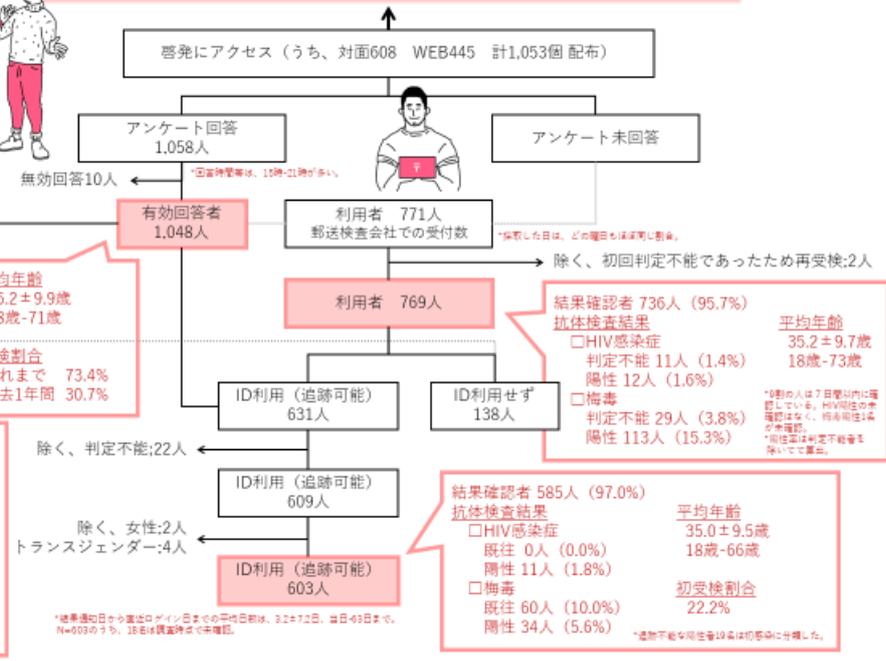
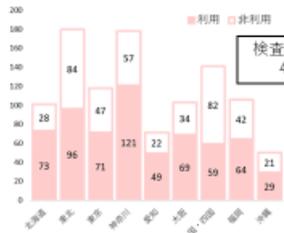
# 全体の概要

2020年12月14日~2021年4月9日



介入対象・MSM&ゲイコミュニティ

地域別内訳 N=1048



**属性**  
日本 96.5% 独居 58.7% ゲイ 74.0%  
トランスジェンダー 0.6%

**過去6ヵ月間の商業施設利用**  
ゲイバー 31.1% ゲイイベント 4.6%  
有料のハッテン場 24.3%

**CBOの活動認知**  
よく知っている 19.1% 少し知っている 39.1%  
あまり知らない 32.3% 全く知らない 9.5%

**結果確認者 736人 (95.7%)**  
抗体検査結果  
HIV感染症 判定不能 11人 (1.4%) 陽性 12人 (1.6%)  
梅毒 判定不能 29人 (3.8%) 陽性 113人 (15.3%)

**結果確認者 585人 (97.0%)**  
抗体検査結果  
HIV感染症 既往 0人 (0.0%) 陽性 11人 (1.8%)  
梅毒 既往 60人 (10.0%) 陽性 34人 (5.6%)

# 各地域の状況

2020年12月14日~2021年4月9日

地域	北海道	東北	東京	神奈川	愛知	大阪	中国・四国	福岡	沖縄
CBO	にじいろほっかいどう	やろっこ	NPO法人akta	NPO法人SHIP	ANGEL LIFE NAGOYA	mash大阪	HaTスリム/BRIDGE	惣務的関係 福岡支部	mark沖縄
コミュニティセンター	-	ZEL	akta	-	ise	data	-	HACO	mabui
a 配布数	100	172	95	160	79	142	124	104	77
b 受検者アンケート回答者数	101	180	118	178	71	103	141	106	50
c 利用者数: 郵送検査会社での受付数	79	133	79	137	60	87	84	68	42
利用率: 配布数に占める利用者数(c/a)	79.0%	77.3%	83.2%	85.6%	75.9%	61.3%	67.7%	65.4%	54.5%
d 結果確認者数: 結果画面のログイン記録 (割合 d/c)	72 ( 91.1%)	128 ( 96.2%)	74 ( 93.7%)	131 ( 95.6%)	58 ( 96.7%)	84 ( 96.6%)	84 ( 100%)	66 ( 97.1%)	39 ( 92.9%)
<b>抗体検査結果</b>	*重複感染 (1名)		*重複感染 (1名)		*重複感染 (1名)		*重複感染 (1名)		*重複感染 (1名)
e HIV感染症									
e 判定不能者数 (割合 e/c)	1 ( 1.3%)	3 ( 2.3%)	0 ( 0.0%)	4 ( 2.9%)	0 ( 0.0%)	1 ( 1.1%)	0 ( 0.0%)	1 ( 1.5%)	1 ( 2.4%)
f 陽性数 (割合 f/c)	2 ( 2.6%)	2 ( 1.5%)	1 ( 1.3%)	3 ( 2.3%)	0 ( 0.0%)	2 ( 2.3%)	0 ( 0.0%)	1 ( 1.5%)	1 ( 2.4%)
推定新規陽性者数 (新規陽性率) *	2.3 ( 2.9%)	1.4 ( 1.1%)	1.2 ( 1.5%)	3.5 ( 2.6%)	0.0 ( 0.0%)	2.5 ( 2.9%)	0.0 ( 0.0%)	1.1 ( 1.6%)	1.5 ( 3.6%)
g 梅毒									
g 判定不能者数 (割合 g/c)	5 ( 6.3%)	9 ( 6.8%)	3 ( 3.8%)	4 ( 2.9%)	1 ( 1.7%)	1 ( 1.1%)	2 ( 2.4%)	1 ( 1.5%)	3 ( 7.1%)
h 陽性数 (割合 h/c)	15 ( 20.3%)	8 ( 6.5%)	15 ( 19.7%)	27 ( 20.3%)	7 ( 11.9%)	14 ( 16.3%)	13 ( 15.9%)	6 ( 9.0%)	8 ( 20.5%)
推定新規陽性者数 (新規陽性率) *	3.3 ( 4.4%)	1.4 ( 1.1%)	6.7 ( 8.8%)	9.0 ( 6.8%)	2.5 ( 4.2%)	6.4 ( 7.4%)	4.3 ( 5.2%)	2.1 ( 3.2%)	5.6 ( 14.3%)
i 追跡可能者数: 無料ID使用者数 (割合 i/c)	73 ( 92.4%)	96 ( 72.2%)	71 ( 89.9%)	121 ( 88.3%)	49 ( 81.7%)	69 ( 79.3%)	59 ( 70.2%)	64 ( 94.1%)	29 ( 69.0%)
j 追跡可能者実数: 無料ID使用者実数 (割合 j/c) **	68 ( 86.1%)	91 ( 68.4%)	68 ( 86.1%)	117 ( 85.4%)	48 ( 80.0%)	68 ( 78.2%)	58 ( 69.0%)	63 ( 92.6%)	28 ( 66.7%)

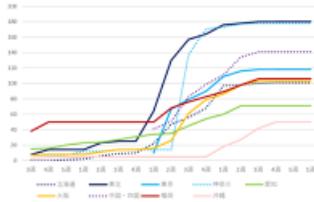
\* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、(利用者数-判定不能者数)に算じた。 \*\* i)追跡可能者実数は、h)追跡可能者数から判定不能だった人(22名)を除いたもの。\*\*\* すべての集計より再受検(2名)の重複は除いた。



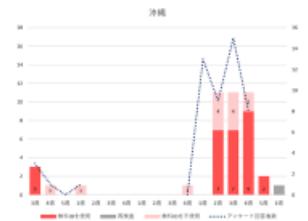
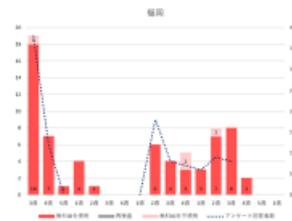
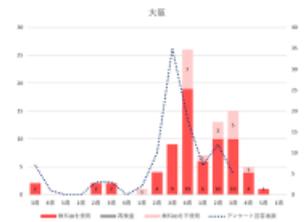
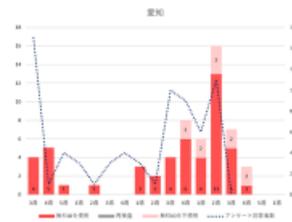
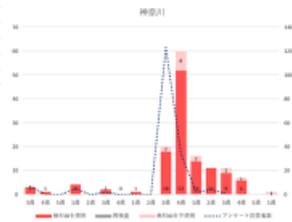
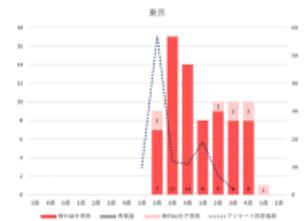
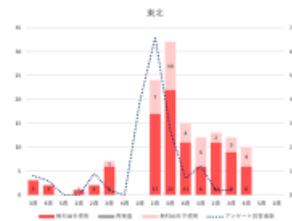
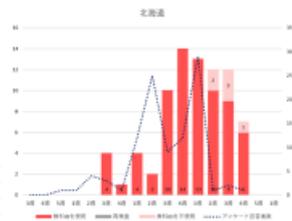
## 各地域の状況

2020年12月14日~2021年4月9日

↓ 週数の アンケート回答者数の推移  
メモリは(人),累計。



↑ 週数の推移  
メモリは(人),地域別に異なる。



## 北海道における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：国見亮佑（にじいろほっかいどう）

### 研究要旨

道内 5 か所で配布場所を設定し、WEB 配布も組み合わせ、総計 100 キットを配布した。会場を借りての 5 か所での対面配布で 86 件配布した。

アンケートに回答したものは 101 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 79 名であった。91.1%が結果サイトにログインしていた。

HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 15 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 79 名のうち、73 名（92.4%）はアンケート結果 ID との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 73 名の属性については、35 歳未満が 42.5%を占めた。北海道の居住者が 100%であった。これまでの検査経験がなかったものは 26.0%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 72.6%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 49.3%を占めた。

今回は初めての取り組みであったが、当事者団体 2 団体が協力し、道内広域にわたる配布会が実施できた。また広報については仙台地域とも連携できることで効果を発揮できた。

### A. 研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。

また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。北海道地域では、会場を借りての対面配布と WEB にて配布する方式を組み合わせで実施した。

### B. 研究方法

帯広、札幌、北見、釧路、旭川の計 5 か所、12 日間にわたる配布会を設定した。

当初は、にじいろほっかいどうで 4 会場での配布を考えていたが、発注したキットが多かったこと、レッドリボンさっぽろの協力を得られたことなどから、配布回数を増やした。

受け取り希望者には、google フォームの申し込みサイトを作成し、そのサイトから申し込

みをしてもらい、研究協力者が申し込み内容を確認した上で、検査時間や場所、アンケートの協力の依頼をメールで送信した。パソコンからのメールが届かないトラブルがあったので、携帯電話番号を任意で記入してもらうことにした。

広報については、初めの段階では、にじいろほっかいどうの公式サイトと twitter で告知していた。札幌での配布のときには、コミュニティ内の有力者に拡散を依頼した。

2 月 6 日～12 日に東北と北海道で連携したかたちで、アプリ広告を出し、その後研究班独自の広報サイトでの広報に移行させた。3 月の札幌・旭川での配布の前にゲイ向け商業施設へポスターを郵送した。

会場でアンケート QR コードを提示し、自分のスマートフォンから答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後にキットを受け渡す方法をとった。

相談については、キット対面での配布時もスタッフが常駐して対応、また WEB 配布分について、利用方法等、相談があった際は、メールで

対応を行った。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

## C. 研究結果

### 1) 検査キットの配布日・配布件数

対面では、1月17日から3月14日にかけて計12日間、5か所で配布した。申込者は総計101名、受け取り者は86名、HIV検査が生涯初と回答したものは25名であった。北見、釧路、帯広は初受検者が多かった。(資料参照)

アプリ広告の効果は大きかった。特に旭川の保健所で検査提供が停止している背景から、申込者が多かった。

検査キットを持ち帰った者から血液が取れないという相談があり、検査会社に連絡し、相談者の対応に繋げることができた。

表1 郵送検査利用者の概要

	地域	北海道
	CBO	にじいろ ほっかいどう
	コミュニティセンター	-
a 配布数		100
b 受検者アンケート回答者数		101
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		79
利用率；配布数に占める利用者数(c/a)		79.0%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録 (割合 d/c)	72 ( 91.1%)	
<b>抗体検査結果</b>		*重複感染 (1名)
<input type="checkbox"/> HIV感染症		
e 判定不能者数 (割合 e/c)	1 ( 1.3%)	
f 陽性数 (割合 f/c)	2 ( 2.6%)	
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *	2.3 ( 2.9%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒		
g 判定不能者数 (割合 g/c)	5 ( 6.3%)	
h 陽性数 (割合 h/c)	15 ( 20.3%)	
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *	3.3 ( 4.4%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数 (割合 i/c)	73 ( 92.4%)	
j 追跡可能者実数；無料ID使用者実数 (割合 j/c) **	68 ( 86.1%)	

\* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、(利用者数-判定不能者数)に乘じて求めた。

\*\* j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

\*\*\* すべての集計より再受検の重複は除いた。

### 2) 検体の送付状況とアンケートの結果

道内5か所で配布場所を設定し、WEB配布も組み合わせ、総計100キットを配布した。会場を借りての5か所での対面配布で86件配布した。

アンケートに回答したものは101名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは79名であった。91.1%が結果サイトにログ

インしていた。

HIV陽性件数は2件、梅毒の陽性件数は15件(既往歴も含む)であった。検体を郵送した79名のうち、73名(92.4%)はアンケート結果IDとの連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者73名の属性については、35歳未満が42.5%を占めた。北海道の居住者が100%であった。これまでの検査経験がなかったものは26.0%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち72.6%であった。

MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことを全く、あるいはあまり知らなかった人は49.3%を占めた。

## D. 考察

今年度は新型コロナウイルスの影響で、保健所でのHIV検査が休止になり、定期的に保健所で検査を受けていた人が、キットを受け取りに来ることがあった。

東北・北海道広域連携のアプリ広告は、北海道地域でも申し込み件数増加に効果が高かった。HIV郵送検査キットの配布のお知らせが全面に出ていたため、申し込みやすかったのではないかと考えられる。にじいろほっかいどうのみならず、札幌で長く活動しているNPO法人レッドリボンさっぽろとも協働できたことで、北海道内でのHIV予防啓発の活性化につながったと考えられた。今後は、札幌の中心地であるすすき野で配布してほしいという希望が商業施設オーナーより寄せられた。

MSM ALL JAPANのメンバーからも、配布の進め方を相談したり、啓発資材を供与してもらい、受検者に説明する内容を相談したり、連携、協力ができたことが非常に有意義であった。

## E. 結論

北海道地域で、にじいろほっかいどうとレッドリボンさっぽろの2つの団体が協働し、ゆうそう検査キットの配布を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の中、状況が読めない状況が続く中、100キットの配布ができた。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, AIDS

Care, 2020.

DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339

- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに來場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. 日本エイズ学会誌, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. 日本エイズ学会誌, 23(1), 18-25, 2021.
- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. 日本エイズ学会誌, 22(3), 136-146, 2020

## 2. 学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwashita Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection(HIV Glasgow 2020), Glasgow, 2020.

## 3. 学会発表 (国内)

- 1) 井上洋士、後藤大輔、船石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代: 成人前期 (20 歳代) MSM での性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

## G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

表1 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動

	アンケート回答のみ		検査利用		合計		Pearson カイ2乗	
	n=28		n=73		n=101			
<b>年齢階級</b>								
	24歳以下	8	28.6%	10	13.7%	18	17.8%	0.27
	25-34歳	9	32.1%	21	28.8%	30	29.7%	
	35-44歳	6	21.4%	24	32.9%	30	29.7%	
	45歳以上	5	17.9%	18	24.7%	23	22.8%	
<b>国籍</b>								
	日本	28	100.0%	73	100.0%	101	100.0%	-
	海外	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>居住地</b>								
	北海道	28	100.0%	73	100.0%	101	100.0%	-
<b>性別</b>								
	男性	28	100.0%	72	98.6%	100	99.0%	1.00
	女性	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
	トランスジェンダー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>セクシュアリティ</b>								
	ゲイ（男性同性愛者）	20	71.4%	53	72.6%	73	72.3%	0.58
	バイセクシュアル（両性愛者）	6	21.4%	18	24.7%	24	23.8%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	2	7.1%	2	2.7%	4	4.0%	
<b>居住形態</b>								
	独居	12	42.9%	41	56.2%	53	52.5%	0.27
	同居	16	57.1%	32	43.8%	48	47.5%	
	定住先はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	17	60.7%	54	74.0%	71	70.3%	0.23
	ない（今回が初めての検査）	11	39.3%	19	26.0%	30	29.7%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	9	32.1%	20	27.4%	29	28.7%	0.63
	ない	19	67.9%	53	72.6%	72	71.3%	
<b>過去1年の受検場所<sup>1)</sup>（複数回答）</b>								
	保健所	8	28.6%	17	23.3%	25	24.8%	0.61
	病院/クリニック	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	郵送検査	1	3.6%	3	4.1%	4	4.0%	1.00
	その他	1	3.6%	1	1.4%	2	2.0%	
<b>過去6カ月間の利用施設（複数回答）</b>								
	ゲイバー	13	46.4%	21	28.8%	34	33.7%	0.11
	ゲイイベント	1	3.6%	1	1.4%	2	2.0%	
	ゲイショップ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
	有料のハッテン場	4	14.3%	19	26.0%	23	22.8%	
	野外のハッテン場	0	0.0%	11	15.1%	11	10.9%	0.03
	いずれもない	13	46.4%	36	49.3%	49	48.5%	

1) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表2 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動

	アンケート回答のみ n=28		検査利用 n=73		合計 n=101		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく/少し知っている	15	53.6%	37	50.7%	52	51.5%	0.83
全く/あまり知らない	13	46.4%	36	49.3%	49	48.5%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	25	89.3%	64	87.7%	89	88.1%	1.00
ない	3	10.7%	9	12.3%	12	11.9%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	10	35.7%	14	19.2%	24	23.8%	0.12
友達やセクフレ	16	57.1%	44	60.3%	60	59.4%	0.82
その場限りの相手	11	39.3%	28	38.4%	39	38.6%	1.00
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	20	71.4%	47	64.4%	67	66.3%	0.64
ない	8	28.6%	26	35.6%	34	33.7%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	4	14.3%	22	30.1%	26	25.7%	0.13
ない	24	85.7%	51	69.9%	75	74.3%	
過去6か月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	5	17.9%	16	21.9%	21	20.8%	0.79
ない	23	82.1%	57	78.1%	80	79.2%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	1	3.6%	2	2.7%	3	3.0%	1.00
ない	27	96.4%	71	97.3%	98	97.0%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	0	0.0%	4	5.5%	4	4.0%	0.57
ない	28	100.0%	69	94.5%	97	96.0%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
ない	28	100.0%	73	100.0%	101	100.0%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	22	78.6%	57	78.1%	79	78.2%	0.97
常用	3	10.7%	7	9.6%	10	9.9%	
過去6ヶ月間にない	3	10.7%	9	12.3%	12	11.9%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	21	75.0%	41	56.2%	62	61.4%	0.11
知らない	7	25.0%	32	43.8%	39	38.6%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	3	10.7%	4	5.5%	7	6.9%	0.19
服薬したい/どちらかといえば	18	64.3%	37	50.7%	55	54.5%	
知らない	7	25.0%	32	43.8%	39	38.6%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	1	3.6%	0	0.0%	1	1.0%	0.28
ない	27	96.4%	73	100.0%	100	99.0%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	2	7.1%	12	16.4%	14	13.9%	0.34
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
B型肝炎	0	0.0%	2	2.7%	2	2.0%	1.00
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	0	0.0%	9	12.3%	9	8.9%	0.06
尖圭コンジローマ	1	3.6%	4	5.5%	5	5.0%	1.00
淋病	0	0.0%	2	2.7%	2	2.0%	1.00
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
毛じらみ	3	10.7%	18	24.7%	21	20.8%	0.17
性器ヘルペス	2	7.1%	4	5.5%	6	5.9%	0.67
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
いずれもない	22	78.6%	38	52.1%	60	59.4%	0.02

資料 郵送検査の配布概要

	配布場所	配布日	配布 担当者数	申込者数	受取者数	HIV 検査初
①	帯広 1 (とちちプラザ)	1/17、22	1名	8名	8名	2名
②	札幌 1 (中央区民センター)	2/6	3名	17名	12名	2名
③	北見 (北見芸術文化センター)	2/12、13	1名	8名	8名	4名
④	釧路 (釧路市生涯学習センター)	2/20、21	1名	5名	5名	2名
⑤	旭川 1 (旭川市民文化会館)	2/21	3名	15名	12名	4名
⑥	帯広 2 (とちちプラザ)	2/23、27	1名	14名	13名	7名
⑦	札幌 2 (中央区民センター)	3/6	2名	16名	14名	0名
⑧	札幌 3 (商業施設)	3/6	1名	12名	12名	4名
⑨	旭川 2 (旭川市市民活動センター)	3/14	2名	6名	2名	0名
計	道内 5 箇所	12 日間		101 名	86 名	25 名

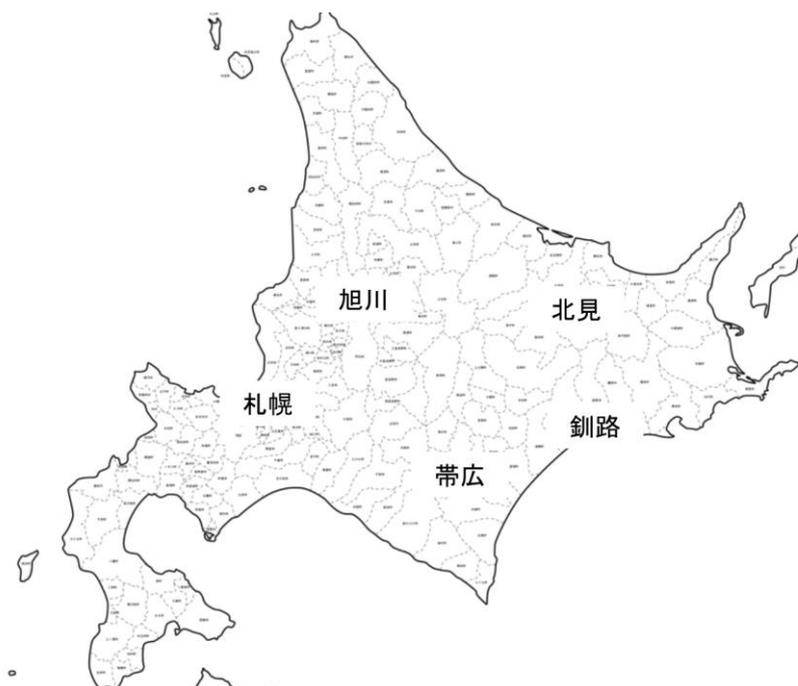
\* 参考 道内の地理

札幌から車で…

- ・旭川 約2時間
- ・帯広 約3時間
- ・北見・釧路 約5時間

各都市の人口

- ・札幌 約200万人
- ・旭川 約34万人
- ・帯広・釧路 約16万人
- ・北見 約11万人



## 東北における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：太田貴（やろっこ）

### 研究要旨

総計 172 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布 40 件、WEB での配布が 132 件であった。

アンケートに回答したものは 180 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 133 名であった。96.2%が結果サイトにログインしていた。

HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 8 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 133 名のうち、96 名（72.2%）はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 96 名の属性については、35 歳未満が 60.4%を占めた。宮城県の居住者が 57.3%、岩手県の居住者が 10.4%であった。青森県、山形県もそれぞれ 8.3%の利用があった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 28.1%であった。

過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 77.1%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 46.9%を占めた。

### A. 研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

東北地域では、自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査をコミュニティセンター ZEL での配布と WEB にて配布を行った。

### B. 研究方法

コミュニティセンター ZEL では、本ゆうそう検査に関する説明事項を含むメッセージをやるっこの公式 HP、ポスター、4 種類の SNS、ブログ、フリーペーパーと公式 Twitter 等の SNS で配信した。またゲイ向けアプリの起動時広告も活用した。また北海道地域とも連携し、アプリ広告を活用した広報を行った。

検査キット受け取り希望者はコミュニティ

センターに直接来館し、その場でアンケート QR コードを提示し、自分のスマートフォンから答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後に受け渡す方法をとった。

また、インターネット上の広報からアンケートページにつなぎ、その後、郵送検査の自宅・郵便局での受け取りのページに進める WEB 完結型の方法を併用した。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

### C. 研究結果

1) 検査キットの配布日・配布件数

①対面配布

第 1 期：

2020 年 12 月 18 日から 1 月 18 日の 9 回  
配布キット数 23 セット

第 2 期：

2021 年 2 月 11 日から 2 月 14 日の 4 回  
配布キット数 17 セット

\*会場の受け取りは 17 件：ほとんどが宮城県、

仙台居住者であった。

## ②WEB 配布

2月1日から3月15日

配布キット数 132セット

受け取り方法: 自宅または郵便局で受け取り

\* 仙台市以外の居住者では、自宅・郵便局受け取りのニーズが高い。

表1 郵送検査利用者の概要

	地域	東北
	CBO	やるっこ
	コミュニティセンター	ZEL
a 配布数		172
b 受検者アンケート回答者数		180
c 利用者数; 郵送検査会社での受付数		133
利用率; 配布数に占める利用者数(c/a)		77.3%
d 結果確認者数; 結果画面のログイン記録 (割合 d/c)	128	( 96.2% )
<b>抗体検査結果</b>		
<input type="checkbox"/> HIV感染症		
e 判定不能者数 (割合 e/c)	3	( 2.3% )
f 陽性数 (割合 f/c)	2	( 1.5% )
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *	1.4	( 1.1% )
<input type="checkbox"/> 梅毒		
g 判定不能者数 (割合 g/c)	9	( 6.8% )
h 陽性数 (割合 h/c)	8	( 6.5% )
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *	1.4	( 1.1% )
i 追跡可能者数; 無料ID使用者数 (割合 i/c)	96	( 72.2% )
j 追跡可能者実数; 無料ID使用者実数 (割合 j/c) **	91	( 68.4% )

\* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、(利用者数-判定不能者数) に乗じて求めた。

\*\* j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

\*\*\* すべての集計より再受検の重複は除いた。

## 2) 検体の送付状況とアンケートの結果

総計 172 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布 40 件、WEB での配布が 132 件であった。

アンケートに回答したものは 180 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 133 名であった。96.2%が結果サイトにログインしていた。

HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 8 件 (既往歴も含む) であった。スクリーニング陽性者 1 名の相談を受け付け、郵送検査の紹介状では医療機関に受診できないという事態に対応を行った。最終的には、検査提供会社や医療機関とも連絡を取り合いながら、受診可能な HIV 診療機関を紹介し、つなぐことができた。検査証明書は無記名で発行していたが、本来名前の記載が必要であることも明らかとなった。

外国籍者から、スクリーニング陽性 (確認検

査)の意味を確認したいと相談があった。また、医療機関の選択について、本人の希望を聞きながら対応を行った。

検体を郵送した 133 名のうち、96 名 (72.2%) はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 96 名の属性については、35 歳未満が 60.4% を占めた。宮城県の居住者が 57.3%、岩手県の居住者が 10.4% であった。青森県、山形県もそれぞれ 8.3% の利用があった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 28.1% であった。

過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 77.1% であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 46.9% を占めた。

## D. 考察

今年度は新型コロナウイルスの影響で、保健所での HIV 検査が休止になり、定期的に保健所で検査を受けていた人が、キットを受け取りに来ることがあった。

会場配布は第 1 期・第 2 期合計で 40 件であった。ZEL 利用者のみならず、初来館のものも総計 30 名いた。検査キットの会場配布がコミュニティセンターへの来館促進につながったと考えられた。アプリ広告は効果があり、1 週間で 1500 件の閲覧があった。

また東北地域は広範囲であるため、会場へのアクセスにも課題がある。そのため、自宅・郵便局受け取りのニーズが高いことが明らかとなった。

またこの配布の機会を通じて、キット受け取り者の多様な相談対応につながった。具体的には、PrEP、U=U、陽性判明時の相談、梅毒の治療などの相談が寄せられた。

## E. 結論

東北地域で、ゆうそう検査キットの配布を実施した。ゆうそう検査キットをほぼ計画通りに実施できた。特に WEB での申し込み、郵便局での受け取りニーズが高いことが明らかとなった。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, AIDS

Care, 2020.

DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339

- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに來場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. 日本エイズ学会誌, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. 日本エイズ学会誌, 23(1), 18-25, 2021.
- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. 日本エイズ学会誌, 22(3), 136-146, 2020

## 2. 学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwashita Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection(HIV Glasgow 2020), Glasgow, 2020.

## 3. 学会発表 (国内)

- 1) 井上洋士、後藤大輔、船石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代: 成人前期 (20 歳代) MSM での性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

## G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

表1 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動

	アンケート回答のみ		検査利用		合計		Pearson カイ2乗	
	n=84		n=96		n=180			
<b>年齢階級</b>								
	24歳以下	10	11.9%	13	13.5%	23	12.8%	0.46
	25-34歳	31	36.9%	45	46.9%	76	42.2%	
	35-44歳	27	32.1%	25	26.0%	52	28.9%	
	45歳以上	16	19.0%	13	13.5%	29	16.1%	
<b>国籍<sup>1)</sup></b>								
	日本	83	98.8%	94	97.9%	177	98.3%	1.00
	海外	1	1.2%	2	2.1%	3	1.7%	
<b>居住地</b>								
	北海道	1	1.2%	3	3.1%	4	2.2%	0.63
	青森県	8	9.5%	8	8.3%	16	8.9%	
	岩手県	6	7.1%	10	10.4%	16	8.9%	
	宮城県	42	50.0%	55	57.3%	97	53.9%	
	秋田県	4	4.8%	1	1.0%	5	2.8%	
	山形県	7	8.3%	8	8.3%	15	8.3%	
	福島県	10	11.9%	4	4.2%	14	7.8%	
	茨城県	0	0.0%	1	1.0%	1	0.6%	
	千葉県	1	1.2%	1	1.0%	2	1.1%	
	東京都	1	1.2%	2	2.1%	3	1.7%	
	新潟県	1	1.2%	1	1.0%	2	1.1%	
	京都府	0	0.0%	1	1.0%	1	0.6%	
	大阪府	1	1.2%	1	1.0%	2	1.1%	
	兵庫県	1	1.2%	0	0.0%	1	0.6%	
	広島県	1	1.2%	0	0.0%	1	0.6%	
<b>性別</b>								
	男性	84	100.0%	96	100.0%	180	100.0%	-
	女性	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	トランスジェンダー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>セクシュアリティ</b>								
	ゲイ（男性同性愛者）	61	72.6%	70	72.9%	131	72.8%	0.99
	バイセクシュアル（両性愛者）	21	25.0%	24	25.0%	45	25.0%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	2	2.4%	2	2.1%	4	2.2%	
<b>居住形態</b>								
	独居	49	58.3%	61	63.5%	110	61.1%	0.54
	同居	35	41.7%	35	36.5%	70	38.9%	
	定住先はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	55	65.5%	69	71.9%	124	68.9%	0.42
	ない（今回が初めての検査）	29	34.5%	27	28.1%	56	31.1%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	22	26.2%	22	22.9%	44	24.4%	0.73
	ない	62	73.8%	74	77.1%	136	75.6%	
<b>過去1年の受検場所<sup>2)</sup>（複数回答）</b>								
	保健所	14	16.7%	16	16.7%	30	16.7%	1.00
	病院/クリニック	5	6.0%	3	3.1%	8	4.4%	
	郵送検査	5	6.0%	4	4.2%	9	5.0%	
	その他	2	2.4%	1	1.0%	3	1.7%	
<b>過去6カ月間の利用施設（複数回答）</b>								
	ゲイバー	20	23.8%	25	26.0%	45	25.0%	0.86
	ゲイイベント	3	3.6%	2	2.1%	5	2.8%	
	ゲイショップ	4	4.8%	2	2.1%	6	3.3%	
	有料のハッテン場	18	21.4%	12	12.5%	30	16.7%	
	野外のハッテン場	11	13.1%	9	9.4%	20	11.1%	
	いずれもない	50	59.5%	60	62.5%	110	61.1%	
							0.76	

1) 海外の内訳は、アジア；中国、スリランカ 欧米；オーストラリア。

2) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表2 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動

	アンケート回答のみ n=84		検査利用 n=96		合計 n=180		Pearson カイ2乗	
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？								
よく/少し知っている	43	51.2%	51	53.1%	94	52.2%	0.88	
全く/あまり知らない	41	48.8%	45	46.9%	86	47.8%		
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？								
ある	72	85.7%	76	79.2%	148	82.2%	0.33	
ない	12	14.3%	20	20.8%	32	17.8%		
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）								
彼氏や恋人	16	19.0%	21	21.9%	37	20.6%	0.71	
友達やセクフレ	49	58.3%	55	57.3%	104	57.8%	1.00	
その場限りの相手	37	44.0%	34	35.4%	71	39.4%	0.29	
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験								
ある	65	77.4%	61	63.5%	126	70.0%	0.05	
ない	19	22.6%	35	36.5%	54	30.0%		
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験								
ある	18	21.4%	15	15.6%	33	18.3%	0.34	
ない	66	78.6%	81	84.4%	147	81.7%		
過去6か月間の複数人（3人以上）でのセックス経験								
ある	14	16.7%	7	7.3%	21	11.7%	0.06	
ない	70	83.3%	89	92.7%	159	88.3%		
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験								
ある	6	7.1%	1	1.0%	7	3.9%	0.05	
ない	78	92.9%	95	99.0%	173	96.1%		
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験								
ある	2	2.4%	2	2.1%	4	2.2%	1.00	
ない	82	97.6%	94	97.9%	176	97.8%		
過去6か月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験								
ある	2	2.4%	1	1.0%	3	1.7%	0.60	
ない	82	97.6%	95	99.0%	177	98.3%		
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用								
非常用	62	73.8%	55	57.3%	117	65.0%	0.06	
常用	10	11.9%	21	21.9%	31	17.2%		
過去6ヶ月間にない	12	14.3%	20	20.8%	32	17.8%		
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知								
知っている	49	58.3%	63	65.6%	112	62.2%	0.36	
知らない	35	41.7%	33	34.4%	68	37.8%		
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図								
服薬したくない/どちらかといえば	3	3.6%	10	10.4%	13	7.2%	0.17	
服薬したい/どちらかといえば	46	54.8%	53	55.2%	99	55.0%		
知らない	35	41.7%	33	34.4%	68	37.8%		
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験								
ある	6	7.1%	3	3.1%	9	5.0%	0.31	
ない	78	92.9%	93	96.9%	171	95.0%		
性感染症既往（複数回答）								
梅毒	4	4.8%	6	6.3%	10	5.6%	0.75	
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-	
B型肝炎	3	3.6%	3	3.1%	6	3.3%	1.00	
C型肝炎	0	0.0%	1	1.0%	1	0.6%	1.00	
クラミジア	5	6.0%	11	11.5%	16	8.9%	0.29	
尖圭コンジローマ	4	4.8%	5	5.2%	9	5.0%	1.00	
淋病	3	3.6%	3	3.1%	6	3.3%	1.00	
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-	
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-	
毛じらみ	16	19.0%	19	19.8%	35	19.4%	1.00	
性器ヘルペス	2	2.4%	1	1.0%	3	1.7%	0.60	
その他	1	1.2%	1	1.0%	2	1.1%	1.00	
いずれもない	62	73.8%	56	58.3%	118	65.6%	0.04	

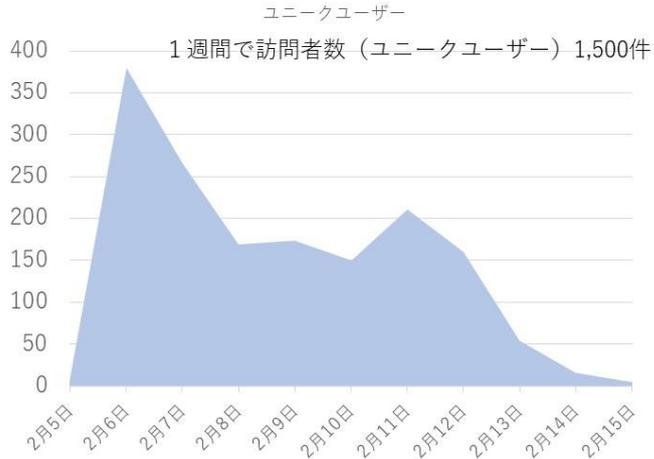
## ゲイ向けアプリ9monstersの起動時広告の効果

**北海道&東北**

**HIV・梅毒 郵送検査キット無料配布**

北見	2/12(金)夜間	・2/13(土)午後
釧路	2/20(土)午後	・2/21(日)午後
旭川	2/21(日)午後	・3/14(日)午後
帯広	2/23(火祝)午後	・2/27(土)午後
仙台	2/11(木祝)~2/14(日)	郵送検査 OK

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
 〒050-0001 北海道札幌市中央区南一条西1-1-1  
 〒980-0001 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1



## 配布数 会場配布：community center ZEL

	日付	曜日	時間	配布数
第1期	12月18日	金	18:00-22:00	5
	12月19日	土	18:00-22:00	1
	12月20日	日	15:00-20:00	2
	12月21日	月	12:00-22:00	5
	12月27日	日	15:00-20:00	1
	1月15日	金	18:00-22:00	2
	1月16日	土	18:00-22:00	1
	1月17日	日	15:00-20:00	5
	1月18日	月	18:00-22:00	1
第2期	2月11日	木・祝	15:00-20:00	7
	2月12日	金	18:00-22:00	2
	2月13日	土	18:00-22:00	4
	2月14日	日	15:00-20:00	4
合計				40

ポスター SNS ホームページ  
ブログ

Twitter  
VERO  
Tumblr  
Instagram

フリーペーパー

仙台市内  
商業施設

+

北海道&東北  
ゲイ向けアプリ9monstersの起動時広告  
北海道・東北地域限定 1週間  
2月6日(土)~2月12日(金)

## 第2期 WEB受付も実施（自宅・郵便局での受取可に）



① 自宅or郵便局で受取  
2月1日～3月15日 132件  
※2月15日15時までで96件

② 会場受取  
2月11日～14日 17件

### 東北各県から仙台までの距離・時間の参考

青森市-仙台市	約360km	新幹線で2時間20分
秋田市-仙台市	約240km	新幹線で2時間30分
盛岡市-仙台市	約180km	新幹線で50分 車で2時間15分
山形市-仙台市	約60km	在来線で1時間10分 車で1時間
福島市-仙台市	約80km	新幹線で45分 車で1時間15分

## ゆうそう検査 東北総括

### ・会場配布は第1期・第2期合計で40件

- 第1期：ZEL利用者やその周りの人 23件（うちZEL初来館14人）
- 第2期：アプリ（9monsters利用者）17件（うちZEL初来館16人）

### ・検査キットの会場配布がコミュニティーセンターへの来館促進（40人中30人が初来館）

### ・会場配布より、自宅・郵便局受取のニーズが高い

（全体 会場:WEB = 40:132 第2期 会場:WEB = 17:132）

- 東北という広範囲のため会場へのアクセスが影響？

### ・多様な相談につながった

- PrEP、U=U、陽性判明時の相談、梅毒の治療など

## 首都圏における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）  
研究協力者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科）  
岩橋恒太 木南拓也、藤原孝大、鈴木敦大 荒木順（特定非営利活動法人 akta）  
星野慎二、宮島謙介（特定非営利活動法人 SHIP）

### 研究要旨

#### 1. 東京地域

総計 95 キットを配布した。コミュニティセンター akta での対面配布のみであった。予約サイトを活用し、密を避けて受付対応を行った。アンケートに回答したものは 118 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 79 名であった。96.2% が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 1 件、梅毒の陽性件数は 15 件（既感染も含む）であった。陽性者は病院に受診が繋がったことを確認した。検体を郵送した 79 名のうち、71 名（89.9%）はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 71 名の属性については、35 歳未満が 52.2% を占めた。東京都の居住者が 73.2% であった。生涯初の検査経験割合は 8.5% であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 56.3% であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 33.8% を占めた。

#### 2. 神奈川地域

総計 160 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布 75 件、WEB での配布が 85 件であった。貸し会議室等の配布会場を借りるなどし、密を避けて受付対応を行った。

アンケートに回答したものは 178 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 137 名であった。95.6% が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 3 件（うち 1 件は確認検査受検の確認済み）、梅毒の陽性件数は 27 件（既感染も含む）であった。検体を郵送した 137 名のうち、121 名（88.3%）はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 71 名の属性については、35 歳未満が 46.3% を占めた。神奈川県内の居住者が 60.3%、東京都の居住者が 29.8% であった。生涯初の検査経験割合は 25.6% であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 66.9% であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 52.1% を占めた。

### A. 研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるが、保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コ

ロナ感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。そこで、東京地域では、自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受けるよう検査をコミュニティセンター akta での対面で配布した。神奈川地域では、コミュニテ

イセンター、貸し会議室等の会場を借りての対面配布、WEB 配布を実施した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間集中で配布し、検査普及における有効性の評価を行う。

## B. 研究方法

### 1. 東京地域

コミュニティセンターakta において、本プロジェクトに関する説明事項を含むウェブサイト <https://akta.jp/pt/> を開設した。コミュニティセンターでの対面型配布のみとした。公式ホームページ、公式 Twitter で広報を行った。

検査キット受け取り希望者はコミュニティセンターに直接来館し、その場でアンケートに答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後に受け渡す方法をとった。来場者には、①検査キット、②確認検査を受けられる施設情報シート、③アルバ作成 梅毒検査の意味、④ふれいす東京 サポート情報カード、⑤梅毒啓発資材、⑥南新宿移転についての情報、の 6 種類の資材を配布した。

なお、コロナ対策のため、予約制を採用し、ウェブの予約システムを導入して予約制。緊急事態宣言下のため、16～19 時で配布した。2 レーンで各人 15 分程度、1 日 24 枠とした。

### 2. 神奈川地域

コミュニティセンターでの対面型配布は 200 件を予定した。

かながわ県民センターの会場を借り、12 月～3 月まで 7 日間の配布予定を立てた。会場の予約時間は 17～21 時、配布受付時間 18～20 時とした。予約制をとることとし、WEB または電話による事前予約とした。2 週間前から 10 分間隔で時間指定予約できる仕組みとした。

緊急事態宣言のため、かながわ県民センターが 12 月と 1 月初回しか使用できず、他の会場を西区福祉保健活動拠点・フクシヤを借り、2 月末の 3 回に分けて配布した。

配布スタッフは、統括予約受付 1 名、配布担当としてもう 1 名を配置することとした。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

## C. 研究結果

### 1. 東京地域

#### 1) 検査キットの配布日・配布件数

2 月 15 日、22 日、3 月 1 日、8 日の 16 時～19 時

表 1 郵送検査利用者の概要（東京）

	地域	
	CBO	NPO法人akta
	コミュニティセンター	
a 配布数	95	
b 受検者アンケート回答者数	118	
c 利用者数；郵送検査会社での受付数	79	
利用率；配布数に占める利用者数(c/a)	83.2%	
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）	74 ( 93.7% )	
<b>抗体検査結果</b>		
<input type="checkbox"/> HIV感染症		
e 判定不能者数（割合 e/c）	0 ( 0.0% )	
f 陽性数（割合 f/c）	1 ( 1.3% )	
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	1.2 ( 1.5% )	
<input type="checkbox"/> 梅毒		
g 判定不能者数（割合 g/c）	3 ( 3.8% )	
h 陽性数（割合 h/c）	15 ( 19.7% )	
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	6.7 ( 8.8% )	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）	71 ( 89.9% )	
j 追跡可能者実数；無料ID使用者実数（割合 j/c）**	68 ( 86.1% )	

\* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

\*\* j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

\*\*\* すべての集計より再受検の重複は除いた。

#### 2) 検体の送付状況とアンケートの結果

アンケートに回答したものは 118 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 79 名であった。96.2%が結果サイトにログインしていた。

HIV 陽性件数は 1 件、梅毒の陽性件数は 15 件（既感染も含む）であった。陽性者は病院に受診が繋がったことを確認した。検体を郵送した 79 名のうち、71 名（89.9%）はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 71 名の属性については、35 歳未満が 52.2%を占めた。東京都の居住者が 73.2%であった。生涯初の検査経験割合は 8.5%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 56.3%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 33.8%を占めた。

#### 3) 実施しての振り返り

##### ①予約について

- ・ 予約制にすることで来る人数の想定がしやすかった。
- ・ 時間通りに来る人、”連絡なく”早く来すぎる人、15 分以上遅く来る人などコロナ

対策の意味が伝わっていないことを考えさせられた。

- ・ 予約できる開始日を開催日に近くする方がよい。
- ・ 今後は、遅い時間でも受け取れるようにするとよい。
- ・ アンケートで発行された ID を紛失してしまった方が来た。

## ②配布時の説明について

- ・ スムーズに終われば 5 分もかからなかったのですが、次回は 10 分で回せたらもう少し配れる人数も増える。
- ・ HIVcheck と同じと思っている人が数人いたので、HIVcheck との違いや、今回のゆうそう検査でのポイントを押さえて説明する必要を感じた。
- ・ 使う資料と説明する内容が多い。今回は全員が初回受け取りとなるため、丁寧な説明にしているが、次年度以降リピーター対応含め、短縮バージョンもあった方がいいと感じた。
- ・ 説明を欲している人もいれば欲していない人もいると感じた。丁寧に説明すればするほど滞在時間が長くなる。
- ・ 何らか以前も受けていることがわかる仕掛け(会員証のようなもの)をつくれなにかと思った。
- ・ 受付業務を事務スペース等で仕事をしながらできるぐらいに簡略化できると、より継続性のあるものになる→ipad を使用し、受付処理をする等が考えられる。
- ・ タブレットなどで極力簡略化する。
- ・ 滞日外国人の人から、ランセットの使用のところで理解度の確認の必要があった。
- ・ 結果までの日数は関心が高い
- ・ 梅毒の検査の意味についての関心も高い
- ・ アルバ側の確認検査が必要になった場合の表示内容について、班会議での各地域からの意見をもとに修正作業を行い対応できたのが良かった
- ・ 確認検査を受けられる場所として、クリニックの数を拡大した。全部で 17 施設の情報を紹介している。
- ・ 確認検査の説明で、確認検査まで無料を希望したものについては、都の検査室を案内した。

## ③相談について

- ・ 相談できる機会をどう考えるか、第何週という形で固定するか、常駐にするのか、な

ど。予約制でもニーズがあることがわかった

- ・ 今回は結果的に 1 人に固定となった。相談員の多様性もある方がよい。
- ・ HIVcheck のように相談員が今日は居ないけれど、相談したい場合はどうしたらよいか?という質問があった。

## ④コロナ対策・akta のレイアウトについて

- ・ スタッフが慣れると会場準備で忘れてしまうこともあるため、チェックリストを作成した
- ・ パーテーションの消毒。ペーパータオルでの消毒は、見た目が汚くなるため、何か他の方法で消毒できるとよい。
- ・ 二丁目や akta に久々に来てくれた人へ、akta にある情報をみてもらう工夫の検討が必要である。

## 4) 準備と配布のスケジュール

- ① 12 月 確認検査が必要になった場合のアルバ側表示ウェブサイトの内容を検討した。
- ② 1/21(木) 中四国でのクリニック検査を展開している川崎医科大 和田先生にクリニック検査について医療機関側とのコミュニケーションについてアドバイスをもらう
- ③ 1/29(金) ゆうそう検査キットが納品 → 検品
- ④ 1/31(日) 医療機関に確認検査先として紹介する手紙を発送
- ⑤ 2/5(金) akta ゆうそう検査 ウェブサイト・予約システム 校了 → SNS(twitter、facebook)での広報開始
- ⑥ 配布対応スタッフトレーニング①
- ⑦ 2/8(月) 配布対応スタッフトレーニング②(以後、各配布会前に練習時間を設ける)
- ⑧ 2/12(金) アプリ広告にポップアップバナー掲載を開始した。
- ⑨ 2/13(土) 予約分がすべてうまったため、急遽アプリ広告のバナーを取り下げした。
- ⑩ 2/14(日) アウトリーチ … 予約はうまってしまったが、二丁目にやっていることを説明するため実施した。
- ⑪ 2/15(月) 配布会を実施した。
- ⑫ 3/8 に臨時配布会を企画した。
- ⑬ 以後、2/22、3/1 に予定の配布会を実施。3/ 8 に臨時配布会を実施。

## 2. 神奈川地域

1) 検査キットの配布日時・配布件数

①かながわ県民センターでの配布

- ・ 第1回：12月18日（金） 定員16名、予約8名、配布7名
- ・ 第2回：1月8日（金） 定員16名、予約4名、配布3名
- ・ 感染対策として、配布テーブルが複数あり、1台は資材置き場で、2台は説明用として交互に使用した。コロナ対策のために一人の説明が終わるごとにテーブルを消毒した。

②西区福祉保健活動拠点・フクシヤでの配布

- ・ 第1回：2月21日（日） 定員27名、予約27名、配布22名
- ・ 第2回：2月23日（祝） 定員27名、予約24名、配布19名
- ・ 第3回：2月28日（日） 定員27名、予約21名、配布15名
- ・ 上記予約については、すぐ予約テイン枠が埋まる状況であった。

③SHIP にじいろキャビンでの配布

- ・ 第1回：3月8日（月）18:15～20:00 定員8名、予約1名、配布数1名
- ・ 第2回：3月9日（火）17:00～20:00 定員13名、予約3名、配布数3名

表2 郵送検査利用者の概要（神奈川）

	地域 神奈川	
	CBO	NPO法人SHIP コミュニティセンター
a 配布数	160	
b 受検者アンケート回答者数	178	
c 利用者数；郵送検査会社での受付数	137	
利用率；配布数に占める利用者数(c/a)	85.6%	
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）	131（95.6%）	
<b>抗体検査結果</b>		
*重複感染（1名）		
<input type="checkbox"/> HIV感染症		
e 判定不能者数（割合 e/c）	4（2.9%）	
f 陽性数（割合 f/c）	3（2.3%）	
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	3.5（2.6%）	
<input type="checkbox"/> 梅毒		
g 判定不能者数（割合 g/c）	4（2.9%）	
h 陽性数（割合 h/c）	27（20.3%）	
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	9.0（6.8%）	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）	121（88.3%）	
j 追跡可能者実数；無料ID使用者実数（割合 j/c）**	117（85.4%）	

\* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

\*\* j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

\*\*\* すべての集計より再受検の重複は除いた。

2) 検体の送付状況とアンケートの結果

アンケートに回答したものは178名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは137名であった。95.6%が結果サイトにログインしていた。HIV陽性件数は3件（うち1件は確認検査受検の確認済み）、梅毒の陽性件数は27件（既感染も含む）であった。検体を郵送した137名のうち、121名（88.3%）はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者71名の属性については、35歳未満が46.3%を占めた。神奈川県在住者が60.3%、東京都在住者が29.8%であった。生涯初の検査経験割合は25.6%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち66.9%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は52.1%を占めた。

3) 実施しての振り返り

スタッフが大事なところにポイントをしぼっての説明をされていたが説明のみでも7分程度必要であった。アンケートと動画をいれると、一人あたり15分程度必要であった。

当初は、ガイダンスの後でアンケートに答えてもらう予定であったが、待ち時間が生じてしまうため、途中から待ち時間にアンケートに回答してもらい、その後ガイダンスを行いキットの配布に変更した。

アンケートは対面でなくても回答できるため、今回はWEBで予約された時点で、アンケートのURLをメールでお送りし、事前に答えていただいても良いかと思われた。

キットの使い方のムービーを用意したが、スタッフがムービーを一緒にみながら、「温める・・・」「固定する・・・」などポイントを説明するとより分かりやすい上に、対面の良さが生かされてくると感じた。

検査キットをただ配布するだけだと、WEB配布方式のゆうそう検査キット受け取り枠に流れてしまうので、「なぜ今、対面で説明したうえでキットを配布しているか」という説明も最初に入れると良いと思われた。

確認検査の場所を、地域ごとにリストアップしておいたのが良いかと思う。その方が、判定保留になっても、その後確認検査を受けて医療機関にかかることできないと意味がないので、料金など丁寧に説明できるようにしておくのが大事と思われた。

梅毒の検査の説明は難しいので、今回はもう少し整理して臨む必要があった。

## D. 考察

### 1. 東京地域

今年度は新型コロナウイルスの影響で、保健所での HIV 検査が休止になったところもあり、定期的に保健所で検査を受けていた人が、キットを受け取りに来ることがあったと考えられる。

郵送検査の方法および確認検査を受ける場所への誘導について口頭で説明する必要があると考え、akta では対面で配布する方法をとった。受検者と直接接することで、検査方法を詳細に伝えることができ、問い合わせに対してもその場で答えることで、受検者に対して安心感を与えることができた。私たち自身も受検者がどのような疑問を持っているかを知ることができた。

保健所の検査提供が少なくなっていることもあり、予約枠はすぐ埋まる状況であった。アンケートから、生涯初の検査経験割合は 8.5% であり、他地域より検査経験者が多かった。今後、どのような層にこのゆうそう検査を届けるかを考え、ターゲットを絞った広報、検査提供を考える必要がある。また、東京都以外にも様々な居住地の MSM がキットを受け取りに来る可能性があり、遠方から取りに来たものについての対応も今後検討する必要がある。

### 2. 神奈川地域

初めて郵送検査キットを配布する試みを神奈川で実施した。主スタッフと臨時で本プロジェクトのために一人このプログラム専用のスタッフの協力を、また東京 akta からスタッフの応援を得て実施した。HIV 陽性が 3 名判明し、うち 1 名は受診したことが確認できた。これまで予防啓発が届いていなかった層を受検に結び付けた可能性がある。確認検査の受検が確認できていないスクリーニング陽性者について、確認検査受検につながったのか、医療につながったかその後の経過の追跡について課題が残った。

## E. 結論

東京地域では、HIVCheck を終えて 1 年以上あけての検査キットの配布を実施した。入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型に限定し不安を軽減する努力をし、95 件配布ができた。

神奈川地域では、総計 160 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布 75 件、WEB での配布が 85 件であった。貸し会議室等の配布会場を借りるなどし、密を避けて受付対応を行った。HIV 陽性が 3 名判明し、うち 1 名

は受診したことが確認できた。次年度以降、スクリーニング陽性者の医療へのつながりの向上のあり方についても検討する。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) ○Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020. DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) Ryohei Terao, Noriyo Kaneko (Equal contribution): Survey of School Nurses' Experiences of Providing Counselling on Sexual Orientation to High School Students in Japan. *International Journal of Adolescent Medicine and Health*, doi: 10.1515/ijamh-2019-0167. 2020.
- 3) ○金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 4) ○宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 5) ○金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020
- 6) 今橋真弓, 金子典代, 高橋良介, 石田敏彦, 横幕能行: 名古屋市無料匿名性感感染症検査会受検者における性感感染症既往認識と検査結果. *日本感染症学会誌*, 31(1), 2020. doi:10.24775/jjsti.S-2019-0003

### 2. 学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The

International Congress on Drug Therapy  
in HIV Infection(HIV Glasgow 2020),  
Glasgow, 2020.

### 3. 学会発表 (国内)

- 1) 金子典代:U=U をめぐる陽性者と HIV 予防対策と医療者のあり方について. 日本エイズ学会シンポジウム, 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 2) 林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野操、青木孝弘、瀧永博之、菊池嘉、岩橋恒太、金子典代: 乾燥ろ紙血による HIV Ag/Ab 郵送検査の検査ラボでの結果についての検討. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 3) 荒木順、金子典代、木南拓也、柴田恵、岩橋恒太、藤原孝大、鈴木敦大、小山輝道、高久道子、高久陽介、市川誠一、張由紀夫、生島嗣: ゲイバー等との連携による「LivingTogether のど自慢」の実践とその効果について. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 4) 井上洋士、後藤大輔、船石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代: 成人前期 (20 歳代) MSM での性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 5) 高橋良介、末盛慶、金子典代、石田敏彦: NLGR+への参加状況と HIV 抗体検査受検経験の関連性. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

### G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

表3 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動（東京）

	アンケート回答のみ		検査利用		合計		Pearson カイ2乗	
	n=47		n=71		n=118			
<b>年齢階級</b>								
	24歳以下	8	17.0%	6	8.5%	14	11.9%	0.28
	25-34歳	17	36.2%	31	43.7%	48	40.7%	
	35-44歳	9	19.1%	20	28.2%	29	24.6%	
	45歳以上	13	27.7%	14	19.7%	27	22.9%	
<b>国籍<sup>1)</sup></b>								
	日本	45	95.7%	67	94.4%	112	94.9%	1.00
	海外	2	4.3%	4	5.6%	6	5.1%	
<b>居住地</b>								
	群馬県	0	0.0%	1	1.4%	1	0.8%	0.06
	埼玉県	1	2.1%	9	12.7%	10	8.5%	
	千葉県	3	6.4%	4	5.6%	7	5.9%	
	東京都	33	70.2%	52	73.2%	85	72.0%	
	神奈川県	10	21.3%	5	7.0%	15	12.7%	
<b>性別<sup>2)</sup></b>								
	男性	46	97.9%	71	100.0%	117	99.2%	0.40
	女性	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	トランスジェンダー	1	2.1%	0	0.0%	1	0.8%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>セクシュアリティ</b>								
	ゲイ（男性同性愛者）	34	72.3%	62	87.3%	96	81.4%	0.05
	バイセクシュアル（両性愛者）	13	27.7%	9	12.7%	22	18.6%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>居住形態</b>								
	独居	30	63.8%	44	62.0%	74	62.7%	1.00
	同居	17	36.2%	27	38.0%	44	37.3%	
	定住先はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	35	74.5%	65	91.5%	100	84.7%	0.02
	ない（今回が初めての検査）	12	25.5%	6	8.5%	18	15.3%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	20	42.6%	31	43.7%	51	43.2%	1.00
	ない	27	57.4%	40	56.3%	67	56.8%	
<b>過去1年の受検場所<sup>3)</sup>（複数回答）</b>								
	保健所	4	8.5%	14	19.7%	18	15.3%	0.12
	病院/クリニック	4	8.5%	9	12.7%	13	11.0%	
	郵送検査	5	10.6%	6	8.5%	11	9.3%	
	その他	9	19.1%	6	8.5%	15	12.7%	
<b>過去6カ月間の利用施設（複数回答）</b>								
	ゲイバー	17	36.2%	24	33.8%	41	34.7%	0.85
	ゲイイベント	6	12.8%	5	7.0%	11	9.3%	
	ゲイショップ	5	10.6%	9	12.7%	14	11.9%	
	有料のハッテン場	18	38.3%	23	32.4%	41	34.7%	
	野外のハッテン場	6	12.8%	8	11.3%	14	11.9%	
	いずれもない	15	31.9%	24	33.8%	39	33.1%	

1) 海外の内訳は、アジア；台湾、韓国、タイ、インドネシア 欧米；フランス。

2) トランスジェンダーの内訳は、FTM。

3) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表4 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動（東京）

	アンケート回答のみ n=47		検査利用 n=71		合計 n=118		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく/少し知っている	27	57.4%	47	66.2%	74	62.7%	0.44
全く/あまり知らない	20	42.6%	24	33.8%	44	37.3%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	42	89.4%	69	97.2%	111	94.1%	0.11
ない	5	10.6%	2	2.8%	7	5.9%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	4	8.5%	11	15.5%	15	12.7%	0.40
友達やセクフレ	30	63.8%	50	70.4%	80	67.8%	0.55
その場限りの相手	30	63.8%	46	64.8%	76	64.4%	1.00
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	37	78.7%	65	91.5%	102	86.4%	0.06
ない	10	21.3%	6	8.5%	16	13.6%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	17	36.2%	26	36.6%	43	36.4%	1.00
ない	30	63.8%	45	63.4%	75	63.6%	
過去6か月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	11	23.4%	22	31.0%	33	28.0%	0.41
ない	36	76.6%	49	69.0%	85	72.0%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	6	12.8%	4	5.6%	10	8.5%	0.19
ない	41	87.2%	67	94.4%	108	91.5%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	4	8.5%	3	4.2%	7	5.9%	0.43
ない	43	91.5%	68	95.8%	111	94.1%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	0	0.0%	2	2.8%	2	1.7%	0.52
ない	47	100.0%	69	97.2%	116	98.3%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	33	70.2%	53	74.6%	86	72.9%	0.21
常用	9	19.1%	16	22.5%	25	21.2%	
過去6ヶ月間がない	5	10.6%	2	2.8%	7	5.9%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	39	83.0%	62	87.3%	101	85.6%	0.60
知らない	8	17.0%	9	12.7%	17	14.4%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	10	21.3%	10	14.1%	20	16.9%	0.41
服薬したい/どちらかといえば	29	61.7%	52	73.2%	81	68.6%	
知らない	8	17.0%	9	12.7%	17	14.4%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	5	10.6%	13	18.3%	18	15.3%	0.31
ない	42	89.4%	58	81.7%	100	84.7%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	7	14.9%	6	8.5%	13	11.0%	0.37
A型肝炎	1	2.1%	3	4.2%	4	3.4%	1.00
B型肝炎	2	4.3%	6	8.5%	8	6.8%	0.47
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	5	10.6%	9	12.7%	14	11.9%	1.00
尖圭コンジローマ	2	4.3%	9	12.7%	11	9.3%	0.20
淋病	6	12.8%	6	8.5%	12	10.2%	0.54
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
毛じらみ	17	36.2%	21	29.6%	38	32.2%	0.55
性器ヘルペス	3	6.4%	2	2.8%	5	4.2%	0.39
その他	0	0.0%	2	2.8%	2	1.7%	0.52
いずれもない	23	48.9%	31	43.7%	54	45.8%	0.71

表5 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動（神奈川）

	アンケート回答のみ		検査利用		合計		Pearson カイ2乗	
	n=57		n=121		n=178			
<b>年齢階級</b>								
	24歳以下	10	17.5%	12	9.9%	22	12.4%	0.17
	25-34歳	15	26.3%	44	36.4%	59	33.1%	
	35-44歳	17	29.8%	44	36.4%	64	34.3%	
	45歳以上	15	26.3%	21	17.4%	36	20.2%	
<b>国籍<sup>1)</sup></b>								
	日本	54	94.7%	115	95.0%	169	94.9%	1.00
	海外	3	5.3%	6	5.0%	9	5.1%	
<b>居住地</b>								
	茨城県	1	1.8%	0	0.0%	1	0.6%	0.11
	埼玉県	2	3.5%	4	3.3%	6	3.4%	
	千葉県	1	1.8%	7	5.8%	8	4.5%	
	東京都	16	28.1%	36	29.8%	52	29.2%	
	神奈川県	34	59.6%	73	60.3%	107	60.1%	
	静岡県	3	5.3%	0	0.0%	3	1.7%	
	兵庫県	0	0.0%	1	0.8%	1	0.6%	
<b>性別<sup>2)</sup></b>								
	男性	57	100.0%	119	98.3%	176	98.9%	1.00
	女性	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	トランスジェンダー	0	0.0%	2	1.7%	2	1.1%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>セクシュアリティ</b>								
	ゲイ（男性同性愛者）	48	84.2%	92	76.0%	140	78.7%	0.24
	バイセクシュアル（両性愛者）	9	15.8%	29	24.0%	38	21.3%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>居住形態</b>								
	独居	31	54.4%	76	62.8%	107	60.1%	0.33
	同居	26	45.6%	45	37.2%	71	39.9%	
	定住先はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	40	70.2%	90	74.4%	130	73.0%	0.59
	ない（今回が初めての検査）	17	29.8%	31	25.6%	48	27.0%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	20	35.1%	40	33.1%	60	33.7%	0.87
	ない	37	64.9%	81	66.9%	118	66.3%	
<b>過去1年の受検場所<sup>3)</sup>（複数回答）</b>								
	保健所	6	10.5%	19	15.7%	25	14.0%	0.49
	病院/クリニック	7	12.3%	9	7.4%	16	9.0%	
	郵送検査	4	7.0%	5	4.1%	9	5.1%	
	その他	6	10.5%	14	11.6%	20	11.2%	
<b>過去6か月間の利用施設（複数回答）</b>								
	ゲイバー	8	14.0%	27	22.3%	35	19.7%	0.23
	ゲイイベント	1	1.8%	3	2.5%	4	2.2%	
	ゲイショップ	4	7.0%	10	8.3%	14	7.9%	
	有料のハッテン場	19	33.3%	41	33.9%	60	33.7%	
	野外のハッテン場	9	15.8%	7	5.8%	16	9.0%	
	いずれもない	29	50.9%	62	51.2%	91	51.1%	

1) 海外の内訳は、アジア；中国、韓国、ベトナム、フィリピン 欧米；アメリカ。

2) トランスジェンダーの内訳は、MTF、FTM。

3) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表6 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動 (神奈川県)

	アンケート回答のみ n=57		検査利用 n=121		合計 n=178		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく/少し知っている	32	56.1%	58	47.9%	90	50.6%	0.34
全く/あまり知らない	25	43.9%	63	52.1%	88	49.4%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	51	89.5%	114	94.2%	165	92.7%	0.35
ない	6	10.5%	7	5.8%	13	7.3%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？ (複数回答)							
彼氏や恋人	15	26.3%	28	23.1%	43	24.2%	0.71
友達やセクフレ	32	56.1%	76	62.8%	108	60.7%	0.42
その場限りの相手	31	54.4%	57	47.1%	88	49.4%	0.42
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	46	80.7%	96	79.3%	142	79.8%	1.00
ない	11	19.3%	25	20.7%	36	20.2%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	20	35.1%	34	28.1%	54	30.3%	0.38
ない	37	64.9%	87	71.9%	124	69.7%	
過去6か月間の複数人 (3人以上) でのセックス経験							
ある	11	19.3%	26	21.5%	37	20.8%	0.84
ない	46	80.7%	95	78.5%	141	79.2%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	0	0.0%	6	5.0%	6	3.4%	0.18
ない	57	100.0%	115	95.0%	172	96.6%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	2	3.5%	2	1.7%	4	2.2%	0.59
ない	55	96.5%	119	98.3%	174	97.8%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ (ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ) 使用経験							
ある	0	0.0%	2	1.7%	2	1.1%	1.00
ない	57	100.0%	119	98.3%	176	98.9%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	44	77.2%	83	68.6%	127	71.3%	0.09
常用	7	12.3%	31	25.6%	38	21.3%	
過去6ヶ月間がない	6	10.5%	7	5.8%	13	7.3%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP, プレップ) 」認知							
知っている	39	68.4%	85	70.2%	124	69.7%	0.86
知らない	18	31.6%	36	29.8%	54	30.3%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP, プレップ) 」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	5	8.8%	15	12.4%	20	11.2%	0.77
服薬したい/どちらかといえば	34	59.6%	70	57.9%	104	58.4%	
知らない	18	31.6%	36	29.8%	54	30.3%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP, プレップ) 」使用経験							
ある	4	7.0%	8	6.6%	12	6.7%	1.00
ない	53	93.0%	113	93.4%	166	93.3%	
性感染症既往 (複数回答)							
梅毒	8	14.0%	16	13.2%	24	13.5%	1.00
A型肝炎	2	3.5%	4	3.3%	6	3.4%	1.00
B型肝炎	5	8.8%	8	6.6%	13	7.3%	0.76
C型肝炎	0	0.0%	1	0.8%	1	0.6%	1.00
クラミジア	8	14.0%	9	7.4%	17	9.6%	0.18
尖圭コンジローマ	4	7.0%	8	6.6%	12	6.7%	1.00
淋病	6	10.5%	13	10.7%	19	10.7%	1.00
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	1	0.8%	1	0.6%	1.00
毛じらみ	16	28.1%	29	24.0%	45	25.3%	0.58
性器ヘルペス	0	0.0%	4	3.3%	4	2.2%	0.31
その他	0	0.0%	1	0.8%	1	0.6%	1.00
いずれもない	30	52.6%	58	47.9%	88	49.4%	0.63

## 資料 東京地域での配布実績

配布日	天気	予約数	実配布数	キャンセル (うち連絡なし)	相談件数	対応スタッフ
2021. 2. 15	雨のち 晴れ	24	19	5 (3)	0	受付：1名 説明対応：2名 全体：1名 バックアップ：1名
2021. 2. 22	晴れ	22	18	4 (2)	2	受付：1名 配布：2名 相談：1名 全体：1名 バックアップ：1名
2021. 3. 1	晴れ	22	15	7 (6)	2	受付：1名 配布：2名 相談：1名 全体：1名 バックアップ：1名
2021. 3. 8	小雨	26	21 (うち1件 は予約なし)	5 (2)	0	説明対応：2名 受付：1名 バックアップ：1名 全体：1名
その他① 2021. 3. 14	晴れ	2	2	1 (1)	0	説明対応：1名
その他② 2021. 3. 15	晴れ	1	1	0	0	説明対応：1名
その他③ 2021. 3. 21	嵐	1	1	0	0	説明対応：1名
合計		116	95	22 (14)	4	
				キャンセル割合 19.0% (12.1%)		



## 東海における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学 大学院看護学研究科 准教授）  
研究協力者：石田敏彦、藤浦裕二、藤井良樹、高橋良介（ANGEL LIFE NAGOYA）

### 研究要旨

クリニック検査については、広域の地方圏である岐阜県において、岐阜市内の利便性が高いクリニックから協力の承諾を得て、検査提供を行った。また名古屋市の利便性の高い繁華街の性感染症クリニックからも協力を得た。2 クリニックで総計 31 名の利用があり、過去に HIV 検査の経験がないものも 19.4%いた。HIV の陽性件数は 0 件であった。梅毒は既往歴と新規感染合わせて 8 名の陽性が見られた。

ゆうそう検査は、総計 79 キットを配布した。コミュニティセンターrise での対面配布が 64 件、WEB での配布が 15 件であった。アンケートに回答したものは 71 名であった。実際に検体を検査会社に郵送したものは 60 名であった。96.7%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 0 件、梅毒の陽性件数は 7 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 71 名のうち、49 名（81.7%）はアンケート結果との連結に同意していた。アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 49 名の属性については、35 歳未満が 55.1%を占めた。愛知県の居住者が 89.8%であった。生涯初の検査経験割合は 16.3%であった。過去 1 年の検査経験がなかった人は全体のうち 71.4%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 30.6%を占めた。

新型コロナウイルス感染症に伴う自粛宣言に対応しながら、クリニック検査とゆうそう検査の同時進行に課題があったが、今後よりよい棲み分け法も考えて、検査機会の拡大を検討していく必要がある。

### A. 研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、東海地域では大阪や中四国で成功を収めてきた民間医療機関を活用した HIV と梅毒の検査提供（通称クリニック検査）をモデルとし展開することとした。

また自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査もコミュニティセンターでの対面配布、WEB 配布を実施した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選

択肢を増やし、期間集中で配布を実施し、検査普及における有効性の評価を行う。

### B. 研究方法

#### 1) クリニック検査

大阪や中四国で成功を収めてきたクリニック検査の先行事例を解析し、その方法を参考に実施した。東海地域の中でも、面積が広く、検査アクセスに課題がある岐阜県において民間医療機関（1 クリニック）を開拓、協力を依頼し、新たな検査プログラムを実施する。また名古屋市内の利便性の高い場所に開所している民間医療機関（1 クリニック）にも協力を依頼し、実施した。

令和 3 年 1 月 12 日から 2 月末日まで HIV 検査と梅毒の検査提供を行った。医療機関への協力依頼、コミュニティペーパーやポスターなどの紙資材での情報アウトリーチ、出会い系アプリや Twitter 等 SNS アプリを使った広報は

ANGEL LIFE NAGOYA が担当した。

受検者には検査提供医療機関で自記式アンケートも実施し、協力を要請した。

## 2) ゆうそう検査

コミュニティセンターでの対面型配布は250件を予定した。WEB申し込み型の配布は50件を予定した。

2020年12月17日から配布を開始し、対面型で64件、WEB申し込み型で15件の実績があった。名古屋の大型ハッテン施設が8月から閉館しており、その施設を利用している層の受検促進が行えていない事も受検者増加の歩留まりの要因になっていると思われる。

本研究計画は名古屋市立大学看護学部倫理審査委員会により実施の承認を得た。

## C. 研究結果

### 1) クリニック検査

これまでの東海地域で実施してきた各種の調査データを用い、啓発戦略を策定した。東海地域では、2003年より名古屋医療センター、ANGEL LIFE NAGOYA、行政（名古屋市）が連携して大規模検査会を実施してきている。

その際にも検査を知るきっかけはSNS、口コミ、出会い系アプリでの広告が最も多いことに鑑み、本プログラムでもMSM向けの出会い系アプリ広告を活用した。

新型コロナウイルス感染症の再拡大が起き、緊急事態宣言が出されていたため、紙資材を用いたゲイバー等への情報アウトリーチは十分に展開できなかった。岐阜市内のクリニックは、このような検査提供は初めての試みであったが、5名の利用者がいた。また名古屋市のクリニックは26名の利用があった。受検者の詳細については資料を示した。

## 2) ゆうそう検査

### 1. 郵送検査キットの配布日・概要

配布期間：2020年12月17日～3月15日

表1 郵送検査利用者の概要

	地域	愛知
	CBO	ANGEL LIFE NAGOYA
	コミュニティセンター	
	rise	
a 配布数	79	
b 受検者アンケート回答者数	71	
c 利用者数；郵送検査会社での受付数	60	
利用率；配布数に占める利用者数(c/a)	75.9%	
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）	58（96.7%）	
<b>抗体検査結果</b>		
<input type="checkbox"/> HIV感染症		
e 判定不能者数（割合 e/c）	0（0.0%）	
f 陽性数（割合 f/c）	0（0.0%）	
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	0.0（0.0%）	
<input type="checkbox"/> 梅毒		
g 判定不能者数（割合 g/c）	1（1.7%）	
h 陽性数（割合 h/c）	7（11.9%）	
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	2.5（4.2%）	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）	49（81.7%）	
j 追跡可能者実数；無料ID使用者実数（割合 j/c）**	48（80.0%）	

\* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

\*\* j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

\*\*\* すべての集計より再受検の重複は除いた。

新型コロナウイルス感染症の再拡大が起き、緊急事態宣言が出されていたため、紙資材を用いたゲイバー等への情報アウトリーチは十分に展開できなかった。

総計79キットを配布し、コミュニティセンターriseでの対面配布が64件、WEBでの配布が15件であった。アンケートに回答したものは71名であった。実際に検体を検査会社に郵送したものは60名であった。96.7%が結果サイトにログインしていた。HIV陽性件数は0件、梅毒の陽性件数は7件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した71名のうち、49名（81.7%）はアンケート結果との連結に同意していた。同意を得た受検者とアンケートに回答したが受検していないと考えられる人との比較集計結果を表2、表3に示した。

アンケートに回答し、かつ検体を郵送した者49名の属性については、35歳未満が55.1%を占めた。愛知県在住者が89.8%であった。生涯初の検査経験割合は16.3%であった。過去1年の検査経験がなかった人は全体のうち71.4%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は30.6%を占めた。

## D. 考察

クリニック検査やゆうそう検査いずれも、資材は作成したが配布直前から緊急事態宣言による時間短縮があり、主要なゲイバーがほとんど

ど営業しておらず、紙媒体の効果がなかった。愛知県と名古屋医療センターが行っている無料 HIV・性感染症検査会に過去 5 年は毎年 600～700 名の MSM が受検していた。検査意識の高い層をクリニック検査やゆうそう検査に受検促進する広報が不十分であったといえる。

東海地域はクリニック検査を実施した。名古屋と岐阜で 1 件ずつクリニックを発掘した。開始当初はクリニックでの受検者がいなかったので、ゆうそう検査の広報は控えた。さらに、出会い系アプリでの広報の展開などを実施した結果としてクリニックは 31 名の受検者がいた。

なお、受取者のなかでパートナーの分も持っていきたいという問い合わせがあったが、断った。来場者本人や申請者以外の検査キット受け取りに関しては、今後の課題である。

他研究班による検査提供や、本研究班のクリニック検査の時期とかぶったなかでの郵送検査であったことから、次年度は他の検査提供機会と調整する必要がある。

## E. 結論

新しく新規に HIV 検査と梅毒検査が提供可能なクリニックを岐阜県に開拓し、協力を得た。初めての試みであったが 5 名の利用があった。また名古屋市のクリニックでも 26 名の利用があった。

ゆうそう検査とクリニック検査を同時期に実施することによる受検促進の困難があった。次年度以降はうまくすみ分ける方法を考えていく必要がある。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.  
DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) Ryohei Terao, Noriyo Kaneko (Equal contribution): Survey of School Nurses' Experiences of Providing Counselling on Sexual Orientation to High School Students in Japan. *International Journal of Adolescent Medicine and Health*, doi: 10.1515/ijamh-2019-0167. 2020.

- 3) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 4) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 5) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020
- 6) 今橋真弓, 金子典代, 高橋良介, 石田敏彦, 横幕能行: 名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果. *日本感染症学会誌*, 31(1), 2020. doi:10.24775/jjsti.S-2019-0003

### 2. 学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. *The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection(HIV Glasgow 2020)*, Glasgow, 2020.

### 3. 学会発表 (国内)

- 1) 金子典代:U=U をめぐる陽性者と HIV 予防対策と医療者のあり方について. *日本エイズ学会シンポジウム*, 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 2) 林田庸総, 柏木恵莉, 土屋亮人, 高野操, 青木孝弘, 瀧永博之, 菊池嘉, 岩橋恒太, 金子典代: 乾燥ろ紙血による HIV Ag/Ab 郵送検査の検査ラボでの結果についての検討. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 3) 荒木順, 金子典代, 木南拓也, 柴田恵, 岩橋恒太, 藤原孝大, 鈴木敦大, 小山輝道, 高久道子, 高久陽介, 市川誠一, 張由紀夫, 生島嗣: ゲイバー等との連携による「LivingTogether のど自慢」の実践とその

効果について. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

- 4) 井上洋士、後藤大輔、船石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代：成人前期（20 歳代）MSM での性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 5) 高橋良介、末盛慶、金子典代、石田敏彦：NLGR+への参加状況と HIV 抗体検査受検経験の関連性. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

#### G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

表1 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動

	アンケート回答のみ		検査利用		合計		Pearson カイ2乗	
	n=22		n=49		n=71			
<b>年齢階級</b>								
	24歳以下	4	18.2%	4	8.2%	8	11.3%	0.34
	25-34歳	6	27.3%	23	46.9%	29	40.8%	
	35-44歳	6	27.3%	13	26.5%	19	26.8%	
	45歳以上	6	27.3%	9	18.4%	15	21.1%	
<b>国籍<sup>1)</sup></b>								
	日本	22	100.0%	44	89.8%	66	93.0%	0.32
	海外	0	0.0%	5	10.2%	5	7.0%	
<b>居住地</b>								
	福井県	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	0.32
	岐阜県	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	
	愛知県	18	81.8%	44	89.8%	62	87.3%	
	三重県	2	9.1%	1	2.0%	3	4.2%	
	奈良県	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	
	福岡県	1	4.5%	0	0.0%	1	1.4%	
	鹿児島県	1	4.5%	0	0.0%	1	1.4%	
	沖縄県	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	
<b>性別</b>								
	男性	21	95.5%	49	100.0%	70	98.6%	0.31
	女性	1	4.5%	0	0.0%	1	1.4%	
	トランスジェンダー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>セクシュアリティ</b>								
	ゲイ（男性同性愛者）	18	81.8%	40	81.6%	58	81.7%	0.82
	バイセクシュアル（両性愛者）	3	13.6%	8	16.3%	11	15.5%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	1	4.5%	1	2.0%	2	2.8%	
<b>居住形態</b>								
	独居	14	63.6%	24	49.0%	38	53.5%	0.31
	同居	8	36.4%	25	51.0%	33	46.5%	
	定住先はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	14	63.6%	41	83.7%	55	77.5%	0.07
	ない（今回が初めての検査）	8	36.4%	8	16.3%	16	22.5%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	5	22.7%	14	28.6%	19	26.8%	0.77
	ない	17	77.3%	35	71.4%	52	73.2%	
<b>過去1年の受検場所<sup>2)</sup>（複数回答）</b>								
	保健所	4	18.2%	11	22.4%	15	21.1%	0.76
	病院/クリニック	1	4.5%	1	2.0%	2	2.8%	
	郵送検査	1	4.5%	3	6.1%	4	5.6%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>過去6カ月間の利用施設（複数回答）</b>								
	ゲイバー	9	40.9%	22	44.9%	31	43.7%	0.80
	ゲイイベント	2	9.1%	2	4.1%	4	5.6%	
	ゲイショップ	2	9.1%	4	8.2%	6	8.5%	1.00
	有料のハッテン場	2	9.1%	9	18.4%	11	15.5%	
	野外のハッテン場	1	4.5%	4	8.2%	5	7.0%	1.00
	いずれもない	11	50.0%	21	42.9%	32	45.1%	

1) 海外の内訳は、アジア；中国、台湾 その他；コロンビア、不明。

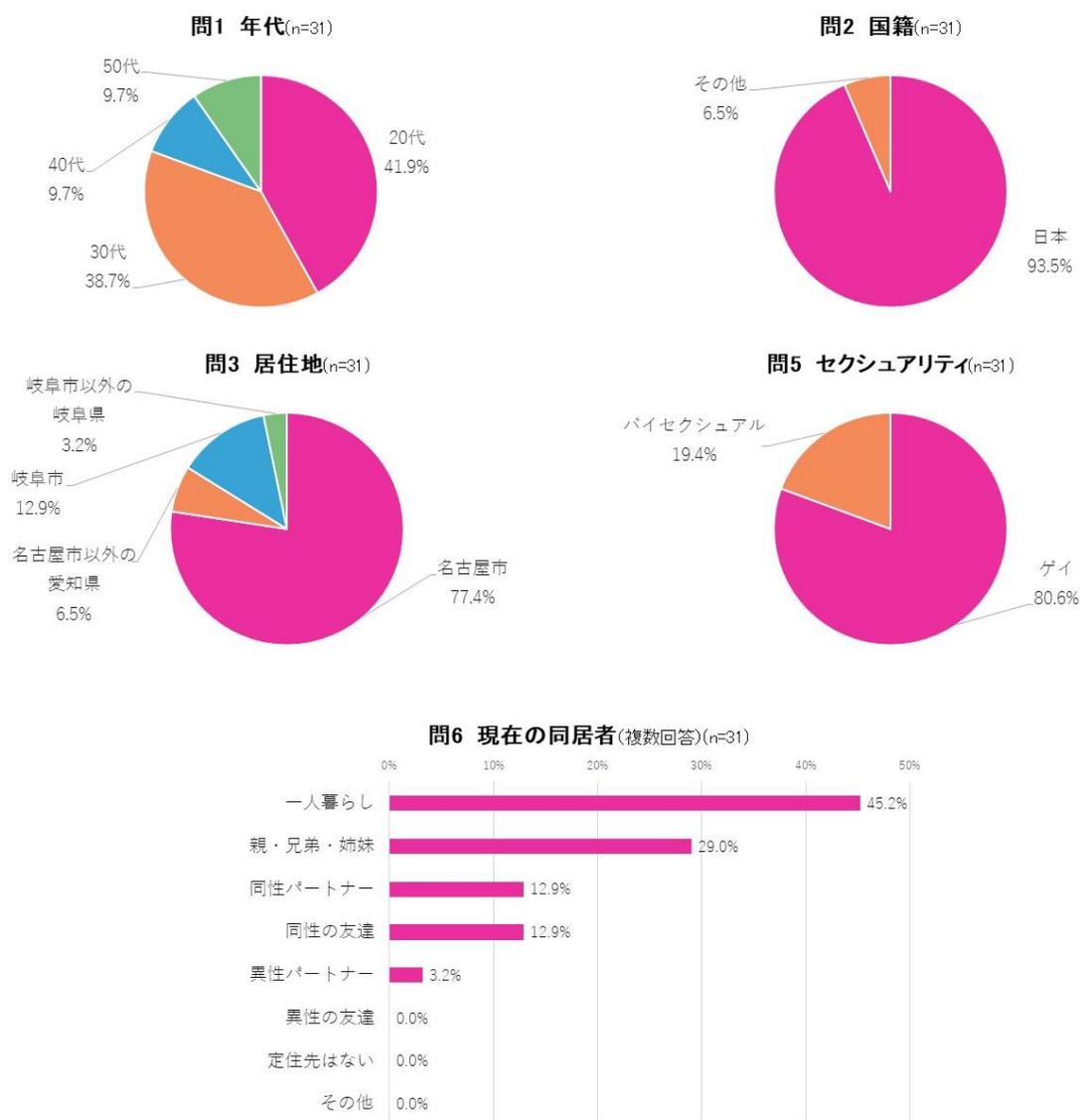
2) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表2 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動

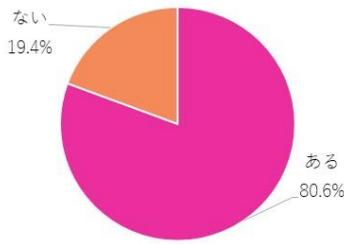
	アンケート回答のみ n=22		検査利用 n=49		合計 n=71		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく/少し知っている	13	59.1%	34	69.4%	47	66.2%	0.43
全く/あまり知らない	9	40.9%	15	30.6%	24	33.8%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	15	68.2%	43	87.8%	58	81.7%	0.09
ない	7	31.8%	6	12.2%	13	18.3%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	4	18.2%	16	32.7%	20	28.2%	0.26
友達やセクフレ	10	45.5%	27	55.1%	37	52.1%	0.61
その場限りの相手	6	27.3%	16	32.7%	22	31.0%	0.78
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	10	45.5%	36	73.5%	46	64.8%	0.03
ない	12	54.5%	13	26.5%	25	35.2%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	2	9.1%	10	20.4%	12	16.9%	0.32
ない	20	90.9%	39	79.6%	59	83.1%	
過去6か月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	5	22.7%	12	24.5%	17	23.9%	1.00
ない	17	77.3%	37	75.5%	54	76.1%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	1.00
ない	22	100.0%	48	98.0%	70	98.6%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	1	4.5%	2	4.1%	3	4.2%	1.00
ない	21	95.5%	47	95.9%	68	95.8%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
ない	22	100.0%	49	100.0%	71	100.0%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	10	45.5%	32	65.3%	42	59.2%	0.12
常用	5	22.7%	11	22.4%	16	22.5%	
過去6ヶ月間にない	7	31.8%	6	12.2%	13	18.3%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	9	40.9%	34	69.4%	43	60.6%	0.04
知らない	13	59.1%	15	30.6%	28	39.4%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	5	22.7%	7	14.3%	12	16.9%	0.01
服薬したい/どちらかといえば	4	18.2%	27	55.1%	31	43.7%	
知らない	13	59.1%	15	30.6%	28	39.4%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	1	4.5%	3	6.1%	4	5.6%	1.00
ない	21	95.5%	46	93.9%	67	94.4%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	0	0.0%	4	8.2%	4	5.6%	0.30
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
B型肝炎	1	4.5%	2	4.1%	3	4.2%	1.00
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	3	13.6%	1	2.0%	4	5.6%	0.09
尖圭コンジローマ	0	0.0%	5	10.2%	5	7.0%	0.32
淋病	1	4.5%	1	2.0%	2	2.8%	0.53
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	1.00
毛じらみ	1	4.5%	9	18.4%	10	14.1%	0.16
性器ヘルペス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
その他	1	4.5%	1	2.0%	2	2.8%	0.53
いずれもない	19	86.4%	32	65.3%	51	71.8%	0.09

# とうかいクリニック検査 アンケート集計結果

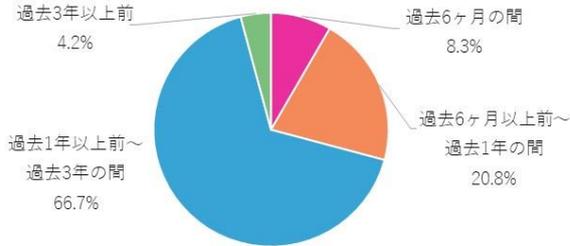
## 2020年度 全体



問7 HIV検査のこれまでの受検経験(n=31)

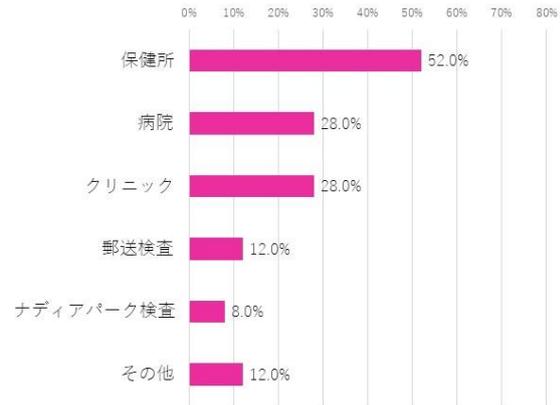


問7-2 直近のHIV検査の受検時期(n=24)

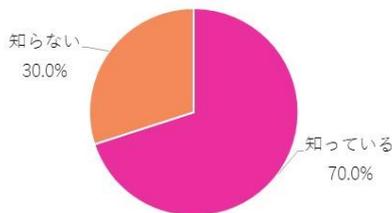


問7-1 過去1年間にHIV検査を受けた場所

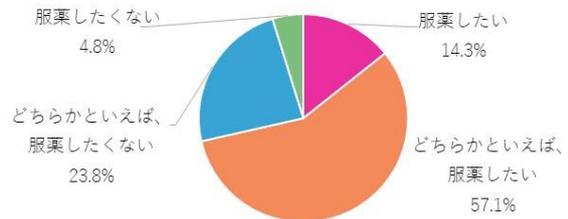
(複数回答)(n=25)



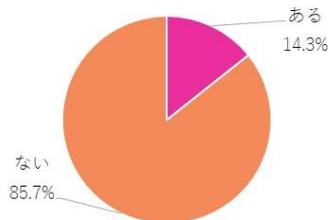
問8 「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」に関することを知っているか(n=30)



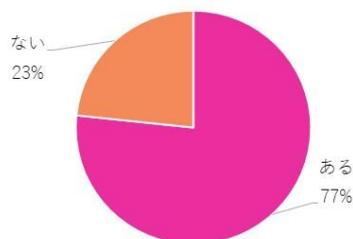
問8-1 「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」の服薬希望(n=21)



問8-2 過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」の服薬経験(n=21)

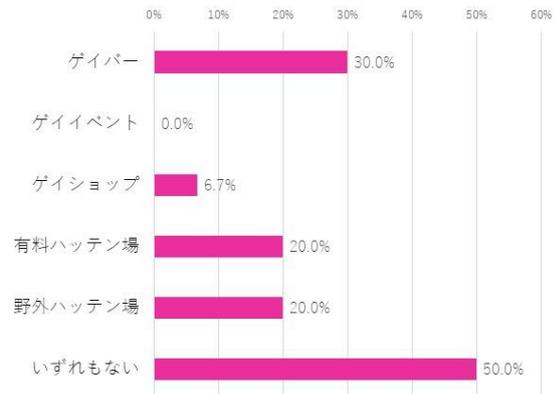


問9 「HIVに感染していても、抗HIV薬によって血液中のウィルスが検出できないレベルになっている人は、セックスパートナーにHIVを感染させることはない」「U=U」ということを聞いたことはあるか(n=30)

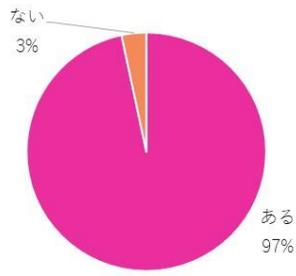


問10 過去6ヶ月間に利用したゲイ向け施設

(複数回答)(n=30)



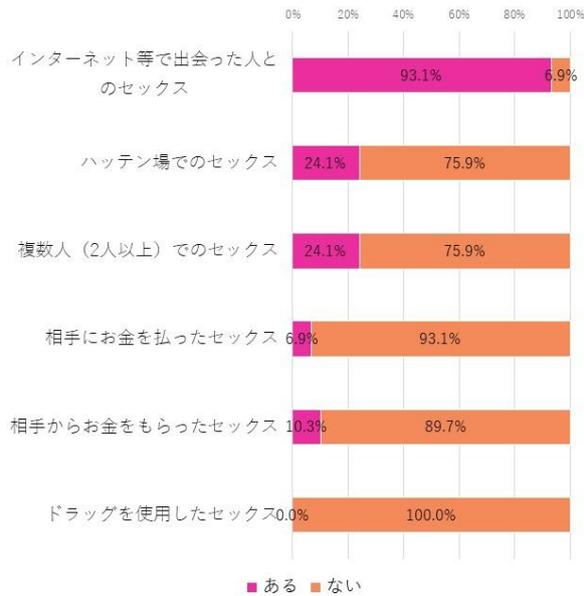
問11 過去6か月間の男性とのセックス経験(n=30)



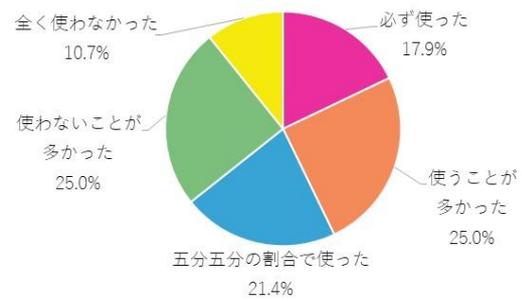
問11-1 過去6ヶ月間のセックス相手(複数回答)(n=29)



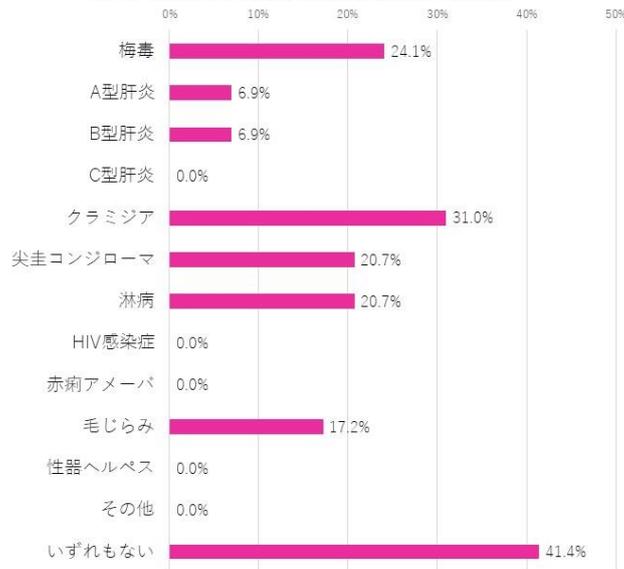
問11-2~11-7 過去6か月間の様々なセックス経験(n=29)



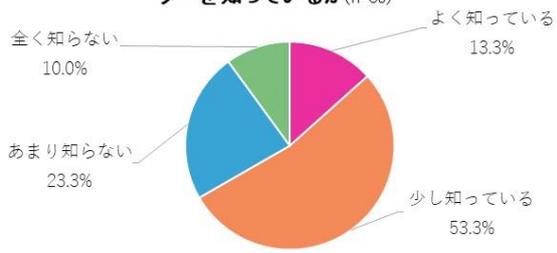
問11-8 過去6か月間のセックス時のコンドーム使用状況(n=28)



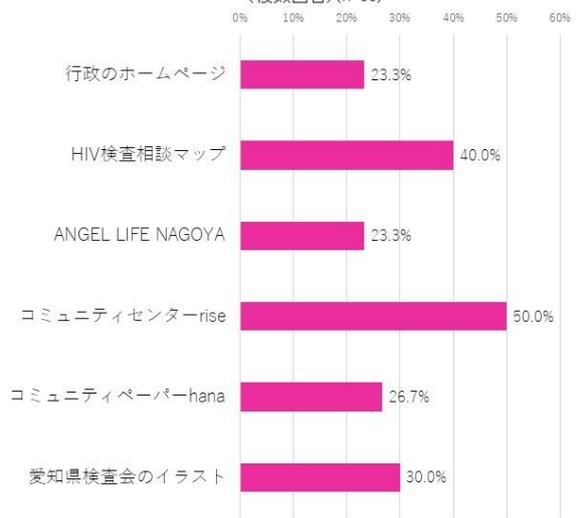
問12 罹患歴のある性感染症(複数回答)(n=29)



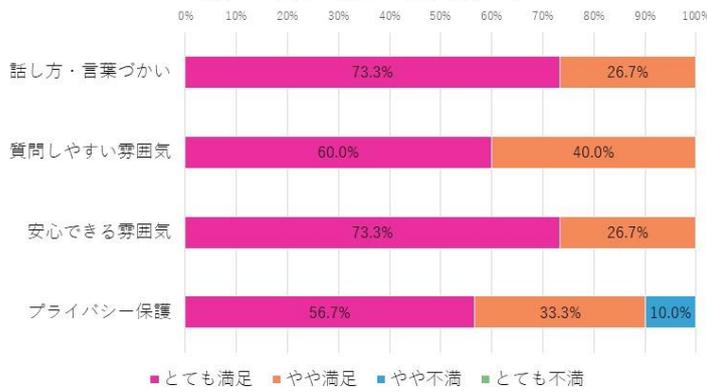
問13 MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターを知っているか(n=30)



問14 HIV関係の印刷物やホームページ等の認知 (複数回答)(n=30)



問15 今回の検査の満足度(n=30)



自由記載：

- 匿名とは逆に、本人が陰性であるという証明書がほしい
- 受診歴があると告げると名前を尋ねられ、断りづらく名乗ってしまった。名前は聞かない前提で行ってほしかった。

## 近畿における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）  
研究協力者：宮田りりい（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）  
宮階真紀（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）  
町登志雄（MASH 大阪）

### 研究要旨

総計 142 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布が 69 件、WEB での配布が 73 件であった。

アンケートに回答したものは 103 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 87 名であった。96.6%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 14 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 87 名のうち、69 名（79.3%）はアンケート結果との連結に同意していた。アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 69 名の属性については、35 歳未満が 53.6%を占めた。大阪府の居住者が 63.8%、兵庫県が 11.6%であった。生涯初の検査経験割合は 21.7%であった。

過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 66.7%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 30.4%を占めた。新型コロナウイルス感染症に伴う自粛宣言に対応しながらのゆうそう検査の進行には困難、課題があったが、今後クリニック検査やセンターで実施している検査提供プログラムと棲み分け法も考えつつ最適な検査提供モデルを検討していく必要がある。

### A. 研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるが、保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、大阪地域では自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査のコミュニティセンターdista での対面配布、WEB 配布を実施した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間集中で配布を実施し、検査普及における有効性の評価を行う。

### B. 研究方法

コミュニティセンターdista では、MASH 大阪

では主に 3 つの方法で郵送検査キットを配布した。

- ①dista 来場者へ配布
- ②TwitterDM/メールを使った配布
- ③電話での配布。

Twitter やゆうそう検査のオリジナル WEB サイト「いろエロ診断サイト」を見て dista に来場した人だけでなく、一般 dista 来場者へも郵送検査キット配布の情報を伝え、手渡した。ガイドランスには下図のようなガイドランスシートを作成し、使用した。

1 ゆうそう検査キット事前説明	
下記の内容でわからないことはありませんか？内容を理解したら、「次に進む」と返信ください。	
①ゆうそう検査は、HIV のスクリーニング検査と梅毒の抗体検査の結果がわかります。	
②HIV 検査結果が陽性の時は、確認検査（本当に HIV に感染しているかどうかを調べる検査）を受ける必要があります。	
③ゆうそう検査では、特設サイトに申込 ID とパスワードを入力して、自分一人で結果を知ることができます。そのため申込 ID とパスワードは大切に保存・保管ください。	
④結果が陽性の時は、確認検査を受ける場所を自分で探しますが、dista や、ゆうそう検査サイトでも相談ができます。	
⑤採血は、2 枚のろ紙に 2 cm 位まで血を染み込ませる必要があります。	
⑥感染の機会から 3 ヶ月経過してからの結果がわかります。	

Twitter ではダイレクトメールを活用して以下のようなやりとりをふまえて配布した。

例)

Q：郵送検査キットを受けたいです。

= 1 回目の返信 =

D：このまま DM で説明いたします。事前説明の後、web アンケートへの回答をお願いします。

D：事前説明のための画像をお送りします。内容をよくご確認ください。

D：(事前説明画像送信)

D：内容が確認できましたら、次に WEB アンケートへの回答をお願いします。

D：https://www.gmhp.jp/SH-2020/945495

D：最終画面に数字 8 桁の ID が表示されます。

(ID は申し込み用紙記入時に必要になるため、スクショなど画面を保存することをお勧めいたします。)

Q：アンケートに答えました。

= 2 回目の返信 =

D：下記サイトから、ゆうそう検査キットの受取登録ができます。

D：https://www.std-lab.jp/e/DST01

D：ご案内は以上となります。

D：今は、HIV は適切な治療を行うことで、性行為で感染しない時代となりました。U=U (https://uu-japan.jp/) など、HIV の情報も日々アップデートされています。ご利用ありがとうございました。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

## C. 研究結果

### 1) 検査キットの配布日・配布件数

#### ①対面配布

2020 年 12 月 18 日から 3 月 15 日まで配布し

た。

### 2) 検体の送付状況とアンケートの結果

総計 142 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布が 69 件、WEB での配布が 73 件であった。

アンケートに回答したものは 103 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 87 名であった。96.6%が結果サイトにログインしていた。

HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 14 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 87 名のうち、69 名（79.3%）はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 69 名の属性については、35 歳未満が 53.6%を占めた。大阪府の居住者が 63.8%、兵庫県が 11.6%であった。生涯初の検査経験割合は 21.7%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 66.7%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 30.4%を占めた。

MASH 大阪のもつ SNS やセンタースタッフのアカウントから本検査の宣伝動画、メッセージを定期的に配信した。新型コロナ感染症の再拡大が起き、緊急事態宣言が出されていたため、紙資材を用いたゲイバー等への情報の積極的なアウトリーチは実施できなかった。

表 1 郵送検査利用者の概要

	地域	
	CBO	mash大阪
	コミュニティセンター	
	dista	
a 配布数	142	
b 受検者アンケート回答者数	103	
c 利用者数；郵送検査会社での受付数	87	
利用率；配布数に占める利用者数(c/a)	61.3%	
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録 (割合 d/c)	84 ( 96.6%)	
<b>抗体検査結果</b> *重複感染 (1名)		
<input type="checkbox"/> HIV感染症		
e 判定不能者数 (割合 e/c)	1 ( 1.1%)	
f 陽性数 (割合 f/c)	2 ( 2.3%)	
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *	2.5 ( 2.9%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒		
g 判定不能者数 (割合 g/c)	1 ( 1.1%)	
h 陽性数 (割合 h/c)	14 ( 16.3%)	
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *	6.4 ( 7.4%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数 (割合 i/c)	69 ( 79.3%)	
j 追跡可能者実数；無料ID使用者実数 (割合 j/c) **	68 ( 78.2%)	

\* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、(利用者数-判定不能者数)に掛けて求めた。

\*\* j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

\*\*\* すべての集計より再受検の重複は除いた。

### 3) 実施しての振り返り

一般 dista 来場者にキットを渡してももらうだけで、実際に使用するかどうかについてはわからない。

DM やメールの利用者を自発的に申し込んでくるため、最後まで案内ができる人が多かったように感じる。ただし、申込者の中には女性と思われる人 (Twitter の画像や発言など) に案内することもあった。トランスジェンダーなのかどうなのかの見極めはむづかしく、Twitter という空間での仕方なさを感じたが、アンケートに回答の際に察したのか、最後の案内まではつながらなかった。

dista でピタッとちえっくん (distaHIV 検査会) の際に、郵送監査キットの配布日だと勘違いして取りに来た人もいた。→配布期間をずらすなどしたほうが良いように思った。

外国人 (タイ) からの受検希望者がいた。

電話での対応は URL を伝えるむづかしさから結局、メールや DM のやり取りになったため、今後はメールでの対応はむづかしいと思った。

対面での相談の多くは、ウィンドウピリオドのことであった。メール、DM での相談の多くは受け取り場所に関することであった。

## D. 考察

緊急事態宣言や自粛要請もあり、進行は困難を極めたが、センターが持つネットワークを駆使して、宣伝、配布数増に努めた。これまで MSM 向け啓発をあまり・全く知らなかったものが全体の 3 割を占めており、これまで届いていなかった層に本プログラムが届いた可能性もある。また HIV、梅毒の陽性件数から鑑みても、感染リスクの高い層に届いた可能性も示唆された。

今後、コミュニティ内で対面型アウトリーチができない中でどのように検査のニーズがある感染リスクそうにどのようにリーチするかが課題である。

## E. 結論

新型コロナ感染症に伴う自粛宣言に対応しながらのゆうそう検査の進行には困難、課題があったが、今後クリニック検査やセンターで実施している検査提供プログラムと棲み分け法も考えつつ最適な検査提供モデルを検討していく必要がある。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi,

Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.

DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339

- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020

## 2. 学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection (HIV Glasgow 2020), Glasgow, 2020.

## 3. 学会発表 (国内)

- 1) 井上洋士, 後藤大輔, 船石翔馬, 高橋良介, 塩野徳史, 金子典代: 成人前期 (20 歳代) MSM での性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

## G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

表1 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動

	アンケート回答のみ n=34		検査利用 n=69		合計 n=103		Pearson カイ2乗	
<b>年齢階級</b>								
	24歳以下	3	8.8%	7	10.1%	10	9.7%	0.65
	25-34歳	11	32.4%	30	43.5%	41	39.8%	
	35-44歳	12	35.3%	21	30.4%	33	32.0%	
	45歳以上	8	23.5%	11	15.9%	19	18.4%	
<b>国籍<sup>1)</sup></b>								
	日本	34	100.0%	63	91.3%	97	94.2%	0.17
	海外	0	0.0%	6	8.7%	6	5.8%	
<b>居住地</b>								
	北海道	2	5.9%	0	0.0%	2	1.9%	0.45
	東京都	1	2.9%	5	7.2%	6	5.8%	
	神奈川県	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
	岐阜県	1	2.9%	0	0.0%	1	1.0%	
	静岡県	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
	愛知県	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
	滋賀県	3	8.8%	3	4.3%	6	5.8%	
	京都府	2	5.9%	3	4.3%	5	4.9%	
	大阪府	20	58.8%	44	63.8%	64	62.1%	
	兵庫県	5	14.7%	8	11.6%	13	12.6%	
	奈良県	0	0.0%	2	2.9%	2	1.9%	
	岡山県	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
<b>性別<sup>2)</sup></b>								
	男性	33	97.1%	65	94.2%	98	95.1%	0.61
	女性	0	0.0%	2	2.9%	2	1.9%	
	トランスジェンダー	1	2.9%	2	2.9%	3	2.9%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>セクシュアリティ</b>								
	ゲイ（男性同性愛者）	30	88.2%	56	81.2%	86	83.5%	0.58
	バイセクシュアル（両性愛者）	4	11.8%	12	17.4%	16	15.5%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
<b>居住形態</b>								
	独居	22	64.7%	43	62.3%	65	63.1%	1.00
	同居	12	35.3%	26	37.7%	38	36.9%	
	定住先はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	26	76.5%	54	78.3%	80	77.7%	1.00
	ない（今回が初めての検査）	8	23.5%	15	21.7%	23	22.3%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	11	32.4%	23	33.3%	34	33.0%	1.00
	ない	23	67.6%	46	66.7%	69	67.0%	
<b>過去1年の受検場所<sup>3)</sup>（複数回答）</b>								
	保健所	2	5.9%	6	8.7%	8	7.8%	1.00
	病院/クリニック	6	17.6%	7	10.1%	13	12.6%	
	郵送検査	0	0.0%	5	7.2%	5	4.9%	
	その他	5	14.7%	8	11.6%	13	12.6%	
<b>過去6か月間の利用施設（複数回答）</b>								
	ゲイバー	11	32.4%	16	23.2%	27	26.2%	0.35
	ゲイイベント	3	8.8%	2	2.9%	5	4.9%	
	ゲイショップ	2	5.9%	3	4.3%	5	4.9%	
	有料のハッテン場	12	35.3%	12	17.4%	24	23.3%	
	野外のハッテン場	6	17.6%	8	11.6%	14	13.6%	
	いずれもない	14	41.2%	37	53.6%	51	49.5%	
							0.30	

1) 海外の内訳は、アジア；中国、台湾、ベトナム、インドネシア その他；不明。

2) トランスジェンダーの内訳は、MTF、FTM

3) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表2 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動

	アンケート回答のみ n=34		検査利用 n=69		合計 n=103		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく/少し知っている	23	67.6%	48	69.6%	71	68.9%	1.00
全く/あまり知らない	11	32.4%	21	30.4%	32	31.1%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	33	97.1%	63	91.3%	96	93.2%	0.42
ない	1	2.9%	6	8.7%	7	6.8%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	7	20.6%	16	23.2%	23	22.3%	1.00
友達やセクフレ	23	67.6%	44	63.8%	67	65.0%	0.83
その場限りの相手	20	58.8%	28	40.6%	48	46.6%	0.10
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	28	82.4%	50	72.5%	78	75.7%	0.33
ない	6	17.6%	19	27.5%	25	24.3%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	12	35.3%	11	15.9%	23	22.3%	0.04
ない	22	64.7%	58	84.1%	80	77.7%	
過去6か月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	9	26.5%	10	14.5%	19	18.4%	0.18
ない	25	73.5%	59	85.5%	84	81.6%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	1	2.9%	1	1.4%	2	1.9%	1.00
ない	33	97.1%	68	98.6%	101	98.1%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	3	8.8%	2	2.9%	5	4.9%	0.33
ない	31	91.2%	67	97.1%	98	95.1%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	1	2.9%	1	1.4%	2	1.9%	1.00
ない	33	97.1%	68	98.6%	101	98.1%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	27	79.4%	49	71.0%	76	73.8%	0.49
常用	6	17.6%	14	20.3%	20	19.4%	
過去6ヶ月間がない	1	2.9%	6	8.7%	7	6.8%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	22	64.7%	47	68.1%	69	67.0%	0.82
知らない	12	35.3%	22	31.9%	34	33.0%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	4	11.8%	11	15.9%	15	14.6%	0.84
服薬したい/どちらかといえば	18	52.9%	36	52.2%	54	52.4%	
知らない	12	35.3%	22	31.9%	34	33.0%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	1	2.9%	6	8.7%	7	6.8%	0.42
ない	33	97.1%	63	91.3%	96	93.2%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	3	8.8%	8	11.6%	11	10.7%	1.00
A型肝炎	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	1.00
B型肝炎	1	2.9%	7	10.1%	8	7.8%	0.27
C型肝炎	1	2.9%	1	1.4%	2	1.9%	1.00
クラミジア	6	17.6%	11	15.9%	17	16.5%	1.00
尖圭コンジローマ	3	8.8%	5	7.2%	8	7.8%	1.00
淋病	2	5.9%	6	8.7%	8	7.8%	1.00
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	1.00
毛じらみ	14	41.2%	17	24.6%	31	30.1%	0.11
性器ヘルペス	3	8.8%	0	0.0%	3	2.9%	0.03
その他	0	0.0%	2	2.9%	2	1.9%	1.00
いずれもない	14	41.2%	34	49.3%	48	46.6%	0.53



## 中国・四国における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：和田秀穂（川崎医科大学血液内科学 教授）

研究協力者：高田清式（愛媛大学医学部）、新山賢（HaaT えひめ/BRIDGE プロジェクト）

### 研究要旨

#### 研究Ⅰ クリニック検査の促進に関する研究

初年度は岡山県ではクリニック検査（もんげー性病検査）を継続できたが、中国・四国の他地域ではコロナ禍の影響で展開が困難であった。そのため、他地域でクリニック検査の協力機関を増やし、次年度の体制整備につなげた。岡山県ではクリニック検査を継続し、夏季に 31 件、冬季に 25 件の利用があった。また、2020 年 12 月までの保健所・拠点病院・クリニックでの受検者アンケートの解析を進めた。

#### 研究Ⅱ 郵送検査の促進に関する研究

総計 124 キットを配布した。コミュニティセンターはないため、すべて WEB での配布であった。アンケートに回答したものは 141 名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは 84 名であった。郵送検査利用者のすべてが結果サイトにログインし閲覧していた。

HIV 陽性件数は 0 件、梅毒の陽性件数は 13 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 84 名のうち、59 名（70.2%）はアンケート結果との連結に同意していた。アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 59 名の属性については、35 歳未満が 57.7% を占めた。四国の居住者が 35.7%、岡山県が 16.9%、広島県が 23.7% であった。生涯初の検査経験割合は 32.2% であった。

過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 78.0% であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 54.2% を占めた。

### 研究Ⅰ：クリニック検査の促進に関する研究

#### A. 研究目的と背景

地方都市で、地域性に配慮した形で公的機関以外の医療機関等を活用した HIV 検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避ける MSM への検査促進を行う。

#### B. 研究方法

岡山県の先行事例をもとに、岡山県の近隣県でも連携した形で、中四国地域における医療機関等を活用した新たな HIV 検査機会を拡大する。受検者へのアンケート調査、行政への検査機関別 HIV/AIDS 報告件数、コミュニティでの横断調査により効果評価を行う。

初年度はコロナ禍の影響により、岡山県の継続事業のみの展開となった。

### C. 研究結果

アンケート回答者では、保健所の受検者数は約半数以下になっており、岡山市と倉敷市の受検者数が減っていた。

また「もんげー性病検査」は 2020 年夏季の分のみであったが、39 件利用のうち、クリニックから返送されたのは 19 件であり、回収率が低かった。

保健所の受検者では徐々にこれまでの受検経験が増加していた（2019 年では 40.4%、2020 年は 44.5%、表 1-2）。過去 1 年間の受検経験も 2019 年度までは増加（2019 年は 34.3%、表 1-2）していた。岡山県、岡山市、倉敷市別にみても受検経験はこれまで、過去 1 年ともに高い割合（表 4-2）であった。

一方で、これまでの受検場所をみると、郵送検査利用が徐々に増加していた（2015 年は 1.2%、2019 年は 5.7%、表 1-2）。

クリニック検査利用者 (n=19) のうち、生涯初の検査経験割合は36.8%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち75.0%であった。過去1年間の検査場所で最も高かったのは病院・診療所・クリニックであり、66.7%であった。

#### D. 考察

2020年度のクリニック検査の解析はまだ半期分であるが、経年的にみると保健所に比べMSMの割合が高く、性感染症の既往歴も高い割合で推移していることから、感染リスクの高い層への利便性が高いものと考えられる。当事者団体・メディアを巻き込んだ医療機関におけるHIV検査は保健所の代替施設として、あるいは検査希望者が自分のニーズに合わせて検査施設を選択できると考えられる。

#### E. 結論

初年度は岡山県ではクリニック検査(もんげ一性病検査)を継続できたが、中国・四国の他地域ではコロナ禍の影響で展開が困難であった。そのため、他地域でクリニック検査の協力機関を増やし、次年度の体制整備につなげた。

岡山県ではクリニック検査を継続し、夏季に31件、冬季に25件の利用があった。また、2020年12月までの保健所・拠点病院・クリニックでの受検者アンケートの解析を進めた。

### 研究Ⅱ：郵送検査の促進に関する研究

#### A. 研究目的

先行研究から、HIV検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがわれている。保健所のHIV検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和2年2月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は7割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、中国・四国地域のMSMを対象に、自己採血のDBS検体を送付しスクリーニング検査を受ける郵送検査をコミュニティセンターでの配布とWEBにて配布を行った。MSMが利用しやすいHIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間を限定して配布し、検査普及における有効性の評価を行うことを目的とした。

#### B. 研究方法

中国・四国地域にはMSM対象の予防啓発を主体としたコミュニティセンターがないため、WEBによる広報と申し込み受け付けを設置し、自宅等に郵送した。

広報はTwitterで行った。SNSを通じた大規模な広報は積極的には行わなかった。

メッセージとして、「中四国地方在住のゲイ・バイ男性を対象とした郵送検査キットの無料配布中です。検査項目はHIVと梅毒。キットはWEBアンケートへの回答でゲットできます。自宅などで、郵送検査で健康チェック！」とした。またゲイに人気のあるイラストレーターと協働し、四コマ漫画を作成し、広報に活用した。

(参照資料)



#### 倫理審査

本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会、川崎医科大学に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

## C. 研究結果

### 1. 郵送検査キットの配布日・概要

配布期間：2021年2月1日～3月15日

表5 郵送検査利用者の概要

	地域	中国・四国
	CBO	HaaTえひめ /BRIDGE
	コミュニティセンター	-
a 配布数		124
b 受検者アンケート回答者数		141
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		84
利用率；配布数に占める利用者数(c/a)		67.7%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）	84	（100%）
<b>抗体検査結果</b>		
<input type="checkbox"/> HIV感染症		
e 判定不能者数（割合 e/c）		0（0.0%）
f 陽性数（割合 f/c）		0（0.0%）
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		0.0（0.0%）
<input type="checkbox"/> 梅毒		
g 判定不能者数（割合 g/c）		2（2.4%）
h 陽性数（割合 h/c）		13（15.9%）
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		4.3（5.2%）
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		59（70.2%）
j 追跡可能者実数；無料ID使用者実数（割合 j/c）**		58（69.0%）

\* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に掛けて求めた。

\*\* j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

\*\*\* すべての集計より再受検の重複は除いた。

### 2. 検体の送付状況とアンケートの結果

アンケートに回答したものは141名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは84名であった。郵送検査利用者のうち、100%が結果サイトにログインしていた。

HIV陽性件数は0件、梅毒の陽性件数は13件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した84名のうち、59名（70.2%）はアンケート結果との連結に同意していた。同意を得た受検者とアンケートに回答したが受検していないと考えられる人との比較集計結果を表6、表7に示した。

アンケートに回答し、かつ検体を郵送した者59名の属性については、35歳未満が57.7%を占めた。四国の居住者が35.7%、岡山県が16.9%、広島県が23.7%であった。

これまでの検査経験がなかったものの割合は32.2%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち78.0%であった。過去1年間の検査場所で最も高かったのは保健所であり、13.6%であった。

過去6ヶ月間の男性との性交経験は89.8%と高く、ハッテン場を利用した性交経験が10.2%であった。また過去6ヶ月間のPrEPの使用経験は1.7%であり、コンドーム常用割合

は10.2%（男性とのアナルセックス経験者のうち、11.3%）であった。

MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをよくあるいは少し知っている人は45.8%であった。

### 3. 実施しての振り返り

Twitterプロモーションを使った広報は一定の効果があつたが、更なる検証が必要である。

松山市が実施するMSM限定検査会については、今年度の受検者は昨年より半数減少した。岡山県もんげ～検査の受検者は31名であり、人数としては例年通りで、検査ニーズがあつた。

19歳未満のMSMの受検希望があり、個別に連絡があり、対応を行った。

## D. 考察

今年度は新型コロナウイルスの影響で、保健所でのHIV検査機会の提供が休止になり、定期的に保健所で検査を受けていた人が、キットを受け取りに来ることがあつた。

## E. 結論

中四国地域で、ゆうそう検査キットの配布を初めて実施した。情報提供の準備を行い、クリニック検査と並行しつつ、ゆうそう検査キットの配布を実施した。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) Nakagiri I, Tasaka T, Okai M, Nakai F, Bunya R, Nagai S, Yoshida T, Tokunaga H, Kondo E, Wada H. : Screening for human immunodeficiency virus using a newly developed fourth generation lateral flow immunochromatography assay. J. Virol. Methods. 274 :113746, 2019.

## G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

表 1-1 経年別 保健所における受検者アンケート結果

\*2020 年度は 12 月分までの集計

	年度												合計 n=4684	Pearson カイ2乗	
	2015年度 n=945		2016年度 n=795		2017年度 n=837		2018年度 n=1009		2019年度 n=779		2020年度 n=319				
<b>保健所</b>															
岡山県	242	25.6%	235	29.6%	261	31.2%	286	28.3%	261	33.5%	156	48.9%	1441	30.8%	<b>&lt;0.01</b>
岡山市	429	45.4%	303	38.1%	329	39.3%	475	47.1%	248	31.8%	72	22.6%	1856	39.6%	
倉敷市	274	29.0%	257	32.3%	247	29.5%	248	24.6%	270	34.7%	91	28.5%	1387	29.6%	
<b>年齢層</b>															
19歳以下	28	3.0%	18	2.3%	28	3.3%	16	1.6%	22	2.8%	15	4.7%	127	2.7%	0.29
20-29歳	354	37.5%	293	36.9%	323	38.6%	389	38.6%	284	36.5%	116	36.4%	1759	37.6%	
30-39歳	302	32.0%	234	29.4%	223	26.6%	296	29.3%	220	28.2%	90	28.2%	1365	29.1%	
40-49歳	145	15.3%	137	17.2%	150	17.9%	158	15.7%	153	19.6%	53	16.6%	796	17.0%	
50-59歳	53	5.6%	51	6.4%	60	7.2%	77	7.6%	55	7.1%	19	6.0%	315	6.7%	
60歳以上	50	5.3%	52	6.5%	42	5.0%	62	6.1%	40	5.1%	23	7.2%	269	5.7%	
無回答	13	1.4%	10	1.3%	11	1.3%	11	1.1%	5	0.6%	3	0.9%	53	1.1%	
<b>居住地</b>															
岡山市	449	47.5%	339	42.6%	354	42.3%	479	47.5%	371	47.6%	148	46.4%	2140	45.7%	<b>&lt;0.01</b>
倉敷市	259	27.4%	250	31.4%	250	29.9%	244	24.2%	224	28.8%	86	27.0%	1313	28.0%	
県南東部	65	6.9%	48	6.0%	51	6.1%	74	7.3%	45	5.8%	20	6.3%	303	6.5%	
県南西部	39	4.1%	45	5.7%	69	8.2%	84	8.3%	42	5.4%	22	6.9%	301	6.4%	
高梁/新見/真庭/津山/英田	84	8.9%	73	9.2%	67	8.0%	79	7.8%	70	9.0%	31	9.7%	404	8.6%	
福山市	3	0.3%	0	0.0%	6	0.7%	6	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	15	0.3%	
県外・無回答	46	4.9%	40	5.0%	40	4.8%	43	4.3%	27	3.5%	12	3.8%	208	4.4%	
<b>性別</b>															
男性	646	68.4%	561	70.6%	575	68.7%	697	69.1%	523	67.1%	214	67.1%	3216	68.7%	0.46
女性	294	31.1%	233	29.3%	259	30.9%	304	30.1%	255	32.7%	103	32.3%	1448	30.9%	
その他	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.4%	0	0.0%	1	0.3%	6	0.1%	
無回答	4	0.4%	1	0.1%	3	0.4%	4	0.4%	1	0.1%	1	0.3%	14	0.3%	
<b>性指向別3群</b>															
MSM以外の男性	547	57.9%	483	60.8%	473	56.5%	597	59.2%	430	55.2%	169	53.0%	2699	57.6%	0.18
女性	294	31.1%	233	29.3%	259	30.9%	304	30.1%	255	32.7%	103	32.3%	1448	30.9%	
MSM	99	10.5%	78	9.8%	102	12.2%	100	9.9%	93	11.9%	45	14.1%	517	11.0%	
不明(性別がその他または不明)	5	0.5%	1	0.1%	3	0.4%	8	0.8%	1	0.1%	2	0.6%	20	0.4%	
<b>あなたはこれまでにセックスをしたことがありますか?</b>															
ある	935	98.9%	786	98.9%	826	98.7%	979	97.0%	757	97.2%	310	97.2%	4593	98.1%	<b>&lt;0.01</b>
ない	7	0.7%	4	0.5%	5	0.6%	8	0.8%	12	1.5%	2	0.6%	38	0.8%	
無回答	3	0.3%	5	0.6%	6	0.7%	22	2.2%	10	1.3%	7	2.2%	53	1.1%	
<b>あなたはこれまでにクラミジアや淋病、梅毒などの性感染症にかかったことはありますか?<sup>1)</sup></b>															
ある	220	23.5%	176	22.4%	168	20.3%	218	22.3%	169	22.3%	75	24.2%	1026	22.3%	0.78
ない	696	74.4%	595	75.7%	637	77.1%	747	76.3%	575	76.0%	230	74.2%	3480	75.8%	
無回答	19	2.0%	15	1.9%	21	2.5%	14	1.4%	13	1.7%	5	1.6%	87	1.9%	
<b>過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか?<sup>1)</sup></b>															
ある	273	29.2%	244	31.0%	223	27.0%	305	31.2%	204	26.9%	66	21.3%	1315	28.6%	<b>&lt;0.01</b>
ない	648	69.3%	533	67.8%	576	69.7%	667	68.1%	544	71.9%	240	77.4%	3208	69.8%	
無回答	14	1.5%	9	1.1%	27	3.3%	7	0.7%	9	1.2%	4	1.3%	70	1.5%	
<b>過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか?<sup>1)</sup></b>															
ある	25	2.7%	17	2.2%	30	3.6%	38	3.9%	26	3.4%	6	1.9%	142	3.1%	<b>&lt;0.01</b>
ない	885	94.7%	744	94.7%	757	91.6%	923	94.3%	716	94.6%	298	96.1%	4323	94.1%	
無回答	25	2.7%	25	3.2%	39	4.7%	18	1.8%	15	2.0%	6	1.9%	128	2.8%	
<b>あなたは検査に来る前に、以下の印刷物やロゴ、ホームページなどを見たことがありますか?</b>															
岡山県のホームページ	148	15.7%	134	16.9%	125	14.9%	175	17.3%	165	21.2%	71	22.3%	818	17.5%	<b>&lt;0.01</b>
岡山市のホームページ	158	16.7%	141	17.7%	146	17.4%	193	19.1%	159	20.4%	60	18.8%	857	18.3%	
倉敷市のホームページ	103	10.9%	89	11.2%	91	10.9%	106	10.5%	100	12.8%	42	13.2%	531	11.3%	0.57
あうとびーち	11	1.2%	17	2.1%	16	1.9%	11	1.1%	10	1.3%	2	0.6%	67	1.4%	0.21
HaaTえひめ	21	2.2%	17	2.1%	22	2.6%	22	2.2%	12	1.5%	7	2.2%	101	2.2%	0.80
fight!!	14	1.5%	17	2.1%	11	1.3%	8	0.8%	14	1.8%	4	1.3%	68	1.5%	0.26
やる!プロジェクト	8	0.8%	20	2.5%	23	2.7%	20	2.0%	23	3.0%	6	1.9%	100	2.1%	<b>0.03</b>
もんげー性病検査**	17	2.5%	27	3.4%	43	5.1%	59	5.8%	48	6.2%	21	6.6%	215	4.9%	<b>&lt;0.01</b>

\*\*「もんげー性病検査」は選択肢にない期間があり、それを除いて分析したため、総数は異なる。

1) これまでにセックスをしたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

表 1-2 経年別 保健所における受検者アンケート結果 (続き)

\*2020 年度は 12 月分までの集計

	年度												合計 n=4684	Pearson カイ2乗	
	2015年度 n=945		2016年度 n=795		2017年度 n=837		2018年度 n=1009		2019年度 n=779		2020年度 n=319				
今回を除いて、これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?															
ある	323	34.2%	300	37.7%	324	38.7%	381	37.8%	315	40.4%	142	44.5%	1785	38.1%	0.06
ない(今回初めて)	622	65.8%	494	62.1%	511	61.1%	625	61.9%	462	59.3%	177	55.5%	2891	61.7%	
無回答	0	0.0%	1	0.1%	2	0.2%	3	0.3%	2	0.3%	0	0.0%	8	0.2%	
今回を除いて、一番最近に受けたHIV検査(エイズ検査)はいつでしたか? <sup>2)</sup>															
過去1年間	83	25.7%	80	26.7%	93	28.7%	110	28.9%	108	34.3%	40	28.2%	514	28.8%	0.40
過去1~2年前(過去1年より以前)	104	32.2%	80	26.7%	113	34.9%	117	30.7%	92	29.2%	46	32.4%	552	30.9%	
過去3年以上前	128	39.6%	133	44.3%	112	34.6%	148	38.8%	110	34.9%	52	36.6%	683	38.3%	
無回答	8	2.5%	7	2.3%	6	1.9%	6	1.6%	5	1.6%	4	2.8%	36	2.0%	
これまでのHIV検査受検場所 <sup>2)</sup>															
保健所	259	80.2%	233	77.7%	233	71.9%	296	77.7%	234	74.3%	114	80.3%	1369	76.7%	0.20
エイズ治療拠点病院	10	3.1%	8	2.7%	17	5.2%	15	3.9%	16	5.1%	6	4.2%	72	4.0%	0.69
病院・診療所・クリニック	64	19.8%	67	22.3%	84	25.9%	89	23.4%	81	25.7%	31	21.8%	416	23.3%	0.65
郵送検査	4	1.2%	7	2.3%	18	5.6%	17	4.5%	18	5.7%	10	7.0%	74	4.1%	0.04
その他	4	1.2%	5	1.7%	9	2.8%	10	2.6%	5	1.6%	3	2.1%	36	2.0%	0.81
検査満足度 1) 話し方・言葉づかいはどうでしたか?															
とても満足	837	88.6%	681	85.7%	724	86.5%	852	84.4%	652	83.7%	276	86.5%	4022	85.9%	<0.01
やや満足	92	9.7%	87	10.9%	87	10.4%	102	10.1%	85	10.9%	32	10.0%	485	10.4%	
やや不満	5	0.5%	5	0.6%	6	0.7%	4	0.4%	5	0.6%	1	0.3%	26	0.6%	
とても不満	2	0.2%	5	0.6%	4	0.5%	3	0.3%	2	0.3%	2	0.6%	18	0.4%	
無回答	9	1.0%	17	2.1%	16	1.9%	48	4.8%	35	4.5%	8	2.5%	133	2.8%	
検査満足度 2) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか?															
とても満足	827	87.5%	682	85.8%	714	85.3%	837	83.0%	642	82.4%	271	85.0%	3973	84.8%	<0.01
やや満足	101	10.7%	82	10.3%	93	11.1%	114	11.3%	93	11.9%	36	11.3%	519	11.1%	
やや不満	6	0.6%	7	0.9%	8	1.0%	5	0.5%	5	0.6%	1	0.3%	32	0.7%	
とても不満	2	0.2%	7	0.9%	3	0.4%	3	0.3%	3	0.4%	3	0.9%	21	0.4%	
無回答	9	1.0%	17	2.1%	19	2.3%	50	5.0%	36	4.6%	8	2.5%	139	3.0%	
検査満足度 3) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか?															
とても満足	803	85.0%	660	83.0%	689	82.3%	816	80.9%	630	80.9%	267	83.7%	3865	82.5%	<0.01
やや満足	118	12.5%	95	11.9%	109	13.0%	124	12.3%	97	12.5%	39	12.2%	582	12.4%	
やや不満	12	1.3%	16	2.0%	15	1.8%	12	1.2%	13	1.7%	2	0.6%	70	1.5%	
とても不満	3	0.3%	7	0.9%	6	0.7%	7	0.7%	3	0.4%	3	0.9%	29	0.6%	
無回答	9	1.0%	17	2.1%	18	2.2%	50	5.0%	36	4.6%	8	2.5%	138	2.9%	
検査満足度 4) プライバシー保護についてはどうでしたか?															
とても満足	743	78.6%	616	77.5%	649	77.5%	765	75.8%	583	74.8%	250	78.4%	3606	77.0%	<0.01
やや満足	150	15.9%	120	15.1%	127	15.2%	139	13.8%	118	15.1%	52	16.3%	706	15.1%	
やや不満	37	3.9%	32	4.0%	35	4.2%	45	4.5%	33	4.2%	5	1.6%	187	4.0%	
とても不満	3	0.3%	7	0.9%	9	1.1%	10	1.0%	7	0.9%	3	0.9%	39	0.8%	
無回答	12	1.3%	20	2.5%	17	2.0%	50	5.0%	38	4.9%	9	2.8%	146	3.1%	
HIV検査(エイズ検査)で受けやすいのはどれですか? <sup>3)</sup>															
平日日中	325	35.9%	294	39.8%	306	38.5%	419	44.3%	297	38.9%	138	46.8%	1779	40.0%	<0.01
平日夜間	452	49.9%	401	54.3%	420	52.9%	483	51.1%	393	51.4%	149	50.5%	2298	51.7%	0.56
土曜日	339	37.4%	297	40.2%	297	37.4%	374	39.5%	327	42.8%	120	40.7%	1754	39.5%	0.23
日曜日	370	40.8%	324	43.8%	338	42.6%	414	43.8%	343	44.9%	127	43.1%	1916	43.1%	0.65
その他	24	2.6%	21	2.8%	16	2.0%	11	1.2%	9	1.2%	7	2.4%	88	2.0%	0.05
あなたは検査広報カードをみたことがありますか?															
ある	60	6.3%	55	6.9%	58	6.9%	72	7.1%	71	9.1%	29	9.1%	345	7.4%	0.02
ない	878	92.9%	733	92.2%	770	92.0%	913	90.5%	693	89.0%	284	89.0%	4271	91.2%	
無回答	7	0.7%	7	0.9%	9	1.1%	24	2.4%	15	1.9%	6	1.9%	68	1.5%	
どこで見ましたか? <sup>4)</sup>															
トイレ	21	35.0%	15	27.3%	16	27.6%	21	29.2%	32	45.1%	9	31.0%	114	33.0%	0.35
会社	4	6.7%	1	1.8%	4	6.9%	1	1.4%	0	0.0%	2	6.9%	12	3.5%	0.19
学校・大学	2	3.3%	4	7.3%	3	5.2%	4	5.6%	3	4.2%	0	0.0%	16	4.6%	0.70
病院	16	26.7%	13	23.6%	18	31.0%	33	45.8%	26	36.6%	12	41.4%	118	34.2%	0.18
クラブイベント	5	8.3%	5	9.1%	6	10.3%	3	4.2%	4	5.6%	2	6.9%	25	7.2%	0.70
ゲイバー	8	13.3%	9	16.4%	8	13.8%	5	6.9%	11	15.5%	3	10.3%	44	12.8%	0.60
その他	15	25.0%	17	30.9%	14	24.1%	17	23.6%	10	14.1%	6	20.7%	79	22.9%	0.41

2) これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

3) 無回答を除いて分析したため、総数は異なる。

4) 検査広報カードをみたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

表 2-1 経年別 拠点病院における受検者アンケート結果

	年度										合計 n=381	Pearson カイ2乗	
	2015年度 n=32		2016年度 n=56		2017年度 n=109		2018年度 n=71		2019年度 n=113				
<b>年齢層</b>													
19歳以下	1	3.1%	2	3.6%	2	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.3%	0.19
20-29歳	7	21.9%	21	37.5%	40	36.7%	33	46.5%	51	45.1%	152	39.9%	
30-39歳	9	28.1%	19	33.9%	33	30.3%	16	22.5%	36	31.9%	113	29.7%	
40-49歳	6	18.8%	9	16.1%	19	17.4%	12	16.9%	15	13.3%	61	16.0%	
50-59歳	2	6.3%	2	3.6%	9	8.3%	4	5.6%	4	3.5%	21	5.5%	
60歳以上	6	18.8%	3	5.4%	5	4.6%	6	8.5%	4	3.5%	24	6.3%	
無回答	1	3.1%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	3	2.7%	5	1.3%	
<b>居住地</b>													
岡山市	10	31.3%	35	62.5%	60	55.0%	32	45.1%	55	48.7%	192	50.4%	0.37
倉敷市	10	31.3%	8	14.3%	24	22.0%	17	23.9%	25	22.1%	84	22.0%	
県南東部	3	9.4%	2	3.6%	3	2.8%	5	7.0%	7	6.2%	20	5.2%	
県南西部	2	6.3%	7	12.5%	11	10.1%	5	7.0%	10	8.8%	35	9.2%	
高梁/新見/真庭/津山/英田	5	15.6%	2	3.6%	8	7.3%	8	11.3%	12	10.6%	35	9.2%	
福山市	0	0.0%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%	
県外・無回答	2	6.3%	2	3.6%	1	0.9%	4	5.6%	4	3.5%	13	3.4%	
<b>性別</b>													
男性	27	84.4%	43	76.8%	81	74.3%	60	84.5%	93	82.3%	304	79.8%	0.10
女性	4	12.5%	13	23.2%	28	25.7%	11	15.5%	19	16.8%	75	19.7%	
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.3%	
無回答	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	
<b>性指向別3群</b>													
MSM以外の男性	24	75.0%	35	62.5%	70	64.2%	52	73.2%	83	73.5%	264	69.3%	0.41
女性	4	12.5%	13	23.2%	28	25.7%	11	15.5%	19	16.8%	75	19.7%	
MSM	3	9.4%	8	14.3%	11	10.1%	8	11.3%	10	8.8%	40	10.5%	
不明(性別がその他または不明)	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	2	0.5%	
<b>あなたはこれまでにセックスをしたことがありますか?</b>													
ある	31	96.9%	55	98.2%	108	99.1%	70	98.6%	109	96.5%	373	97.9%	0.88
ない	1	3.1%	1	1.8%	1	0.9%	1	1.4%	3	2.7%	7	1.8%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.3%	
<b>あなたはこれまでにクラミジアや淋病、梅毒などの性感染症にかかったことはありますか?<sup>1)</sup></b>													
ある	4	12.9%	13	23.6%	27	25.0%	14	20.0%	27	24.8%	85	22.8%	0.75
ない	27	87.1%	42	76.4%	81	75.0%	56	80.0%	81	74.3%	287	76.9%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.3%	
<b>過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか?<sup>1)</sup></b>													
ない	0	0.0%	44	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	44	11.8%	<0.01
無回答	31	100.0%	11	20.0%	108	100.0%	70	100.0%	109	100.0%	329	88.2%	
<b>過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか?<sup>1)</sup></b>													
ない	0	0.0%	44	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	44	11.8%	<0.01
無回答	31	100.0%	11	20.0%	108	100.0%	70	100.0%	109	100.0%	329	88.2%	
<b>あなたは検査に来る前に、以下の印刷物やロゴ、ホームページなどを見たことがありますか?</b>													
岡山県のホームページ	6	18.8%	21	37.5%	32	29.4%	21	29.6%	35	31.0%	115	30.2%	0.48
岡山市のホームページ	4	12.5%	9	16.1%	24	22.0%	13	18.3%	23	20.4%	73	19.2%	
倉敷市のホームページ	2	6.3%	5	8.9%	4	3.7%	8	11.3%	5	4.4%	24	6.3%	0.23
あうとびーち	1	3.1%	1	1.8%	2	1.8%	3	4.2%	2	1.8%	9	2.4%	
HaaTえひめ	1	3.1%	2	3.6%	2	1.8%	2	2.8%	1	0.9%	8	2.1%	0.78
fight!!	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	2	2.8%	4	3.5%	7	1.8%	
やる!プロジェクト	1	3.1%	3	5.4%	3	2.8%	0	0.0%	1	0.9%	8	2.1%	0.23
もんげー性病検査**	1	3.1%	4	7.1%	5	4.6%	7	9.9%	9	8.0%	26	6.8%	

\*\* 「もんげー性病検査」は選択肢にない期間があり、それを除いて分析したため、総数は異なる。

1) これまでにセックスをしたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

表 2-2 経年別 拠点病院における受検者アンケート結果（続き）

	年度										Pearson カイ2乗		
	2015年度 n=32		2016年度 n=56		2017年度 n=109		2018年度 n=71		2019年度 n=113			合計 n=381	
今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？													
ある	12	37.5%	30	53.6%	47	43.1%	41	57.7%	40	35.4%	170	44.6%	0.10
ない(今回初めて)	20	62.5%	26	46.4%	62	56.9%	30	42.3%	72	63.7%	210	55.1%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.3%	
今回を除いて、一番最近に受けたHIV検査（エイズ検査）はいつでしたか <sup>2)</sup>													
過去1年間	5	41.7%	12	40.0%	12	25.5%	11	26.8%	21	52.5%	61	35.9%	0.24
過去1~2年前(過去1年より以前)	4	33.3%	11	36.7%	14	29.8%	17	41.5%	10	25.0%	56	32.9%	
過去3年以上前	3	25.0%	7	23.3%	21	44.7%	12	29.3%	8	20.0%	51	30.0%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.4%	1	2.5%	2	1.2%	
これまでのHIV検査受検場所 <sup>2)</sup>													
保健所	10	83.3%	13	43.3%	23	48.9%	16	39.0%	10	25.0%	72	42.4%	<b>0.03</b>
エイズ治療拠点病院	4	33.3%	12	40.0%	13	27.7%	14	34.1%	16	40.0%	59	34.7%	0.72
病院・診療所・クリニック	6	50.0%	10	33.3%	22	46.8%	19	46.3%	18	45.0%	75	44.1%	0.74
郵送検査	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.0%	3	1.8%	0.21
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.5%	1	0.6%	0.58
検査満足度 1) 話し方・言葉づかいはどうでしたか？													
とても満足	24	75.0%	46	82.1%	87	79.8%	55	77.5%	70	61.9%	282	74.0%	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	7	21.9%	8	14.3%	19	17.4%	14	19.7%	25	22.1%	73	19.2%	
やや不満	0	0.0%	2	3.6%	2	1.8%	2	2.8%	2	1.8%	8	2.1%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	
無回答	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	14.2%	17	4.5%	
検査満足度 2) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか？													
とても満足	24	75.0%	45	80.4%	83	76.1%	52	73.2%	68	60.2%	272	71.4%	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	6	18.8%	6	10.7%	19	17.4%	12	16.9%	26	23.0%	69	18.1%	
やや不満	1	3.1%	4	7.1%	6	5.5%	7	9.9%	3	2.7%	21	5.5%	
とても不満	0	0.0%	1	1.8%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%	
無回答	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	14.2%	17	4.5%	
検査満足度 3) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか？													
とても満足	22	68.8%	46	82.1%	80	73.4%	52	73.2%	69	61.1%	269	70.6%	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	6	18.8%	6	10.7%	22	20.2%	16	22.5%	24	21.2%	74	19.4%	
やや不満	3	9.4%	2	3.6%	5	4.6%	3	4.2%	4	3.5%	17	4.5%	
とても不満	0	0.0%	2	3.6%	2	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.0%	
無回答	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	14.2%	17	4.5%	
検査満足度 4) プライバシー保護についてはどうでしたか？													
とても満足	20	62.5%	46	82.1%	77	70.6%	55	77.5%	69	61.1%	267	70.1%	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	10	31.3%	5	8.9%	22	20.2%	13	18.3%	23	20.4%	73	19.2%	
やや不満	1	3.1%	5	8.9%	7	6.4%	3	4.2%	5	4.4%	21	5.5%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	3	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.8%	
無回答	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	14.2%	17	4.5%	
HIV検査(エイズ検査)で受けやすいのはどれですか？													
平日日中	13	40.6%	25	44.6%	48	44.0%	27	38.0%	44	38.9%	157	41.2%	0.88
平日夜間	12	37.5%	21	37.5%	45	41.3%	26	36.6%	50	44.2%	154	40.4%	0.83
土曜日	17	53.1%	26	46.4%	45	41.3%	32	45.1%	62	54.9%	182	47.8%	0.32
日曜日	13	40.6%	23	41.1%	40	36.7%	29	40.8%	46	40.7%	151	39.6%	0.97
その他	1	3.1%	0	0.0%	2	1.8%	4	5.6%	3	2.7%	10	2.6%	0.36
あなたは検査広報カードをみたことがありますか？													
ある	2	6.3%	7	12.5%	8	7.3%	12	16.9%	12	10.6%	41	10.8%	0.50
ない	30	93.8%	49	87.5%	101	92.7%	59	83.1%	100	88.5%	339	89.0%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.3%	
どこで見ましたか <sup>2)</sup>													
トイレ	0	0.0%	4	57.1%	2	25.0%	3	25.0%	6	50.0%	15	36.6%	0.34
会社	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	16.7%	0	0.0%	2	4.9%	0.28
学校・大学	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.4%	0.38
病院	1	50.0%	5	71.4%	4	50.0%	6	50.0%	9	75.0%	25	61.0%	0.66
クラブイベント	0	0.0%	1	14.3%	1	12.5%	0	0.0%	1	8.3%	3	7.3%	0.75
ゲイバー	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	16.7%	3	7.3%	0.06
その他	0	0.0%	1	14.3%	2	25.0%	1	8.3%	0	0.0%	4	9.8%	0.43

2) これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

3) 検査広報カードをみたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

表 3-1 経年別 クリニック検査における受検者アンケート結果

\*2020年度は第1回分のみの集計

	年度												合計 n=259	Pearson カイ2乗	
	2015年度 n=29		2016年度 n=37		2017年度 n=55		2018年度 n=59		2019年度 n=60		2020年度 n=19				
<b>年齢層</b>															
19歳以下	0	0.0%	0	0.0%	2	3.6%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	3	1.2%	0.06
20-29歳	15	51.7%	11	29.7%	19	34.5%	22	37.3%	17	28.3%	7	36.8%	91	35.1%	
30-39歳	7	24.1%	13	35.1%	18	32.7%	19	32.2%	13	21.7%	4	21.1%	74	28.6%	
40-49歳	6	20.7%	13	35.1%	16	29.1%	12	20.3%	18	30.0%	6	31.6%	71	27.4%	
50-59歳	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	6	10.2%	10	16.7%	1	5.3%	18	6.9%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	1	5.3%	2	0.8%	
<b>居住地</b>															
岡山市	20	69.0%	24	64.9%	28	50.9%	33	55.9%	31	51.7%	8	42.1%	144	55.6%	0.77
倉敷市	6	20.7%	5	13.5%	8	14.5%	12	20.3%	9	15.0%	3	15.8%	43	16.6%	
県南東部	0	0.0%	3	8.1%	3	5.5%	3	5.1%	5	8.3%	3	15.8%	17	6.6%	
県南西部	1	3.4%	0	0.0%	6	10.9%	2	3.4%	5	8.3%	2	10.5%	16	6.2%	
高梁/新見/真庭/津山/英田	0	0.0%	1	2.7%	3	5.5%	4	6.8%	5	8.3%	1	5.3%	14	5.4%	
県外・無回答	2	6.9%	4	10.8%	7	12.7%	5	8.5%	5	8.3%	2	10.5%	25	9.7%	
<b>性別</b>															
男性	29	100.0%	37	100.0%	55	100.0%	59	100.0%	59	98.3%	19	100.0%	258	99.6%	0.65
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	1	0.4%	
<b>性指向別3群</b>															
MSM以外の男性	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	10.0%	1	5.3%	8	3.1%	0.05
MSM	28	96.6%	37	100.0%	55	100.0%	59	100.0%	53	88.3%	18	94.7%	250	96.5%	
不明(性別がその他または不明)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	1	0.4%	
<b>あなたはこれまでにセックスをしたことがありますか?</b>															
ある	29	100.0%	37	100.0%	55	100.0%	59	100.0%	59	98.3%	19	100.0%	258	99.6%	0.65
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	1	0.4%	
<b>あなたはこれまでにクラミジアや淋病、梅毒などの性感染症にかかったことはありますか?<sup>1)</sup></b>															
ある	9	31.0%	8	21.6%	9	16.4%	19	32.2%	17	28.8%	6	31.6%	68	26.4%	0.41
ない	20	69.0%	29	78.4%	46	83.6%	40	67.8%	42	71.2%	13	68.4%	190	73.6%	
<b>過去6ヶ月間に相手からお金を払ってセックスをしたことがありますか?<sup>1)</sup></b>															
ある	2	6.9%	4	10.8%	1	1.8%	7	11.9%	11	18.6%	2	10.5%	27	10.5%	<0.01
ない	27	93.1%	33	89.2%	24	43.6%	52	88.1%	48	81.4%	17	89.5%	201	77.9%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	30	54.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	30	11.6%	
<b>過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか?<sup>1)</sup></b>															
ある	2	6.9%	1	2.7%	1	1.8%	4	6.8%	3	5.1%	0	0.0%	11	4.3%	<0.01
ない	27	93.1%	36	97.3%	24	43.6%	55	93.2%	56	94.9%	19	100.0%	217	84.1%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	30	54.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	30	11.6%	
<b>あなたは検査に来る前に、以下の印刷物やロゴ、ホームページなどを見たことがありますか?</b>															
岡山県のホームページ	4	13.8%	9	24.3%	9	16.4%	6	10.2%	12	20.0%	3	15.8%	43	16.6%	0.54
岡山市のホームページ	8	27.6%	9	24.3%	9	16.4%	6	10.2%	10	16.7%	2	10.5%	44	17.0%	0.28
倉敷市のホームページ	1	3.4%	3	8.1%	5	9.1%	1	1.7%	4	6.7%	0	0.0%	14	5.4%	0.41
あうとびーち	10	34.5%	5	13.5%	9	16.4%	10	16.9%	11	18.3%	3	15.8%	48	18.5%	0.32
HaaTえひめ	9	31.0%	15	40.5%	19	34.5%	16	27.1%	18	30.0%	6	31.6%	83	32.0%	0.82
fight!!	6	20.7%	10	27.0%	11	20.0%	12	20.3%	15	25.0%	3	15.8%	57	22.0%	0.91
やる!プロジェクト	2	6.9%	17	45.9%	19	34.5%	21	35.6%	18	30.0%	4	21.1%	81	31.3%	0.02
もんげー性病検査**	24	82.8%	32	86.5%	47	85.5%	49	83.1%	45	75.0%	17	89.5%	214	82.6%	0.59

\*\*「もんげー性病検査」は選択肢にない期間があり、それを除いて分析したため、総数は異なる。

1) これまでにセックスをしたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

表 3-2 経年別 クリニック検査における受検者アンケート結果 (続き)

\*2020年度は第1回分のみの集計

	年度												合計 n=259	Pearson カイ2乗	
	2015年度 n=29		2016年度 n=37		2017年度 n=55		2018年度 n=59		2019年度 n=60		2020年度 n=19				
今回を除いて、これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?															
ある	16	55.2%	27	73.0%	31	56.4%	46	78.0%	39	65.0%	12	63.2%	171	66.0%	0.30
ない(今回初めて)	13	44.8%	10	27.0%	24	43.6%	13	22.0%	20	33.3%	7	36.8%	87	33.6%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	1	0.4%	
今回を除いて、一番最近に受けたHIV検査(エイズ検査)はいつでしたか? <sup>2)</sup>															
過去1年間	5	31.3%	8	29.6%	18	58.1%	19	41.3%	15	38.5%	3	25.0%	68	39.8%	0.31
過去1~2年前(過去1年より以前)	7	43.8%	10	37.0%	10	32.3%	20	43.5%	19	48.7%	5	41.7%	71	41.5%	
過去3年以上前	4	25.0%	9	33.3%	3	9.7%	7	15.2%	4	10.3%	4	33.3%	31	18.1%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	1	0.6%	
これまでのHIV検査受検場所 <sup>2)</sup>															
保健所	14	87.5%	17	63.0%	16	51.6%	22	47.8%	18	46.2%	7	58.3%	94	55.0%	0.08
エイズ治療拠点病院	3	18.8%	3	11.1%	2	6.5%	5	10.9%	6	15.4%	1	8.3%	20	11.7%	0.81
病院・診療所・クリニック	4	25.0%	11	40.7%	20	64.5%	32	69.6%	30	76.9%	8	66.7%	105	61.4%	<0.01
郵送検査	0	0.0%	2	7.4%	1	3.2%	0	0.0%	2	5.1%	1	8.3%	6	3.5%	0.47
その他	0	0.0%	0	0.0%	1	3.2%	4	8.7%	2	5.1%	0	0.0%	7	4.1%	0.42
検査満足度 1) 話し方・言葉づかいはどうでしたか?															
とても満足	24	82.8%	33	89.2%	44	80.0%	51	86.4%	41	68.3%	12	63.2%	205	79.2%	<0.01
やや満足	5	17.2%	4	10.8%	10	18.2%	8	13.6%	8	13.3%	4	21.1%	39	15.1%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	18.3%	3	15.8%	14	5.4%	
検査満足度 2) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか?															
とても満足	20	69.0%	30	81.1%	43	78.2%	50	84.7%	41	68.3%	13	68.4%	197	76.1%	<0.01
やや満足	9	31.0%	7	18.9%	11	20.0%	9	15.3%	7	11.7%	3	15.8%	46	17.8%	
やや不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	1	0.4%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	18.3%	3	15.8%	14	5.4%	
検査満足度 3) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか?															
とても満足	21	72.4%	33	89.2%	42	76.4%	50	84.7%	41	68.3%	13	68.4%	200	77.2%	<0.01
やや満足	8	27.6%	4	10.8%	12	21.8%	8	13.6%	7	11.7%	3	15.8%	42	16.2%	
やや不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	1	1.7%	0	0.0%	2	0.8%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	18.3%	3	15.8%	14	5.4%	
検査満足度 4) プライバシー保護についてはどうでしたか?															
とても満足	17	58.6%	29	78.4%	42	76.4%	50	84.7%	39	65.0%	12	63.2%	189	73.0%	<0.01
やや満足	11	37.9%	7	18.9%	10	18.2%	7	11.9%	8	13.3%	4	21.1%	47	18.1%	
やや不満	1	3.4%	0	0.0%	2	3.6%	2	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.9%	
とても不満	0	0.0%	1	2.7%	1	1.8%	0	0.0%	2	3.3%	0	0.0%	4	1.5%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	18.3%	3	15.8%	14	5.4%	
HIV検査(エイズ検査)で受けやすいのはどれですか? <sup>3)</sup>															
平日日中	10	34.5%	12	33.3%	19	34.5%	24	40.7%	24	42.1%	6	31.6%	95	37.3%	0.90
平日夜間	20	69.0%	22	61.1%	26	47.3%	28	47.5%	28	49.1%	11	57.9%	135	52.9%	0.32
土曜日	20	69.0%	20	55.6%	30	54.5%	32	54.2%	31	54.4%	12	63.2%	145	56.9%	0.78
日曜日	18	62.1%	23	63.9%	30	54.5%	31	52.5%	34	59.6%	12	63.2%	148	58.0%	0.85
その他	2	6.9%	2	5.6%	3	5.5%	1	1.7%	2	3.5%	0	0.0%	10	3.9%	0.72
あなたは検査広報カードをみたことがありますか?															
ある	4	13.8%	9	24.3%	11	20.0%	17	28.8%	18	30.0%	5	26.3%	64	24.7%	0.36
ない	25	86.2%	28	75.7%	44	80.0%	42	71.2%	40	66.7%	14	73.7%	193	74.5%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.3%	0	0.0%	2	0.8%	
どこで見ましたか? <sup>4)</sup>															
トイレ	2	50.0%	2	22.2%	2	18.2%	2	11.8%	4	22.2%	0	0.0%	12	18.8%	0.48
会社	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	2	3.1%	0.63
学校・大学	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	0.43
病院	1	25.0%	2	22.2%	3	27.3%	3	17.6%	5	27.8%	2	40.0%	16	25.0%	0.94
クラブイベント	1	25.0%	3	33.3%	3	27.3%	3	17.6%	6	33.3%	2	40.0%	18	28.1%	0.89
ゲイバー	3	75.0%	5	55.6%	5	45.5%	14	82.4%	5	27.8%	2	40.0%	34	53.1%	0.04
その他	0	0.0%	3	33.3%	4	36.4%	0	0.0%	6	33.3%	0	0.0%	13	20.3%	0.05

2) これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

3) 無回答を除いて分析したため、総数は異なる。

4) 検査広報カードをみたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

表 4-1 2019 年度検査機関別 保健所における受検者アンケート結果

	岡山県 n=261		岡山市 n=248		倉敷市 n=270		拠点病院 n=113		クリニック n=60		合計 n=952		Pearson カイ2乗
<b>年齢層</b>													
19歳以下	8	3.1%	8	3.2%	6	2.2%	0	0.0%	1	1.7%	23	2.4%	<b>0.01</b>
20-29歳	83	31.8%	100	40.3%	101	37.4%	51	45.1%	17	28.3%	352	37.0%	
30-39歳	79	30.3%	71	28.6%	70	25.9%	36	31.9%	13	21.7%	269	28.3%	
40-49歳	58	22.2%	46	18.5%	49	18.1%	15	13.3%	18	30.0%	186	19.5%	
50-59歳	20	7.7%	13	5.2%	22	8.1%	4	3.5%	10	16.7%	69	7.2%	
60歳以上	11	4.2%	9	3.6%	20	7.4%	4	3.5%	0	0.0%	44	4.6%	
無回答	2	0.8%	1	0.4%	2	0.7%	3	2.7%	1	1.7%	9	0.9%	
<b>居住地</b>													
岡山市	125	47.9%	202	81.5%	44	16.3%	55	48.7%	31	51.7%	457	48.0%	<b>&lt;0.01</b>
倉敷市	26	10.0%	14	5.6%	184	68.1%	25	22.1%	9	15.0%	258	27.1%	
県南東部	19	7.3%	17	6.9%	9	3.3%	7	6.2%	5	8.3%	57	6.0%	
県南西部	17	6.5%	7	2.8%	18	6.7%	10	8.8%	5	8.3%	57	6.0%	
高梁/新見/真庭/津山/英田	60	23.0%	5	2.0%	5	1.9%	12	10.6%	5	8.3%	87	9.1%	
県外・無回答	14	5.4%	3	1.2%	10	3.7%	4	3.5%	5	8.3%	36	3.8%	
<b>性別</b>													
男性	183	70.1%	154	62.1%	186	68.9%	93	82.3%	59	98.3%	675	70.9%	<b>&lt;0.01</b>
女性	78	29.9%	94	37.9%	83	30.7%	19	16.8%	0	0.0%	274	28.8%	
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	1	0.1%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	1.7%	2	0.2%	
<b>性指向別3群</b>													
MSM以外の男性	159	60.9%	125	50.4%	146	54.1%	83	73.5%	6	10.0%	519	54.5%	<b>&lt;0.01</b>
女性	78	29.9%	94	37.9%	83	30.7%	19	16.8%	0	0.0%	274	28.8%	
MSM	24	9.2%	29	11.7%	40	14.8%	10	8.8%	53	88.3%	156	16.4%	
不明(性別がその他または不明)	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.9%	1	1.7%	3	0.3%	
<b>あなたはこれまでにセックスをしたことがありますか?</b>													
ある	251	96.2%	239	96.4%	267	98.9%	109	96.5%	59	98.3%	925	97.2%	0.40
ない	7	2.7%	4	1.6%	1	0.4%	3	2.7%	0	0.0%	15	1.6%	
無回答	3	1.1%	5	2.0%	2	0.7%	1	0.9%	1	1.7%	12	1.3%	
<b>あなたはこれまでにクラミジアや淋病、梅毒などの性感染症にかかったことはありますか<sup>1)</sup></b>													
ある	56	22.3%	54	22.6%	59	22.1%	27	24.8%	17	28.8%	213	23.0%	0.76
ない	192	76.5%	182	76.2%	201	75.3%	81	74.3%	42	71.2%	698	75.5%	
無回答	3	1.2%	3	1.3%	7	2.6%	1	0.9%	0	0.0%	14	1.5%	
<b>過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか<sup>1)</sup></b>													
ある	62	24.7%	52	21.8%	90	33.7%	0	0.0%	11	18.6%	215	23.2%	<b>&lt;0.01</b>
ない	186	74.1%	184	77.0%	174	65.2%	0	0.0%	48	81.4%	592	64.0%	
無回答	3	1.2%	3	1.3%	3	1.1%	109	100.0%	0	0.0%	118	12.8%	
<b>過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか<sup>1)</sup></b>													
ある	8	3.2%	10	4.2%	8	3.0%	0	0.0%	3	5.1%	29	3.1%	<b>&lt;0.01</b>
ない	236	94.0%	226	94.6%	254	95.1%	0	0.0%	56	94.9%	772	83.5%	
無回答	7	2.8%	3	1.3%	5	1.9%	109	100.0%	0	0.0%	124	13.4%	
<b>あなたは検査に来る前に、以下の印刷物やロゴ、ホームページなどを見たことがありますか?</b>													
岡山県のホームページ	83	31.8%	46	18.5%	36	13.3%	35	31.0%	12	20.0%	212	22.3%	<b>&lt;0.01</b>
岡山市のホームページ	50	19.2%	85	34.3%	24	8.9%	23	20.4%	10	16.7%	192	20.2%	<b>&lt;0.01</b>
倉敷市のホームページ	12	4.6%	9	3.6%	79	29.3%	5	4.4%	4	6.7%	109	11.4%	<b>&lt;0.01</b>
あうとびーち	1	0.4%	1	0.4%	8	3.0%	2	1.8%	11	18.3%	23	2.4%	<b>&lt;0.01</b>
HaaTえひめ	3	1.1%	3	1.2%	6	2.2%	1	0.9%	18	30.0%	31	3.3%	<b>&lt;0.01</b>
fight!!	4	1.5%	3	1.2%	7	2.6%	4	3.5%	15	25.0%	33	3.5%	<b>&lt;0.01</b>
やる!プロジェクト	5	1.9%	10	4.0%	8	3.0%	1	0.9%	18	30.0%	42	4.4%	<b>&lt;0.01</b>
もんげー性病検査**	13	5.0%	15	6.0%	20	7.4%	9	8.0%	45	75.0%	102	10.7%	<b>&lt;0.01</b>

\*\*「もんげー性病検査」は選択肢にない期間があり、それを除いて分析したため、総数は異なる。

1) これまでにセックスをしたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

表 4-2 2019 年度検査機関別 保健所における受検者アンケート結果 (続き)

	岡山県 n=261		岡山市 n=248		倉敷市 n=270		拠点病院 n=113		クリニック n=60		合計 n=952	Pearson カイ2乗	
今回を除いて、これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?													
ある	112	42.9%	104	41.9%	99	36.7%	40	35.4%	39	65.0%	394	41.4%	<b>&lt;0.01</b>
ない(今回初めて)	149	57.1%	144	58.1%	169	62.6%	72	63.7%	20	33.3%	554	58.2%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	0.7%	1	0.9%	1	1.7%	4	0.4%	
今回を除いて、一番最近に受けたHIV検査(エイズ検査)はいつでしたか?													
過去1年間	40	35.7%	38	36.5%	30	30.3%	21	52.5%	15	38.5%	144	36.5%	0.07
過去1~2年前(過去1年より以前)	33	29.5%	32	30.8%	27	27.3%	10	25.0%	19	48.7%	121	30.7%	
過去3年以上前	38	33.9%	32	30.8%	40	40.4%	8	20.0%	4	10.3%	122	31.0%	
無回答	1	0.9%	2	1.9%	2	2.0%	1	2.5%	1	2.6%	7	1.8%	
これまでのHIV検査受検場所 <sup>2)</sup>													
保健所	81	72.3%	80	76.9%	73	73.7%	10	25.0%	18	46.2%	262	66.5%	<b>&lt;0.01</b>
エイズ治療拠点病院	10	8.9%	1	1.0%	5	5.1%	16	40.0%	6	15.4%	38	9.6%	
病院・診療所・クリニック	29	25.9%	23	22.1%	29	29.3%	18	45.0%	30	76.9%	129	32.7%	<b>&lt;0.01</b>
郵送検査	9	8.0%	5	4.8%	4	4.0%	2	5.0%	2	5.1%	22	5.6%	
その他	2	1.8%	2	1.9%	1	1.0%	1	2.5%	2	5.1%	8	2.0%	0.77
HIV検査(エイズ検査)で受けやすいのはどれですか? <sup>3)</sup>													
平日日中	104	39.8%	107	43.1%	86	31.9%	44	38.9%	24	40.0%	365	38.3%	<b>0.01</b>
平日夜間	126	50.0%	139	56.3%	128	48.3%	50	44.2%	28	49.1%	471	50.4%	
土曜日	123	48.8%	97	39.3%	107	40.4%	62	54.9%	31	54.4%	420	45.0%	0.01
日曜日	118	46.8%	98	39.7%	127	47.9%	46	40.7%	34	59.6%	423	45.3%	<b>0.04</b>
その他	3	1.2%	4	1.6%	2	0.8%	3	2.7%	2	3.5%	14	1.5%	0.44
検査満足度 1) 話し方・言葉づかいはどうでしたか?													
とても満足	214	82.0%	198	79.8%	240	88.9%	70	61.9%	41	68.3%	763	80.1%	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	38	14.6%	32	12.9%	15	5.6%	25	22.1%	8	13.3%	118	12.4%	
やや不満	3	1.1%	0	0.0%	2	0.7%	2	1.8%	0	0.0%	7	0.7%	
とても不満	0	0.0%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	
無回答	6	2.3%	16	6.5%	13	4.8%	16	14.2%	11	18.3%	62	6.5%	
検査満足度 2) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか?													
とても満足	206	78.9%	198	79.8%	238	88.1%	68	60.2%	41	68.3%	751	78.9%	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	47	18.0%	31	12.5%	15	5.6%	26	23.0%	7	11.7%	126	13.2%	
やや不満	2	0.8%	0	0.0%	3	1.1%	3	2.7%	1	1.7%	9	0.9%	
とても不満	0	0.0%	2	0.8%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%	
無回答	6	2.3%	17	6.9%	13	4.8%	16	14.2%	11	18.3%	63	6.6%	
検査満足度 3) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか?													
とても満足	204	78.2%	197	79.4%	229	84.8%	69	61.1%	41	68.3%	740	77.7%	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	44	16.9%	29	11.7%	24	8.9%	24	21.2%	7	11.7%	128	13.4%	
やや不満	7	2.7%	3	1.2%	3	1.1%	4	3.5%	1	1.7%	18	1.9%	
とても不満	0	0.0%	2	0.8%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%	
無回答	6	2.3%	17	6.9%	13	4.8%	16	14.2%	11	18.3%	63	6.6%	
検査満足度 4) プライバシー保護についてはどうでしたか?													
とても満足	189	72.4%	189	76.2%	205	75.9%	69	61.1%	39	65.0%	691	72.6%	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	56	21.5%	30	12.1%	32	11.9%	23	20.4%	8	13.3%	149	15.7%	
やや不満	9	3.4%	8	3.2%	16	5.9%	5	4.4%	0	0.0%	38	4.0%	
とても不満	1	0.4%	2	0.8%	4	1.5%	0	0.0%	2	3.3%	9	0.9%	
無回答	6	2.3%	19	7.7%	13	4.8%	16	14.2%	11	18.3%	65	6.8%	
あなたは検査広報カードをみたことがありますか?													
ある	34	13.0%	17	6.9%	20	7.4%	12	10.6%	18	30.0%	101	10.6%	<b>&lt;0.01</b>
ない	224	85.8%	224	90.3%	245	90.7%	100	88.5%	40	66.7%	833	87.5%	
無回答	3	1.1%	7	2.8%	5	1.9%	1	0.9%	2	3.3%	18	1.9%	
どこで見ましたか? <sup>4)</sup>													
トイレ	20	58.8%	8	47.1%	4	20.0%	6	50.0%	4	22.2%	42	41.6%	<b>0.02</b>
会社	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.6%	1	1.0%	
学校・大学	1	2.9%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.0%	0.19
病院	9	26.5%	9	52.9%	8	40.0%	9	75.0%	5	27.8%	40	39.6%	<b>0.03</b>
クラブイベント	2	5.9%	0	0.0%	2	10.0%	1	8.3%	6	33.3%	11	10.9%	<b>0.01</b>
ゲイバー	3	8.8%	3	17.6%	5	25.0%	2	16.7%	5	27.8%	18	17.8%	0.43
その他	5	14.7%	1	5.9%	4	20.0%	0	0.0%	6	33.3%	16	15.8%	0.09

2) これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

3) 無回答を除いて分析したため、総数は異なる。

4) 検査広報カードをみたことがあると回答した人を対象として分析したため、総数は異なる。

表6 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動

	アンケート回答のみ		検査利用		合計		Pearson カイ2乗	
	n=82		n=59		n=141			
<b>年齢階級</b>								
	24歳以下	19	23.2%	7	11.9%	26	18.4%	0.15
	25-34歳	30	36.6%	27	45.8%	57	40.4%	
	35-44歳	16	19.5%	17	28.8%	33	23.4%	
	45歳以上	17	20.7%	8	13.6%	25	17.7%	
<b>国籍</b>								
	日本	82	100.0%	59	100.0%	141	100.0%	-
	海外	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>居住地</b>								
	岩手県	0	0.0%	1	1.7%	1	0.7%	0.20
	福島県	1	1.2%	0	0.0%	1	0.7%	
	茨城県	0	0.0%	1	1.7%	1	0.7%	
	埼玉県	1	1.2%	2	3.4%	3	2.1%	
	東京都	1	1.2%	0	0.0%	1	0.7%	
	石川県	0	0.0%	1	1.7%	1	0.7%	
	大阪府	2	2.4%	0	0.0%	2	1.4%	
	兵庫県	0	0.0%	1	1.7%	1	0.7%	
	鳥取県	0	0.0%	1	1.7%	1	0.7%	
	島根県	3	3.7%	3	5.1%	6	4.3%	
	岡山県	17	20.7%	10	16.9%	27	19.1%	
	広島県	21	25.6%	14	23.7%	35	24.8%	
	山口県	3	3.7%	4	6.8%	7	5.0%	
	徳島県	1	1.2%	6	10.2%	7	5.0%	
	香川県	12	14.6%	6	10.2%	18	12.8%	
	愛媛県	17	20.7%	6	10.2%	23	16.3%	
	高知県	2	2.4%	3	5.1%	5	3.5%	
	福岡県	1	1.2%	0	0.0%	1	0.7%	
<b>性別</b>								
	男性	82	100.0%	59	100.0%	141	100.0%	-
	女性	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	トランスジェンダー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>セクシュアリティ</b>								
	ゲイ（男性同性愛者）	59	72.0%	42	71.2%	101	71.6%	0.97
	バイセクシュアル（両性愛者）	22	26.8%	16	27.1%	38	27.0%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	1	1.2%	1	1.7%	2	1.4%	
<b>居住形態</b>								
	独居	38	46.3%	36	61.0%	74	52.5%	0.09
	同居	44	53.7%	23	39.0%	67	47.5%	
	定住先はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	47	57.3%	40	67.8%	87	61.7%	0.22
	ない（今回が初めての検査）	35	42.7%	19	32.2%	54	38.3%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	18	22.0%	13	22.0%	31	22.0%	1.00
	ない	64	78.0%	46	78.0%	110	78.0%	
<b>過去1年の受検場所<sup>1)</sup>（複数回答）</b>								
	保健所	13	15.9%	8	13.6%	21	14.9%	0.81
	病院/クリニック	7	8.5%	5	8.5%	12	8.5%	
	郵送検査	2	2.4%	4	6.8%	6	4.3%	
	その他	1	1.2%	1	1.7%	2	1.4%	
<b>過去6カ月間の利用施設（複数回答）</b>								
	ゲイバー	20	24.4%	16	27.1%	36	25.5%	0.85
	ゲイイベント	1	1.2%	0	0.0%	1	0.7%	
	ゲイショップ	3	3.7%	2	3.4%	5	3.5%	
	有料のハッテン場	16	19.5%	6	10.2%	22	15.6%	
	野外のハッテン場	11	13.4%	4	6.8%	15	10.6%	
	いずれもない	46	56.1%	37	62.7%	83	58.9%	
							0.49	

1) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表7 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動

	アンケート回答のみ n=82		検査利用 n=59		合計 n=141		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく/少し知っている	44	53.7%	27	45.8%	71	50.4%	0.40
全く/あまり知らない	38	46.3%	32	54.2%	70	49.6%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	66	80.5%	53	89.8%	119	84.4%	0.16
ない	16	19.5%	6	10.2%	22	15.6%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	15	18.3%	26	44.1%	41	29.1%	0.00
友達やセクフレ	44	53.7%	35	59.3%	79	56.0%	0.61
その場限りの相手	33	40.2%	22	37.3%	55	39.0%	0.86
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	55	67.1%	45	76.3%	100	70.9%	0.26
ない	27	32.9%	14	23.7%	41	29.1%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	15	18.3%	6	10.2%	21	14.9%	0.23
ない	67	81.7%	53	89.8%	120	85.1%	
過去6か月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	10	12.2%	4	6.8%	14	9.9%	0.40
ない	72	87.8%	55	93.2%	127	90.1%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	3	3.7%	2	3.4%	5	3.5%	1.00
ない	79	96.3%	57	96.6%	136	96.5%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	2	2.4%	2	3.4%	4	2.8%	1.00
ない	80	97.6%	57	96.6%	137	97.2%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	0	0.0%	1	1.7%	1	0.7%	0.42
ない	82	100.0%	58	98.3%	140	99.3%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	54	65.9%	47	79.7%	101	71.6%	0.19
常用	12	14.6%	6	10.2%	18	12.8%	
過去6ヶ月間にない	16	19.5%	6	10.2%	22	15.6%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	41	50.0%	38	64.4%	79	56.0%	0.12
知らない	41	50.0%	21	35.6%	62	44.0%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	10	12.2%	7	11.9%	17	12.1%	0.19
服薬したい/どちらかといえば	31	37.8%	31	52.5%	62	44.0%	
知らない	41	50.0%	21	35.6%	62	44.0%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	1	1.2%	1	1.7%	2	1.4%	1.00
ない	81	98.8%	58	98.3%	139	98.6%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	10	12.2%	6	10.2%	16	11.3%	0.79
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
B型肝炎	3	3.7%	5	8.5%	8	5.7%	0.28
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	9	11.0%	8	13.6%	17	12.1%	0.79
尖圭コンジローマ	3	3.7%	2	3.4%	5	3.5%	1.00
淋病	2	2.4%	3	5.1%	5	3.5%	0.65
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	1	1.7%	1	0.7%	0.42
毛じらみ	15	18.3%	15	25.4%	30	21.3%	0.40
性器ヘルペス	2	2.4%	0	0.0%	2	1.4%	0.51
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
いずれもない	48	58.5%	33	55.9%	81	57.4%	0.86

## 九州における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：船石翔馬、灰来人（認定 NPO 法人 魅惑的倶楽部/コミュニティセンターHACO）

古賀康雅（博多区保健福祉センター）

山本政弘、南留美、高濱宗一郎（九州医療センター）

### 研究要旨

総計 104 キットをコミュニティセンターにおいて対面方式のみを使い配布した。アンケートに回答したものは 106 名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは 68 名 (65.4%) であった。そのうち 97.1% が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 1 件、梅毒の陽性件数は 6 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 68 名のうち、64 名はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体を郵送者の属性については、35 歳未満が 68% を占めた。福岡県の居住者が 87.5% であった。生涯初の検査経験割合は 20% であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 64% であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 25% を占めた。

### A. 研究目的

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、九州地域の MSM を対象に、自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受ける郵送検査をコミュニティセンターでの配布と WEB にて配布を行った。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間を限定して配布し、検査普及における有効性の評価を行うことを目的とした。

### B. 研究方法

コミュニティセンターにおいて、本プロジェクトに関する説明事項を含むウェブサイトを開設した。コミュニティセンターでの対面型配布のみとした。公式ホームページ、公式 Twitter、HACO スタッフ個人 Twitter、コミュニティセンター周辺のゲイ向け商業施設へのチラシ配布（ゲイバー、ハッテン場、ショップ

等の約 60 店舗）、スタッフ船石の 9monsters（ゲイ向けマッチングアプリ）アカウントで、ハウリングという機能を使って、今すぐ会いたい「HACO で郵送検査キットを無料配布。アンケート回答後にお渡ししています」と投稿した。

検査キット受け取り希望者はコミュニティセンターに直接来館し、その場でアンケートに答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後に受け渡す方法をとった。その際にはオリジナルのガイダンス用資材を独自で作成して活用した（資料 1、資料 2）。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

### C. 研究結果

#### 1. 郵送検査キットの配布日・概要

##### 第 1 弾

2020 年 12 月 14 日～12 月 26 日のコミュニティセンターオープン日（木、金、土、日、月、祝日）（月曜は通常オープン日ではないが、スタッフが対応した）。

##### 第 2 弾

2021 年 2 月 11 日～3 月 21 日のコミュニティセンターオープン日（木、金、土、日、祝日）

表1 郵送検査利用者の概要

	地域	福岡
	CBO	魁惑的倶楽部 福岡支部
	コミュニティセンター	HACO
a 配布数		104
b 受検者アンケート回答者数		106
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		68
利用率；配布数に占める利用者数(c/a)		65.4%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）	66	( 97.1%)
<b>抗体検査結果</b>		
<input type="checkbox"/> HIV感染症		
e 判定不能者数（割合 e/c）	1	( 1.5%)
f 陽性数（割合 f/c）	1	( 1.5%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	1.1	( 1.6%)
<input type="checkbox"/> 梅毒		
g 判定不能者数（割合 g/c）	1	( 1.5%)
h 陽性数（割合 h/c）	6	( 9.0%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	2.1	( 3.2%)
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）	64	( 94.1%)
j 追跡可能者実数；無料ID使用者実数（割合 j/c）**	63	( 92.6%)

\* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、(利用者数-判定不能者数)に乗じて求めた。

\*\* j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

\*\*\* すべての集計より再受検の重複は除いた。

## 2. 検体の送付状況とアンケートの結果

総計 104 キットを配布した。実際にアンケートに回答したものは 106 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 68 名 (65.4%) であった。そのうち 97.1%が結果にログインしていた。

HIV 陽性件数は 1 件、梅毒の陽性件数は 6 件 (既往歴も含む) であった。検体を郵送した 68 名のうち、64 名はアンケート結果との連結に同意していた。同意を得た受検者とアンケートに回答したが受検していないと考えられる人との比較集計結果を表 2、表 3 に示した。

郵送検査の受検利用者の属性については、35 歳未満が 68.8%を占めた。福岡県の居住者が 87.5%、その他の九州地域の居住者が 9.5%であった。

これまでの検査経験がなかったものの割合は 20.3%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 64.1%であった。過去 1 年間の検査場所で最も高かったのは保健所であり、26.6%であった。

過去 6 ヶ月間の男性との性交経験は 89.8%と高く、ハッテン場を利用した性交経験が 28.1%であった。3 人以上の複数人での性交経験も 21.9%であった。また過去 6 ヶ月間の PrEP の使用経験は 4.7%である一方で、コンドーム常用割合は 20.3% (男性とのアナルセックス経験者のうち、24.1%) であった。

MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをよくあるいは少し知っている人は 75.0%であった。

## 3. 実施しての振り返り

第 1 弾では短い広報期間、配布期間にもかかわらず、準備していた 50 セットを全て配布することができた。それを踏まえて、第 2 弾では第 1 弾より広報期間、配布期間が長いこともあり、100 セットを準備したが、全てを配布することはできなかった。

配布数の減少には、新型コロナウイルスが再流行し、緊急事態宣言が発令され、コミュニティセンターオープン時間が短縮したことも原因として考えられるが、他にも、ゲイバーに送って欲しいという問い合わせがあったことから、対面での受け渡しにこだわり過ぎたのも原因の一つと考えられる。

第 2 弾では、コミュニティセンターのオープン時間中には来館できない人のために、クローズ後に特別時間枠を設定し、予約限定で郵送検査キットも受け取れるようにしたが、期間中は 2 件しか予約はなく、特別時間枠に関しては課題が残った。

アンケートについては、だいたいの人が 5 分前後で回答していた。外国人には分かりにくい箇所があれば聞いてくださいと伝え、近くで待機していた。

説明・ガイダンスについては、経験豊富なスタッフが対応し、説明中に受取希望者が来た場合は若手スタッフが対応した。2 人の説明に差異がでないように、オリジナルのガイダンス用資料 (図 1、図 2) を作成し、それを活用して説明した。

待ち時間については、来館が集中することがなかったので待ち時間はほぼ発生しなかった。

相談については、検査キット受け渡し時の説明の際の質問や相談に関しては別途 Q&A 形式でまとめ (表 4)、すべてのスタッフが同一クオリティで対応できるようにした。

## D. 考察

今年度は新型コロナウイルスの影響で、保健所での HIV 検査が休止になり、定期的に保健所で検査を受けていた人が、検査キットを受け取りに来ることがあった。また、保健所やクリニックでの受検経験はあるが、郵送検査は生涯初という受検者も多かった。

このようなことから、郵送検査キットの無料配布キャンペーンは感染リスクの高い MSM に対して新たな検査機会の提供になったのでは

ないかと考えられる。郵送という直接人と接することが少ない検査方法は、コロナ禍に適していると考えられた。

福岡コミュニティセンターHACO では、郵送検査キットの配布方法は、対面による受け渡しのみ実施した。受検者と直接接することで、検査方法を詳細に伝えることができ、問い合わせに対してもその場で答えることで、受検者に対して安心感を与えることができた。スタッフ自身も受検者がどのような疑問を持っているかを知ることができた。

一方、コミュニティセンター来館者もいる中での受け渡しになり、受け渡しスペースとして場所は区切っていたが、限られた空間の中であったので、プライバシーへの配慮が十分ではなかったことが課題である。

## E. 結論

九州地域の福岡市内で対面型の検査キット配布を実施した。初めての試みであったが、入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型で経験を蓄積しつつ、利用者の不安を軽減する取り組みを開発し、計画通りに実施できた。今後は、九州の別地域での検査機会の拡大方法も検討する。

## F. 研究発表

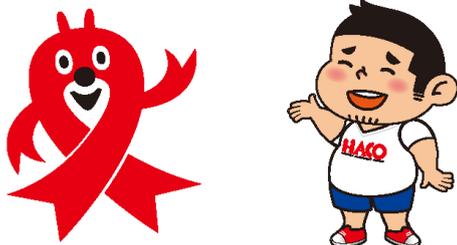
### 1. 論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.  
DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) Kaneko N, Shiono S, Hill AO, et al.: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan. *AIDS care*. 1-8. 2020.

## G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

世界エイズデー  
無料・匿名  
郵送検査キャンペーン  
at HACO



■HIVと梅毒の感染可能性が分かります！

- HIVの抗体検査と梅毒の抗体抗原検査です。

■今回使用するのは？

- アルバコーポレーション社のSTDチェッカー



■今回の検査はスクリーニング検査です

- 感染の可能性の有無を調べます。

●HIV検査の結果

●**陰性** 2～3ヶ月前までは感染していません。

●**陽性** 感染の可能性があるので、**確認検査**が必要。

**確認検査：博多保健所**  
第2第4水曜 16：00～18：00

●梅毒検査

●**陰性** 4週間ほど前までは感染していません。

●**陽性** 感染の可能性があるので、**確認検査**が必要。  
アルバコーポレーションの案内に従って  
受診してください。

■HIV/エイズについて

- エイズはHIVというウイルスに感染して起こる様々な病気の総称です。
- HIVは人の免疫細胞に感染し、**免疫力を破壊**していくウイルスです。
- 毎年1,300人を超える人が感染しています。
- 福岡県は特に、エイズを発症して感染が分かる人の割合が全国に比べて非常に高くなっています。
- エイズは以前は致死率が非常に高い病気でしたが、治療環境が大きく進歩し、**平均余命は非感染者と変わりなくなりました**。
- HIVに感染しても、きちんと治療を続ければエイズの発症を回避でき、**これまで通りの生活**ができます。
- 1日1回1錠の薬を飲むことで、ウイルスの活動や増殖を抑え、**血液検査で検出でされないレベル**に抑えることができます。
- もし感染していても、そのことを**家族や会社、学校、友人などに知らせる必要はありません**。
- 治療費**は収入に応じて無理なく支払える金額になる、**国の補助**があります。
- 現在でも感染を放置してエイズを発症し、手遅れになって亡くなる人もいますので、**早期発見早期治療**が有効です。

■梅毒について

- 梅毒**トレポネーマ**という細菌に感染して起こる、**代表的な性感染症**です。
- 2010年頃から感染者が急増しています。
- 治療しなくても症状が消えてしまう時期があるので、**注意**が必要です。
- 1度、感染を治療して完治していても、感染機会があれば**何度でも感染**します。
- 放置**すると全身の臓器に障害が広がり、**命に関わる**こともあります。
- 治療は、1日3回の服薬を症状により**2～8週間**行います。
- 梅毒などの性感染症に感染していると、HIVに感染しやすと言われています。

■予防するには

HIV

- HIVは精液と血液にいます。
- HIVは、粘膜や傷口に直接、大量に長時間接触することで感染リスクが高まります。
- HIVは、日常生活では感染しません。
- コンドームを使ったセーフなセックスで感染を防ぐことができます。

梅毒

- キスやオーラルセックスでも感染する強い感染力があります。
- 感染部位と粘膜や皮膚が直接触れないようコンドームを使いましょう。
- コンドームに覆われていない部分の皮膚で感染することもあるので、皮膚や粘膜に異常がある場合には、性的な接触は控えましょう！

検査のポイント

■採血できる部位



■検査に失敗しないポイント

- とにかく検査の前に血行をよくしておく！
- 入浴したり、温かいお湯などで手を温め、マッサージなどで血行をよくしておきましょう。
- ブレないように、硬いところに固定！
- 採血するときには、ついためらって、採血に失敗することがあります。手がブレたりしないように机などの硬いところに手を置いて行いましょう。
- 途中で血が止まってしまったら？
- 途中で血が止まってしまったら、マッサージなどで血行をよくしましょう。

■採血は赤い線まで！



- 1枚目はHIV用、2枚目は梅毒用です！

この線まで染み込ませる



■これはNG！→→→→→

量が足りないと、検査ができない！

■不安になったら

- 結果が出るまでに、不安が大きくなってしまったら電話相談を利用しましょう。

福岡市博多保健所エイズダイヤル  
092-441-0023  
(平日9:00~17:00)

■最後に

陽性判定が出たら  
必ず確認検査を受けてください！

- 郵送検査はあくまでも感染の可能性の有無を調べる検査です。正しい判定は確認検査で！
- HIVと構造が似た体内のタンパク質をHIVと誤認して陽性判定が出ることもあります。
- もし最終的にHIVに感染していることが分かっても、エイズにならずに済んだということです。
- 治療によって現在の健康状態をキープし、セックスを含めたこれまで通りの生活を送ることができ、治療費の軽減を含めた多くのサポートがあります！
- 性感染症はセックスをする人なら誰でも感染する可能性があります。コンドームを使ったセーフなセックスを心がけましょう！

■アンケートはこちら！



表2 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動

	アンケート回答のみ		検査利用		合計		Pearson カイ2乗	
	n=42		n=64		n=106			
<b>年齢階級</b>								
	24歳以下	6	14.3%	14	21.9%	20	18.9%	0.13
	25-34歳	14	33.3%	30	46.9%	44	41.5%	
	35-44歳	14	33.3%	10	15.6%	24	22.6%	
	45歳以上	8	19.0%	10	15.6%	18	17.0%	
<b>国籍<sup>1)</sup></b>								
	日本	40	95.2%	60	93.8%	100	94.3%	1.00
	海外	2	4.8%	4	6.3%	6	5.7%	
<b>居住地</b>								
	兵庫県	1	2.4%	0	0.0%	1	0.9%	0.31
	山口県	0	0.0%	2	3.1%	2	1.9%	
	福岡県	38	90.5%	56	87.5%	94	88.7%	
	佐賀県	1	2.4%	3	4.7%	4	3.8%	
	熊本県	0	0.0%	1	1.6%	1	0.9%	
	大分県	0	0.0%	1	1.6%	1	0.9%	
	鹿児島県	2	4.8%	0	0.0%	2	1.9%	
	沖縄県	0	0.0%	1	1.6%	1	0.9%	
<b>性別<sup>2)</sup></b>								
	男性	41	97.6%	64	100.0%	105	99.1%	0.40
	女性	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	トランスジェンダー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	1	2.4%	0	0.0%	1	0.9%	
<b>セクシュアリティ</b>								
	ゲイ（男性同性愛者）	34	81.0%	52	81.3%	86	81.1%	0.45
	バイセクシュアル（両性愛者）	7	16.7%	12	18.8%	19	17.9%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	1	2.4%	0	0.0%	1	0.9%	
<b>居住形態</b>								
	独居	23	54.8%	38	59.4%	61	57.5%	0.69
	同居	19	45.2%	26	40.6%	45	42.5%	
	定住先はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	33	78.6%	51	79.7%	84	79.2%	1.00
	ない（今回が初めての検査）	9	21.4%	13	20.3%	22	20.8%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	15	35.7%	23	35.9%	38	35.8%	1.00
	ない	27	64.3%	41	64.1%	68	64.2%	
<b>過去1年の受検場所<sup>3)</sup>（複数回答）</b>								
	保健所	8	19.0%	17	26.6%	25	23.6%	0.48
	病院/クリニック	1	2.4%	2	3.1%	3	2.8%	
	郵送検査	6	14.3%	4	6.3%	10	9.4%	
	その他	0	0.0%	2	3.1%	2	1.9%	
<b>過去6カ月間の利用施設（複数回答）</b>								
	ゲイバー	27	64.3%	30	46.9%	57	53.8%	0.11
	ゲイイベント	6	14.3%	9	14.1%	15	14.2%	
	ゲイショップ	6	14.3%	5	7.8%	11	10.4%	0.34
	有料のハッテン場	13	31.0%	20	31.3%	33	31.1%	
	野外のハッテン場	2	4.8%	4	6.3%	6	5.7%	1.00
	いずれもない	11	26.2%	28	43.8%	39	36.8%	

1) 海外の内訳は、アジア；台湾、ベトナム、 欧米；アメリカ。

2) その他は、ジェンダーフリーと回答。

3) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表3 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動

	アンケート回答のみ n=42		検査利用 n=64		合計 n=106		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく/少し知っている	32	76.2%	48	75.0%	80	75.5%	1.00
全く/あまり知らない	10	23.8%	16	25.0%	26	24.5%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	66	80.5%	53	89.8%	119	84.4%	0.24
ない	16	19.5%	6	10.2%	22	15.6%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	14	33.3%	10	15.6%	24	22.6%	0.06
友達やセクフレ	24	57.1%	40	62.5%	64	60.4%	0.69
その場限りの相手	19	45.2%	25	39.1%	44	41.5%	0.55
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	28	66.7%	44	68.8%	72	67.9%	0.84
ない	14	33.3%	20	31.3%	34	32.1%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	12	28.6%	18	28.1%	30	28.3%	1.00
ない	30	71.4%	46	71.9%	76	71.7%	
過去6か月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	8	19.0%	14	21.9%	22	20.8%	0.81
ない	34	81.0%	50	78.1%	84	79.2%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	1	2.4%	3	4.7%	4	3.8%	1.00
ない	41	97.6%	61	95.3%	102	96.2%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	1	2.4%	1	1.6%	2	1.9%	1.00
ない	41	97.6%	63	98.4%	104	98.1%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	0	0.0%	1	1.6%	1	0.9%	1.00
ない	42	100.0%	63	98.4%	105	99.1%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	30	71.4%	41	64.1%	71	67.0%	0.43
常用	9	21.4%	13	20.3%	22	20.8%	
過去6ヶ月間にない	3	7.1%	10	15.6%	13	12.3%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	27	64.3%	42	65.6%	69	65.1%	1.00
知らない	15	35.7%	22	34.4%	37	34.9%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	7	16.7%	14	21.9%	21	19.8%	0.80
服薬したい/どちらかといえば	20	47.6%	28	43.8%	48	45.3%	
知らない	15	35.7%	22	34.4%	37	34.9%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	1	2.4%	3	4.7%	4	3.8%	1.00
ない	41	97.6%	61	95.3%	102	96.2%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	6	14.3%	4	6.3%	10	9.4%	0.19
A型肝炎	0	0.0%	1	1.6%	1	0.9%	1.00
B型肝炎	2	4.8%	1	1.6%	3	2.8%	0.56
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	7	16.7%	7	10.9%	14	13.2%	0.40
尖圭コンジローマ	2	4.8%	2	3.1%	4	3.8%	0.65
淋病	1	2.4%	1	1.6%	2	1.9%	1.00
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
毛じらみ	16	38.1%	12	18.8%	28	26.4%	0.04
性器ヘルペス	1	2.4%	0	0.0%	1	0.9%	0.40
その他	2	4.8%	1	1.6%	3	2.8%	0.56
いずれもない	18	42.9%	42	65.6%	60	56.6%	0.03

表4 郵送検査キット配布時の受検者からの質問と対応事例

	質問内容	対応例
1	いつ結果が分かるのか？	検体が郵送検査会社に到着した後の1～3日後の21時には確認できるので、到着までの期間（土日を除く）+1～3日を考えて、約1週間後には確認できる。
2	（検査を受ける前に）家に何か送られてくることはないのか？	結果は、インターネットで確認するだけなので、郵便物等が送られてくることはない。
3	事前に郵送検査会社のサイトで利用者登録のようなものが必要なのか？	申込書に記入して送付するだけで、事前登録は必要なく、結果確認の時にIDとパスワードでログインするのみと回答。
4	2つ入っているランセットはHIVと梅毒の血液を取るときに、それぞれ使う必要があるのか？	1つで両方採血して構わないと回答。
5	ろ紙に血液を付けるとき、ろ紙の表面をこすって塗りつけていいのか？	ろ紙に先端に血玉を付けて、染み込ませると回答。
6	ランセットでうまく行かなかった場合には、自宅にあるマチ針などを使ってもいいのか？	雑菌が付いている危険があるので、2つともうまくいかなかったら、郵送検査会社のサポートに連絡するようにと回答。
7	どうして自然乾燥しないといけない？	濡れたままパッケージをたたむと雑菌が付く恐れがあり、ドライヤー等を使うと変質する可能性があるかと回答。
8	使っていないランセットはどうすればいいか？	一緒に送る。
9	ろ紙を乾燥させると菌やウイルスが死んで検査ができないんじゃないか？	残骸（タンパク質）で検査できます。
10	痛いですか？	傷をつけて出血させる検査なので、多少は痛みがある。
11	過去に梅毒に感染した経験があるので、抗体を持っていると思うが、陽性と出た場合にはどう捉えたらよいか？	梅毒は抗体を持っていても、感染機会があれば何度でも感染するので、確認検査が必要。
12	HIVだけの検査はできないのか？	梅毒の感染者の多くはHIVにも感染していることから、今回は両方を調査し検査しているため、片方だけの検査はできないと回答。
13	梅毒は、自分で感染したと分かるのか？	梅毒感染のステップを説明。第1期の性器や唇などのしこり、第2期のバラ疹などを説明。
14	感染リスクのあるセックスについて。	感染リスクが高まる行為について説明。
15	陽性が出たら、生活などどうなるのか？	HIV陽性となった場合の治療や医療費、生活について説明。
16	確認検査の際の保健所での検査の稼働状況を知りたい。	HACOのサイトでの情報をお知らせしていることを説明。ただし、事前に直接問い合わせることを推奨した。
17	アンケート内のセックスの定義が分からないので、アナルセックスだけを指すのか、他も含めるのか教えてほしい。	HIVはアナルセックスだけではなく、フェラチオでも感染することもあり、また梅毒は挿入を伴わないオーラルセックスでも感染するので、オーラルセックスも含めた性行為と捉えてOKと説明。

## 沖縄における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科 准教授）  
研究協力者：宮城京子、前田サオリ（琉球大学医学部附属病院看護部）、  
金崎慶太（沖縄県）、仲村秀太（琉球大学大学院医学研究科）、玉城祐貴（nankr 沖縄）

### 研究要旨

#### 研究Ⅰ クリニック検査の促進に関する研究

令和2年（2020年）、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的なパンデミックの影響で沖縄県内の保健所における HIV 検査が 80%も減少し、特に3月以降はほぼ完全に停止した。保健所検査機能を民間医療施設が代替するために必要な要因を検証した。

対象：MSM。対象期間：2021.02.14-28日。対象施設：沖縄県内の5医療施設。方法：対象期間の14日前より検査キャンペーン広告を出した。具体的には MSM が利用するマッチングアプリ、SNS、youtube にアンケート記入と引き替えにクーポン提供（検査料を1000円に割引）する内容である。募集枠50人に対して46人が応募した。最終的には39人が受診した。HIV陽性は0人、梅毒2人陽性であった。

沖縄県保健所6カ所の総計で1日あたりの受検者は平均4.6人であり、今回の応募人数はほぼそれに匹敵する。近年、保健所が麻疹やデング熱、COVID-19などの感染症流行時に閉鎖されることが続いているが、民間クリニック検査はそれを補完する可能性を示したと推察できた。

#### 研究Ⅱ 郵送検査の促進に関する研究

総計77キットを配布した。実際にアンケートに回答したものは50名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは42名（54.5%）であった。そのうち92.9%が結果にログインしていた。HIV陽性件数は1件、梅毒の陽性件数は8件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した50名のうち、29名はアンケート結果との連結に同意していた。検体郵送者の属性については、35歳未満が68%を占めた。福岡県の居住者が87.5%であった。生涯初の検査経験割合は20%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち64%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は25%を占めた。

### 研究Ⅰ：クリニック検査の促進に関する研究

#### A. 研究目的と背景

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的なパンデミックの影響で沖縄県内の保健所における HIV 検査が 80%も減少し、特に3月以降はほぼ完全に停止した。保健所での HIV 検査機能を民間医療施設が代替するために必要な要因を検証した。

#### B. 研究方法

対象：MSM。対象期間：2021.02.14-28日。  
対象施設：沖縄県内の5医療施設。

方法：対象期間の14日前よりキャンペーン終了1日前まで検査キャンペーン広告を出した。具体的には MSM が利用するマッチングアプリ（9monsters）、SNS、YouTube に「MSM を対象として、アンケート記入と引き替えにクーポン提供（HIV と梅毒検査料を1000円に割引）する」内容である。

検査施設は、A. 那覇市、那覇市に近接した B. 浦添市と C 西原町、および那覇市より北 20km に位置する D. 沖縄市、さらに 5km 北の E. 嘉手納町の 5 カ所である。

倫理審査

本研究は琉球大学 「人を対象とする医学系研

究倫理審査委員会」より承認された。(R3年1月-19)

### C. 研究結果

募集枠 50 人に対して 46 人が応募した。最終的には 38 人が受診した。HIV 陽性は 0 人、梅毒 2 人陽性であった。

受検者の 39 人に対して、1 人は女性、2 人は HIV 陽性が既に判明している者であり、1 人はクーポンを辞退した。アンケートは 34 人に調査用紙を配布し、29 人が回答した (回収率 85.3%)。

#### 1. HIV 検査歴について (n=29 人)

回答した 29 人中、26 人 (90%) があると回答した。HIV 検査歴が有ると回答した 26 人に対して、前回の検査の時期を訪ねた。1 年以内は 7 人 (26.9%)、1~2 年以内 11 人 (42.3%)、3 年以上 8 人 (30.8%) であった。

#### 2. 受検者の年代 (n=28 人)

30 代 12 人 (42.9%)、40 代 11 人 (39.3%) で全体の 82% を占め、50 代と 20 代はともに 2 人 (7.1%)、10 代 1 人 (3.6%) であった。

#### 3. 自認する性別 (n=29 名)

男性 28 人 (96.6%)、女性 1 人 (3.45%) であった。

#### 4. 国籍 (n=29 人)

日本人 28 人 (96.6%)、外国人は 1 人 (3.45%) であった。

#### 5. 居住地について (n=29 人)

那覇市 12 人 (41.4%)、那覇市以外 17 人 (58.6%) であった。

#### 6. PrEP 経験の有無 (n=29 人)

有りは 2 人 (6.9%)、無し 27 人 (96.1%) であった。

#### 7. U=U の認知度について (n=29 人)

知っている 19 人 (65.5%)、知らない 10 人 (34.5%) であった。

#### 8. セックスの相手の性別 (n=29 人)

男性のみ 18 人 (62.1%)、男女 11 人 (37.9%)

#### 9. 過去 6 ヶ月以内に 2 人以上の複数のパートナーとセックスの有無

有り 16 人 (55.2%)、無し 13 人 (44.8%)

#### 10. 性感染症既往歴 (n=29 人)

無し 20 人 (32.5%)、有りは梅毒 18.8% が最も多く、続いてクラミジア 3%、その他であった。

#### 11. 受検前の HIV 検査告知媒体の認知度 (n=29 人 複数回答)

nankr 沖縄 HP 20 人 (37.0%)、コミュニティセンター mabui 14 人 (25.9%)、続いて沖縄県の HP (13.0%)、那覇市の HP (11.1%) であった。

### D. 考察

1. 対象を MSM として、広告キャンペーンを行ったが、COVID-19 禍で保健所が閉鎖しているため、女性からの問い合わせも寄せられ、どこで検査を受けられるか情報が得られない、いわゆる「HIV 検査難民」を経験した。受付時はメールでやりとりしたため、女性と気づかずに、クーポンを発行し、クリニック受診時に女性と判明した例もあった。

厚労省のエイズ発生動向報告によると、献血における HIV 陽性率が 2020 年度は 5 年ぶりに 1.0 (人口 10 万あたり) 超え、これはエイズ発生都道府県別ランキングに照らすと第 2 位に相当する多さである。保健所検査を受けられない検査希望者が献血に流れていないか注視する必要があったと思われる。

2. HIV 検査歴は 90% が有ると回答しており、好ましい結果であるが、一方、検査間隔が 3 年以上前とする回答者が 1/3 を占めていた。

米疾病対策センター (CDC) では、リスク行為に応じてであるが、年複数回の検査を推奨しており、今回のキャンペーン受検者の年代は性的に活発な 20, 30 代が 80% を占める集団であることを考慮すると、わが国においても検査へのアクセス環境を整え、受検回数の増加を図る必要があると思われる。

#### 3. 居住地と受検者

受検地は、A. 那覇市 8 人 (21.0%)、那覇市に近接した B. 浦添市 8 人 (21.0%) と C 西原町 14 人 (36.8%)、および那覇市より北 20km に位置する D. 沖縄市 4 人 (10.5%)、さらに 5km 北の E. 嘉手納町 4 人 (10.5%) であった。

那覇市在住は 41.4% であるが受検地はその半分であり、居住地と受検地には乖離が認められた。理由としては地元のクリニックを避けた、もしくは、最多の受検件数をこなした C 施設は

日曜日外来を行っておりそれが影響したと考えられた。

#### 4. PrEP と U=U の認知度

近年、我が国でも急速に拡大している PrEP は、本アンケートを見る限りでは、本県においてまだ未開拓の領域と思われた。しかしながら県外からの転居者が全患者の 3~4 割を占める当県の特徴から、ニーズは高まることは間違いなく、受け入れ体制の整備が急がれる。

U=U のコンセプトは、感染者のアドヒアランスの向上および受検率を押し上げるものとして期待される。また、医療者側にも感染者ケアへの過度な警戒感を解除し、受け入れ施設の拡大にむけての重要なファクターと考えられる。

日本における U=U(TasP) の認知度について見てみると、HIV 陽性者では約 8 割<sup>1)</sup>、ゲイ男性等では約 4 割<sup>2)</sup>、一般市民では約 3 割<sup>3)</sup>と報告されている。今回のアンケートでは認知度は 65.5%であり、厳密には調査時期が異なるというバイアスがあるが、急速に認知度は高まっていることが推察される。

今回の対象者は 6 ヶ月以内の 2 人以上のパートナーと性交渉歴が 55.2%であり、性感染症既往歴も 7 割があると回答しており、受検者の年代も 30 から 40 代が 80%を占めており、本県における MSM の代表的なプロフィールと検査行動を示していると推察できる。

課題としては、保健所では匿名と検査費用が無料に対し、医療機関では不可である。しかしながら、医療機関は土日の対応など従来の保健所が出来なかった新しいサービスが提供できるメリットもある。行政・当事者団体・メディアを巻き込んだ医療機関における HIV 検査は有事には保健所の代替施設として、平時には検査希望者が自分のニーズに合わせて検査施設を選択できると考えられる。

検査施設の新規開拓は、偏見や差別のために敷居が高く、医師のみでは困難であった。円滑に運営するためには関係機関を調整する感染症コーディネーターの役割が重要であった。今後、ますます需要が増大することが示唆された。

#### E. 結論

行政・当事者団体・メディアを巻き込んだ医療機関における HIV 検査は有事には保健所の代替施設として、平時には検査希望者が自分のニーズに合わせて検査施設を選択できると考

えられる。

#### 文献

- 1) HIV Futures Japan プロジェクト「第 2 回・HIV 陽性者のための WEB 調査」(2016 年 12 月~2017 年 7 月・日本国内在住の HIV 陽性者 1038 人)
- 2) 平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「地域において HIV 陽性者と薬物使用者を支援する研究」(ゲイ向け出会い系アプリ利用者 6921 人)
- 3) 平成 30 年 3 月内閣府政府広報室「HIV 感染症・エイズに関する世論調査」(全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 1671 人)

#### 研究Ⅱ：郵送検査の促進に関する研究

##### A. 研究目的

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、沖縄地域の MSM を対象に、自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受ける郵送検査をコミュニティセンターでの配布と WEB にて配布を行った。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間を限定して配布し、検査普及における有効性の評価を行うことを目的とした。

##### B. 研究方法

コミュニティセンターでは、本検査に関する説明事項を含むメッセージを mabui の公式 HP と公式 Twitter 等の SNS で配信した。

また、mabui メンバーをモデルに広報用のポスターを制作した。メッセージとして、「今は外出を控えている！誰にも会わずに検査を受けたい！自宅や郵便局でキットを受け取りたい！そんな方は是非、今回の郵送検査キット配布会をご利用ください。」と twitter 等で広報した。

郵送検査キットを受ける方法は、1) 郵送検査キット配布の予約をする(メール・電話、コミュニティセンター mabui での受け取りの場合は予約不要)。2) 簡単な検査の説明を受け

る。3) アンケートに答える。4) 郵送検査キットを受け取る。5) 自宅で採血。6) 郵送する。7) 検査会社のホームページにアクセスして結果を見るの7段階とした。

多くの郵送検査キット受け取り希望者はコミュニティセンターに直接来館し、その場でアンケートQRコードを提示し、自分のスマートフォンから答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後に受け渡し方法をとった。離島からの利用者もあり、必要時には郵送を行った。

### 倫理審査

本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

## C. 研究結果

### 1. 郵送検査キットの配布日・概要

配布期間：2021年3月1日～3月15日のコミュニティセンターオープン日

表1 郵送検査利用者の概要

	地域	沖繩
	CBO	nankr沖繩
	コミュニティセンター	mabui
a 配布数		77
b 受検者アンケート回答者数		50
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		42
利用率；配布数に占める利用者数(c/a)		54.5%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）	39	（ 92.9% ）
<b>抗体検査結果</b> <span style="float:right">*重複感染（1名）</span>		
<input type="checkbox"/> HIV感染症		
e 判定不能者数（割合 e/c）	1	（ 2.4% ）
f 陽性数（割合 f/c）	1	（ 2.4% ）
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	1.5	（ 3.6% ）
<input type="checkbox"/> 梅毒		
g 判定不能者数（割合 g/c）	3	（ 7.1% ）
h 陽性数（割合 h/c）	8	（ 20.5% ）
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	5.6	（ 14.3% ）
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）	29	（ 69.0% ）
j 追跡可能者実数；無料ID使用者実数（割合 j/c）**	28	（ 66.7% ）

\* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

\*\* j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

\*\*\* すべての集計より再受検の重複は除いた。

### 2. 検体の送付状況とアンケートの結果

総計 77 キットを配布した。実際にアンケートに回答したものは 50 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 42 名（54.5%）であった。そのうち 92.9%が結果にログインしていた。

HIV 陽性件数は 1 件、梅毒の陽性件数は 8 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 50 名のうち、29 名はアンケート結果との連結に同意していた。同意を得た受検者とアンケートに回答したが受検していないと考えられる人との比較集計結果を表 2、表 3 に示した。

郵送検査の受検利用者の属性については、35 歳未満が 44.8%を占めた。沖縄県の居住者が 96.6%であった。

これまでの検査経験がなかったものの割合は 24.1%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 69.0%であった。過去 1 年間の検査場所で最も高かったのは保健所であり、24.1%であった。

過去 6 ヶ月間の男性との性交経験は 93.1%と高く、ハッテン場を利用した性交経験が 20.7%であった。また過去 6 ヶ月間の PrEP の使用経験は 10.3%である一方で、コンドーム常用割合は 10.3%（男性とのアナルセックス経験者のうち、11.1%）であった。

MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをよくあるいは少し知っている人は 65.5%であった。

### 3. 実施しての振り返り

郵送検査による受検が初めてという人が多かった。保健所は検査ができない状況なので、今検査を受けないと何時受けられるかわからないと考える人が多かった。

検査が受けられないことから、感染不安を持っている人が多かった。またクリニック検査会でも不安の声があった。

## D. 考察

今年度は新型コロナウイルスの影響で、保健所での HIV 検査が休止になり、定期的に保健所で検査を受けていた人が、郵送検査キットを受け取りに来ることがあった。しかし、配布数に占める利用者割合が 54.5%とやや低かった。

課題としては、クリニックでの受検促進と時期が重なり、商業施設へのアウトリーチおよび広報でのすみわけが必要であった。SNS を利用していない中高年層から、郵送検査についての情報をもっと早く欲しかったという声があった。SNS を利用していない中高年層への広報が検討事項となった。

企業で郵送検査キットを受け付けた時は、郵便局留めができたのだが、mabui の場合は自宅郵送しかできなかったため、断られることもあった。また郵送検査キットを利用したが、判定不能であった人の割合も高く、受け渡し段階で

のオリエンテーションには課題が残る。

郵送検査の受検利用者では、沖縄県在住者が高く、地域での配布のニーズが示唆された。初受検者の割合も高く、新規の HIV スクリーニング陽性率 2.4%、梅毒は推定スクリーニング陽性率 14.3%であり、感染リスクの高い層にリーチしていることが考えられる。したがって、陽性になった場合の受診行動の促進への取り組みも重要であると考えられる。

## E. 結論

沖縄地域の MSM を対象に、自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受ける郵送検査をコミュニティセンターでの配布と WEB にて配布を行った。期間限定の取り組みであったが、感染リスクの高い MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、検査行動の促進につながる可能性が示唆された。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) Nanako Oshiro<sup>1</sup> KK, Shoji Tsuneyoshi<sup>3</sup>, Masao Tateyama<sup>4</sup>, Ryo Zamami<sup>2</sup>, Hitoshi Uehara<sup>5</sup>, Jiro Fujita<sup>4</sup> and Yusuke Ohya :Changes in serum concentration of rilpivirine in an HIV-infected patient treated with a combination therapy of hemodialysis and peritoneal dialysis. Renal Replacement Therapy. 6. 33. 2020.
- 2) Nakamura H, Tateyama M, Tasato D, et al. :Human immunodeficiency virus-associated pulmonary sarcoidosis in a Japanese man as a manifestation of immune reconstitution inflammatory syndrome. Clinical case reports. 8:3440-4. 2020.
- 3) Kaneko N, Shiono S, Hill AO, et al. :Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan. AIDS care. 1-8. 2020.

### 2. 学会発表

- 1) 健山正男 : シンポジウム 10 : 地域包括ケア時代の HIV 感染症. 保健所以外の施設における HIV 検査体制構築の試み. 第 90 回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第 63 回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第 68 回日本化学療法学会西日本支部総会. 福岡, 2020. 152

- 2) 宮城京子 : 共催シンポジウム 2. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB, 2020. 233
- 3) 金崎慶太、健山正男、石郷岡美穂 : 沖縄県における感染症診療コーディネーターの活動報告. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB, 2020. 279
- 4) 菊池正、蜂谷敦子、西澤雅子、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、菊池 正 : 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB, 2020. 440

## G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

表2 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動

	アンケート回答のみ		検査利用		合計		Pearson カイ2乗	
	n=21		n=29		n=50			
<b>年齢階級</b>								
	24歳以下	0	0.0%	3	10.3%	3	6.0%	0.37
	25-34歳	10	47.6%	10	34.5%	20	40.0%	
	35-44歳	7	33.3%	12	41.4%	19	38.0%	
	45歳以上	4	19.0%	4	13.8%	8	16.0%	
<b>国籍<sup>1)</sup></b>								
	日本	21	100.0%	27	93.1%	48	96.0%	0.50
	海外	0	0.0%	2	6.9%	2	4.0%	
<b>居住地</b>								
	福岡県	1	4.8%	1	3.4%	2	4.0%	1.00
	沖縄県	20	95.2%	28	96.6%	48	96.0%	
<b>性別<sup>3)</sup></b>								
	男性	21	100.0%	29	100.0%	50	100.0%	-
	女性	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	トランスジェンダー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>セクシュアリティ</b>								
	ゲイ（男性同性愛者）	14	66.7%	22	75.9%	36	72.0%	0.45
	バイセクシュアル（両性愛者）	6	28.6%	7	24.1%	13	26.0%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	1	4.8%	0	0.0%	1	2.0%	
<b>居住形態</b>								
	独居	14	66.7%	19	65.5%	33	66.0%	0.69
	同居	7	33.3%	9	31.0%	16	32.0%	
	定住先はない	0	0.0%	1	3.4%	1	2.0%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	16	76.2%	22	75.9%	38	76.0%	1.00
	ない（今回が初めての検査）	5	23.8%	7	24.1%	12	24.0%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	7	33.3%	9	31.0%	16	32.0%	1.00
	ない	14	66.7%	20	69.0%	34	68.0%	
<b>過去1年の受検場所<sup>2)</sup>（複数回答）</b>								
	保健所	3	14.3%	7	24.1%	10	20.0%	0.49
	病院/クリニック	2	9.5%	2	6.9%	4	8.0%	
	郵送検査	4	19.0%	2	6.9%	6	12.0%	0.22
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>過去6カ月間の利用施設（複数回答）</b>								
	ゲイバー	5	23.8%	15	51.7%	20	40.0%	0.08
	ゲイイベント	0	0.0%	1	3.4%	1	2.0%	
	ゲイショップ	0	0.0%	1	3.4%	1	2.0%	1.00
	有料のハッテン場	5	23.8%	6	20.7%	11	22.0%	
	野外のハッテン場	1	4.8%	3	10.3%	4	8.0%	0.63
	いずれもない	13	61.9%	11	37.9%	24	48.0%	

1) 海外の内訳は、台湾。

2) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表3 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動

	アンケート回答のみ n=21		検査利用 n=29		合計 n=50		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく/少し知っている	12	57.1%	19	65.5%	31	62.0%	0.57
全く/あまり知らない	9	42.9%	10	34.5%	19	38.0%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	18	85.7%	27	93.1%	45	90.0%	0.64
ない	3	14.3%	2	6.9%	5	10.0%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	5	23.8%	5	17.2%	10	20.0%	0.72
友達やセクフレ	9	42.9%	18	62.1%	27	54.0%	0.25
その場限りの相手	9	42.9%	15	51.7%	24	48.0%	0.58
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	16	76.2%	24	82.8%	40	80.0%	0.72
ない	5	23.8%	5	17.2%	10	20.0%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	4	19.0%	6	20.7%	10	20.0%	1.00
ない	17	81.0%	23	79.3%	40	80.0%	
過去6か月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	7	33.3%	4	13.8%	11	22.0%	0.17
ない	14	66.7%	25	86.2%	39	78.0%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	2	9.5%	3	10.3%	5	10.0%	1.00
ない	19	90.5%	26	89.7%	45	90.0%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	1	4.8%	1	3.4%	2	4.0%	1.00
ない	20	95.2%	28	96.6%	48	96.0%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
ない	21	100.0%	29	100.0%	50	100.0%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	13	61.9%	24	82.8%	37	74.0%	0.25
常用	5	23.8%	3	10.3%	8	16.0%	
過去6ヶ月間にない	3	14.3%	2	6.9%	5	10.0%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	7	33.3%	20	69.0%	27	54.0%	0.02
知らない	14	66.7%	9	31.0%	23	46.0%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	1	4.8%	3	10.3%	4	8.0%	0.04
服薬したい/どちらかといえば	6	28.6%	17	58.6%	23	46.0%	
知らない	14	66.7%	9	31.0%	23	46.0%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	2	9.5%	3	10.3%	5	10.0%	1.00
ない	19	90.5%	26	89.7%	45	90.0%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	2	9.5%	3	10.3%	5	10.0%	1.00
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
B型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	2	9.5%	0	0.0%	2	4.0%	0.17
尖圭コンジローマ	2	9.5%	1	3.4%	3	6.0%	0.57
淋病	2	9.5%	1	3.4%	3	6.0%	0.57
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
毛じらみ	8	38.1%	7	24.1%	15	30.0%	0.36
性器ヘルペス	0	0.0%	1	3.4%	1	2.0%	1.00
その他	1	4.8%	0	0.0%	1	2.0%	0.42
いずれもない	11	52.4%	20	69.0%	31	62.0%	0.26

## MSM に対する検査提供と介入の効果評価 -受検者アンケートの分析-

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学 大学院看護学研究科 准教授）

### 研究要旨

北海道、東北、東京、神奈川、東海、大阪、中四国、福岡、沖縄の9地域で郵送検査を実施した。対面配布とWEB配布（WEBで申し込み、自宅または郵便局等での受け取り）を組み合わせ実施した。申込者には、受検者WEBアンケートへの回答も依頼した。基本属性、HIV検査経験、商業施設の利用、性行動、性感染症の既往について尋ねた。また全回答者にユニークな個人IDをアンケート回答終了画面に発行し、そのIDを検査申し込み時のIDとして記載することを任意で依頼した。本研究では、アンケートには回答したが、キットを受け取らなかったもの・検体を送付しなかったものと実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送したものの2群の比較と、検査結果とアンケート結果を紐づけできた回答者の年齢別の比較を行った。

アンケートには回答したが、検体を送付しなかったものは全体で417件、実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送した回答者は631件であった。実際に検査を利用したものが、アンケート回答のみのものより若く、HIV検査経験があり、PrEP認知が高かった。

検査結果とアンケート結果の連結に同意した者における年齢別の比較では、外国籍者の占める割合は34歳未満群に高かった。過去6か月にアプリで出会ったものとの性交渉経験は35歳未満層に多かった。過去6か月のコンドーム常用は24歳以下では15.3%、25-34歳では20.2%にとどまった。検査結果でHIVまたは梅毒がいずれか陽性であったものは97名であった。HIV陽性が判明した11名のうち3名は24歳以下、7名は25-34歳であった。梅毒は24歳以下で初めて感染を知ったものが7名（7/72）、25-34歳で16名（16/248）であった。結果ページには全体のうち97%がログインしていた。

### A. 研究目的と背景

日本では、UNAIDSのエイズ終結に向けた戦略であるケアカスケードの第1段階の90を達成できていない。MSMにおいては、HIV感染リスクがあるものの定期検査受検の普及に課題がある。このことも踏まえ、感染リスクの高い層に焦点をあてた介入を積極的に展開していく必要が高まっている。2020年からの新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、MSMの保健所でのHIV検査機会も全国的には約7割減少し、エイズ発症割合も増加している。また予防啓発の拠点であるコミュニティセンターの開館時間も大幅に短縮となり、ゲイ向け商業施設やイベントも激減し、啓発普及の変更を余儀なくされた。一方で保健所等の検査機会も縮小する場合も多く、潜在的なHIV検査ニーズは高まっている。郵送検査には自宅都合の良い時

間に受けられるメリットもあるが、支援や情報提供が不足しがちになるデメリットもある。本研究では、6箇所のコミュニティセンターを中心に日本9地域で郵送検査を実施し、三密を避けながら保健所以外の場所で、検査を受けられる方策の整備および受検者アンケート体制の構築、オールジャパン統一で広報体制を構築することを目的とした。

### B. 研究方法

北海道、東北、東京、神奈川、東海、大阪、中四国、福岡、沖縄の9地域で郵送検査を実施した。コミュニティセンターや臨時会場における対面配布、またWEB広報を行い、WEBで申し込み、自宅または郵便局等での受け取り可能なWEB配布も実施した。申込者には、受検者アンケートへの回答も依頼した。受検者アンケート

は、スマートフォン、タブレット、PCで回答可能なWEBアンケートとした。年齢、国籍、居住地、セクシュアリティ、居住形態、検査経験、商業施設の利用、性行動、性感染症の既往について尋ねた。また全回答者にユニークな個人IDを回答終了画面に発行し、そのIDを検査申し込み時のIDとして記載することを依頼した。このことにより検査結果とアンケート結果の紐づけが可能となる。しかしこの個人IDを検査申し込みIDと一致させることは任意とした。またアンケート参加事態も任意とした。

本研究では、A:アンケートには回答したが、キットを受け取らなかったもの・検体を送付しなかったものと B:実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送したものの2群の比較と、検査結果とアンケート結果を紐づけできた回答者の年齢別の比較を行った。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

### C. 研究結果

#### 1) A:アンケート回答のみと B:実際に検査を利用した2群の比較

アンケートには回答したが、検体を送付しなかったものは全体で417件、実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送した回答者は631件であった。

年齢には有意差が見られ、25-34歳の方が実際に検査を利用した割合が高かった。居住地にも差が見られた。地域別にみると東北地域、中四国、九州地域では、アンケート回答のみにとどまったものと検査利用者の比が小さく、アンケート回答のみにとどまらず、実際に検査を利用し感染ステータスを確認したいニーズが高かった。

全体では94.9%が居住地のNGO・団体が宣伝する啓発により検査を知り、検査キットの申し込みを行っていた。

これまでの検査経験は実際に検査を利用したもののほうが高く、有意差が見られた。

実際に検査を利用したもののうち、8.7%がMSM対象の予防啓発やコミュニティセンターを全く知らなかったものであり、32.8%はあまり知らなかったと回答していた。

HIV予防のためのPrEPは検査を利用したもののほうが有意に認知が高かった。また使用意図も有意に検査利用者の方が高かった。

#### 2) 検査結果とアンケート結果の連結に同意し

#### た者における年齢別の比較

外国籍者の占める割合は34歳未満群に高かった。過去6か月にアプリで出会ったものとの性交渉経験は35歳未満層に多かった。過去6か月のコンドーム常用は24歳以下では15.3%、25-34歳では20.2%にとどまった。PrEPの認知は、年齢が高い方が高い傾向が見られた。

実際の検査結果でHIVまたは梅毒がいずれか陽性であったものは97名であった。HIVについて陽性が判明した11名のうち3名は24歳以下、7名は25-34歳であった。梅毒は24歳以下で初めて感染を知ったものが7名(7/72)、25-34歳で16名(16/248)、35-44歳で10名(10/177)、であった。梅毒とHIVの重複の事例が24歳以下で1名(1/72)、25-34歳以下で3名(3/248)であった。結果ログイン状況については、全体では97%がログインしていた。また全体のうち、86.6%が結果通知から7日以内に確認していた。

### D. 考察

#### 1) A:アンケート回答のみと B:実際に検査を利用した2群の比較

アンケート回答のみと実際に検体を送付したものの比較では、年齢が若い層の方がより実際に送付していることがわかった。性行動のアクティブ度が関係している可能性がある。また、有意差はないが外国籍の方が実際に送付した割合が高く、実際の検査受検ニーズが高いことがうかがわれる。次年度もどう多言語対応、配慮するか、検討が必要である。一人暮らしの方が実際に送付している傾向があった。プライバシーの問題などもあると思われ、次回の配布に配慮すべきと考えられた。これまでにHIV検査経験があるものの方が実際に送付しており、慣れている人の方がゆうそう検査にとっかかりやすい可能性が示された。

PrEP認知者の方が実際に検査を利用している(検査を利用した人の方がPrEPのことを知っている)ことが示され、新しい情報をキャッチしている人の方がゆうそう検査利用へのハードルも低い可能性が考えられた。

#### 2) 検査結果とアンケート結果の連結に同意した者における年齢別の比較

検査結果とアンケート結果の連結に同意した回答は603件であった。外国籍者の占める割合は34歳未満群に高く、性行動が活発で感染リスクがあり、検査機会を探している外国籍MSMが一定数いることが考えられた。多言語対応まではできていないため、今回の検査にアク

セスがあったものは一定の日本語能力の理解があるものと考えられる。今後は日本語が母語でないものへの対応、必要時は必要な専門家につながるなど対応を考えていく必要がある。過去6か月にアプリで出会ったものとの性交渉経験は35歳未満層に多かった。過去6か月のコンドーム常用は24歳以下では15.3%、25-34歳では20.2%にとどまった。PrEPの認知は、年齢が高い方が高い傾向が見られた。年齢が高い方が様々な予防啓発の情報のチャンネルが多く、新しい情報を収集している可能性が考えられた。

実際の検査結果で HIV または梅毒がいずれか陽性であったものは97名であり保健所等の検査よりも効率の陽性割合であることが示された。HIV について陽性が判明した11名のうち3名は24歳以下、7名は25-34歳であり、若い年齢層であった。梅毒は24歳以下で初めて感染を知ったものが7名(7/72)、25-34歳で16名(16/248)であり若い方が初めて感染を認知した割合が高かった。梅毒の検査提供の重要性が示されたといえよう。コンドーム使用率が若い年齢層で20%と非常に落ち込んでいることを考えると、梅毒の感染拡大が危惧され、早急な対策を考案する必要が考えられた。結果ログイン状況については、全体では97%にログイン歴であった

## E. 結論

アンケートには回答したが、検体を送付しなかったものは全体で417件、実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送した回答者は631件であった。実際に検査を利用したもののほうが、アンケート回答のみのもより若く、HIV検査経験があり、PrEP認知が高かった。検査結果とアンケート結果の連結に同意した者における年齢別の比較では、外国籍者の占める割合は34歳未満群に高かった。過去6か月のコンドーム常用は24歳以下では15.3%、25-34歳では20.2%にとどまった。

検査結果で HIV または梅毒がいずれか陽性であったものは97名であった。HIV陽性が判明した11名のうち3名は24歳以下、7名は25-34歳であった。結果ページには全体のうち97%がログインしていた。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) ○Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa:

Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020. DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339

- 2) Ryohei Terao, Noriyo Kaneko (Equal contribution): Survey of School Nurses' Experiences of Providing Counselling on Sexual Orientation to High School Students in Japan. *International Journal of Adolescent Medicine and Health*, doi: 10.1515/ijamh-2019-0167. 2020.
- 3) ○金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来院するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 4) ○宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者2名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 5) ○金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020
- 6) 今橋真弓, 金子典代, 高橋良介, 石田敏彦, 横幕能行: 名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果. *日本感染症学会誌*, 31(1), 2020. doi:10.24775/jjsti.S-2019-0003

### 2. 学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection(HIV Glasgow 2020), Glasgow, 2020.

### 3. 学会発表 (国内)

- 1) 金子典代:U=Uをめぐる陽性者と HIV 予防対策と医療者のあり方について. 日本エイズ学会シンポジウム, 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB開催, 2020

- 2) 林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野操、青木孝弘、瀧永博之、菊池嘉、岩橋恒太、金子典代：乾燥ろ紙血による HIV Ag/Ab 郵送検査の検査ラボでの結果についての検討. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会，WEB 開催，2020
- 3) 荒木順、金子典代、木南拓也、柴田恵、岩橋恒太、藤原孝大、鈴木敦大、小山輝道、高久道子、高久陽介、市川誠一、張由紀夫、生島嗣：ゲイバー等との連携による「LivingTogether のど自慢」の実践とその効果について. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会，WEB 開催，2020
- 4) 井上洋土、後藤大輔、船石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代：成人前期（20 歳代）MSM での性行動と HIV・性感染症認識に関する面

接調査研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会，WEB 開催，2020

- 5) 高橋良介、末盛慶、金子典代、石田敏彦：NLGR+への参加状況と HIV 抗体検査受検経験の関連性. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会，WEB 開催，2020

#### G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

表 1-1 アンケート回答のみのものと検体送付者の比較①

	アンケート回答のみ n=417		検査利用 n=631		合計 n=1048		Pearson カイ2乗
年齢階級 (35.2歳±9.9歳,18歳-71歳)							
24歳以下	68	16.3%	76	12.0%	144	13.7%	<b>0.02</b>
25-34歳	143	34.3%	261	41.4%	404	38.5%	
35-44歳	114	27.3%	186	29.5%	300	28.6%	
45歳以上	92	22.1%	108	17.1%	200	19.1%	
国籍 <sup>1)</sup>							
日本	409	98.1%	602	95.4%	1011	96.5%	0.15
アジア	6	1.4%	20	3.2%	26	2.5%	
欧米	1	0.2%	4	0.6%	5	0.5%	
その他	1	0.2%	5	0.8%	6	0.6%	
居住地							
北海道	31	7.4%	76	12.0%	107	10.2%	<b>&lt;0.01</b>
東北	78	18.7%	87	13.8%	165	15.7%	
関東	106	25.4%	204	32.3%	310	29.6%	
北陸・甲信越	1	0.2%	3	0.5%	4	0.4%	
東海	24	5.8%	48	7.6%	72	6.9%	
近畿	35	8.4%	65	10.3%	100	9.5%	
中国・四国	77	18.5%	56	8.9%	133	12.7%	
九州	65	15.6%	92	14.6%	157	15.0%	
啓発対象地域の利用 <sup>2)</sup> (再掲)							
対象地域	394	94.5%	601	95.2%	995	94.9%	0.58
それ以外の地域	23	5.5%	30	4.8%	53	5.1%	
性別 <sup>3)</sup>							
男性	413	99.0%	624	98.9%	1037	99.0%	0.58
女性	1	0.2%	3	0.5%	4	0.4%	
トランスジェンダー	2	0.5%	4	0.6%	6	0.6%	
その他	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	
セクシュアリティ							
ゲイ (男性同性愛者)	309	74.1%	466	73.9%	775	74.0%	0.18
バイセクシュアル (両性愛者)	91	21.8%	135	21.4%	226	21.6%	
ヘテロセクシュアル (異性愛者)	4	1.0%	6	1.0%	10	1.0%	
わからない	12	2.9%	11	1.7%	23	2.2%	
決めたくない	0	0.0%	10	1.6%	10	1.0%	
レズビアン (女性同性愛者)	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%	
その他	1	0.2%	2	0.3%	3	0.3%	
居住形態							
独居	233	55.9%	382	60.5%	615	58.7%	0.22
同居	184	44.1%	248	39.3%	432	41.2%	
定住先はない	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%	
これまでのHIV検査 (エイズ検査) 経験							
ある	283	67.9%	486	77.0%	769	73.4%	<b>&lt;0.01</b>
ない (今回が初めての検査)	134	32.1%	145	23.0%	279	26.6%	
過去1年のHIV検査 (エイズ検査) 経験							
ある	127	30.5%	195	30.9%	322	30.7%	0.88
ない	290	69.5%	436	69.1%	726	69.3%	
過去1年の受検場所 <sup>4)</sup> (複数回答)							
保健所	62	14.9%	115	18.2%	177	16.9%	0.16
病院/クリニック	33	7.9%	38	6.0%	71	6.8%	
郵送検査	28	6.7%	36	5.7%	64	6.1%	0.50
その他	24	5.8%	33	5.2%	57	5.4%	
過去6か月間の利用施設 (複数回答)							
ゲイバー	130	31.2%	196	31.1%	326	31.1%	0.97
ゲイイベント	23	5.5%	25	4.0%	48	4.6%	
ゲイショップ	26	6.2%	36	5.7%	62	5.9%	0.72
有料のハッテン場	107	25.7%	148	23.5%	255	24.3%	
野外のハッテン場	47	11.3%	58	9.2%	105	10.0%	0.27
いずれもない	202	48.4%	316	50.1%	518	49.4%	

1) 海外の内訳は、アジア；中国、台湾、韓国、ベトナム、タイ、スリランカ、インドネシア、フィリピン 欧米；アメリカ、オーストラリア、フランス その他；コロンビア、不明。

2) 啓発対象地域とは、北海道；北海道、東北；1道6県、東京/神奈川；1都6県、愛知；4県、大阪；2府4県、中国・四国；9県、福岡；7県、沖縄；沖縄県の居住地による。

3) 女性は、ヘテロセクシュアル 2名、同性愛者 1名を含む。トランスジェンダーの内訳は、MTF 1名、FTM 5名。その他は、ジェンダーフリーと回答。

4) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表 1-2 アンケート回答のみのものと検体送付者の比較②

	アンケート回答のみ n=417		検査利用 n=631		合計 n=1048		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく知っている	80	19.2%	120	19.0%	200	19.1%	0.72
少し知っている	161	38.6%	249	39.5%	410	39.1%	
あまり知らない	131	31.4%	207	32.8%	338	32.3%	
全く知らない	45	10.8%	55	8.7%	100	9.5%	
過去6カ月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	361	86.6%	563	89.2%	924	88.2%	0.19
ない	56	13.4%	68	10.8%	124	11.8%	
過去6カ月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	90	21.6%	147	23.3%	237	22.6%	0.52
友達やセクフレ	237	56.8%	389	61.6%	626	59.7%	0.12
その場限りの相手	196	47.0%	271	42.9%	467	44.6%	0.20
過去6カ月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	305	73.1%	468	74.2%	773	73.8%	0.71
ない	112	26.9%	163	25.8%	275	26.2%	
過去6カ月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	104	24.9%	148	23.5%	252	24.0%	0.58
ない	313	75.1%	483	76.5%	796	76.0%	
過去6カ月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	80	19.2%	115	18.2%	195	18.6%	0.70
ない	337	80.8%	516	81.8%	853	81.4%	
過去6カ月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	20	4.8%	23	3.6%	43	4.1%	0.36
ない	397	95.2%	608	96.4%	1005	95.9%	
過去6カ月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	16	3.8%	19	3.0%	35	3.3%	0.47
ない	401	96.2%	612	97.0%	1013	96.7%	
過去6カ月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	3	0.7%	8	1.3%	11	1.0%	0.39
ない	414	99.3%	623	98.7%	1037	99.0%	
過去6カ月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	295	70.7%	441	69.9%	736	70.2%	0.20
常用	66	15.8%	122	19.3%	188	17.9%	
過去6ヶ月間がない	56	13.4%	68	10.8%	124	11.8%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	254	60.9%	432	68.5%	686	65.5%	<b>0.01</b>
知らない	163	39.1%	199	31.5%	362	34.5%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	48	11.5%	81	12.8%	129	12.3%	<b>0.04</b>
服薬したい/どちらかといえば	206	49.4%	351	55.6%	557	53.1%	
知らない	163	39.1%	199	31.5%	362	34.5%	
過去6カ月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	22	5.3%	40	6.3%	62	5.9%	0.48
ない	395	94.7%	591	93.7%	986	94.1%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	42	10.1%	65	10.3%	107	10.2%	0.90
A型肝炎	3	0.7%	9	1.4%	12	1.1%	0.29
B型肝炎	17	4.1%	34	5.4%	51	4.9%	0.33
C型肝炎	1	0.2%	3	0.5%	4	0.4%	0.54
クラミジア	45	10.8%	65	10.3%	110	10.5%	0.80
尖圭コンジローマ	21	5.0%	41	6.5%	62	5.9%	0.33
淋病	23	5.5%	36	5.7%	59	5.6%	0.90
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	4	0.6%	4	0.4%	0.10
毛じらみ	106	25.4%	147	23.3%	253	24.1%	0.43
性器ヘルペス	13	3.1%	12	1.9%	25	2.4%	0.21
その他	5	1.2%	8	1.3%	13	1.2%	0.92
いずれもない	247	59.2%	344	54.5%	591	56.4%	0.13

表 2-1 年齢別の比較①（アンケート ID と検体 ID 一致者のみ）

	24歳以下 n=72		25-34歳 n=248		35-44歳 n=177		45歳以上 n=106		合計 n=603		Pearson カイ2乗 <sup>1)</sup>
<b>居住地</b>											
北海道・東北	22	30.6%	57	23.0%	47	26.6%	27	25.5%	153	25.4%	0.77
関東	16	22.2%	79	31.9%	63	35.6%	37	34.9%	195	32.3%	
北陸・甲信越	1	1.4%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.5%	
東海	3	4.2%	23	9.3%	13	7.3%	8	7.5%	47	7.8%	
近畿	8	11.1%	25	10.1%	17	9.6%	11	10.4%	61	10.1%	
中国・四国	6	8.3%	24	9.7%	15	8.5%	9	8.5%	54	9.0%	
九州	16	22.2%	38	15.3%	22	12.4%	14	13.2%	90	14.9%	
<b>CBO<sup>2)</sup></b>											
にじいろほっかいどう（北海道）	9	12.5%	20	8.1%	21	11.9%	18	17.0%	68	11.3%	0.36
やろっこ/ZEL（東北）	13	18.1%	41	16.5%	25	14.1%	12	11.3%	91	15.1%	
NPO法人akta/akta（東京）	6	8.3%	30	12.1%	18	10.2%	14	13.2%	68	11.3%	
NPO法人SHIP（神奈川）	11	15.3%	41	16.5%	42	23.7%	21	19.8%	115	19.1%	
ANGEL LIFE NAGOYA/rise（愛知）	4	5.6%	23	9.3%	12	6.8%	9	8.5%	48	8.0%	
mash大阪/dista（大阪）	7	9.7%	27	10.9%	20	11.3%	10	9.4%	64	10.6%	
HaaTえひめ/BRIDGE（中国・四国）	6	8.3%	27	10.9%	17	9.6%	8	7.5%	58	9.6%	
HACO/HACO（福岡）	13	18.1%	30	12.1%	10	5.6%	10	9.4%	63	10.4%	
nankr沖縄/mabui（沖縄）	3	4.2%	9	3.6%	12	6.8%	4	3.8%	28	4.6%	
<b>啓発対象地域の利用<sup>3)</sup></b>											
対象地域	70	97.2%	232	93.5%	171	96.6%	101	95.3%	574	95.2%	0.41
それ以外の地域	2	2.8%	16	6.5%	6	3.4%	5	4.7%	29	4.8%	
<b>国籍</b>											
日本	67	93.1%	229	92.3%	172	97.2%	106	100.0%	574	95.2%	<b>0.01</b>
海外 <sup>4)</sup>	5	6.9%	19	7.7%	5	2.8%	0	0.0%	29	4.8%	
<b>セクシュアリティ</b>											
ゲイ（男性同性愛者）あるいはMSM <sup>5)</sup>	56	77.8%	190	76.6%	145	81.9%	81	76.4%	472	78.3%	0.46
バイセクシュアル（両性愛者）	16	22.2%	57	23.0%	29	16.4%	24	22.6%	126	20.9%	
その他	0	0.0%	1	0.4%	3	1.7%	1	0.9%	5	0.8%	
<b>居住形態</b>											
独居（定住先はないを含む）	34	47.2%	157	63.3%	120	67.8%	60	56.6%	371	61.5%	<b>0.01</b>
同居	38	52.8%	91	36.7%	57	32.2%	46	43.4%	232	38.5%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>											
ある	38	52.8%	194	78.2%	148	83.6%	89	84.0%	469	77.8%	<b>&lt;0.01</b>
ない（今回が初めての検査）	34	47.2%	54	21.8%	29	16.4%	17	16.0%	134	22.2%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>											
ある	22	30.6%	80	32.3%	62	35.0%	26	24.5%	190	31.5%	0.32
ない	50	69.4%	168	67.7%	115	65.0%	80	75.5%	413	68.5%	
<b>過去1年の受検場所<sup>6)</sup></b>											
保健所	15	20.8%	46	18.5%	36	20.3%	16	15.1%	113	18.7%	0.70
病院/クリニック	4	5.6%	15	6.0%	12	6.8%	6	5.7%	37	6.1%	0.98
郵送検査	4	5.6%	18	7.3%	8	4.5%	6	5.7%	36	6.0%	0.70
その他	4	5.6%	11	4.4%	15	8.5%	1	0.9%	31	5.1%	<b>0.04</b>
<b>過去6か月間の利用施設（複数回答）</b>											
ゲイバー	24	33.3%	75	30.2%	60	33.9%	28	26.4%	187	31.0%	0.58
ゲイイベント	7	9.7%	9	3.6%	3	1.7%	5	4.7%	24	4.0%	<b>0.03</b>
ゲイショップ	4	5.6%	15	6.0%	9	5.1%	5	4.7%	33	5.5%	0.95
有料のハッテン場	18	25.0%	59	23.8%	38	21.5%	27	25.5%	142	23.5%	0.86
野外のハッテン場	7	9.7%	18	7.3%	19	10.7%	11	10.4%	55	9.1%	0.61
いずれもない	37	51.4%	130	52.4%	82	46.3%	55	51.9%	304	50.4%	0.64

表 2-2 年齢別の比較② (アンケート ID と検体 ID 一致者のみ)

	24歳以下 n=72		25-34歳 n=248		35-44歳 n=177		45歳以上 n=106		合計 n=603		Pearson カイ2乗 <sup>1)</sup>
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターの認知											
全く/あまり知らない	38	52.8%	96	38.7%	74	41.8%	43	40.6%	251	41.6%	0.20
よく/少し知っている	34	47.2%	152	61.3%	103	58.2%	63	59.4%	352	58.4%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？											
ある	67	93.1%	232	93.5%	156	88.1%	86	81.1%	541	89.7%	<0.01
ない	5	6.9%	16	6.5%	21	11.9%	20	18.9%	62	10.3%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？ (複数回答)											
彼氏や恋人	18	25.0%	68	27.4%	39	22.0%	18	17.0%	143	23.7%	0.18
友達やセクフレ	44	61.1%	157	63.3%	111	62.7%	64	60.4%	376	62.4%	0.95
その場限りの相手	33	45.8%	107	43.1%	78	44.1%	40	37.7%	258	42.8%	0.68
過去6か月間の相手のタイプ数 (再掲)											
複数ある	23	31.9%	88	35.5%	64	36.2%	34	32.1%	209	34.7%	0.85
複数ではない	49	68.1%	160	64.5%	113	63.8%	72	67.9%	394	65.3%	
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験											
ある	58	80.6%	196	79.0%	127	71.8%	69	65.1%	450	74.6%	0.02
ない	14	19.4%	52	21.0%	50	28.2%	37	34.9%	153	25.4%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験											
ある	18	25.0%	59	23.8%	40	22.6%	24	22.6%	141	23.4%	0.97
ない	54	75.0%	189	76.2%	137	77.4%	82	77.4%	462	76.6%	
過去6か月間の複数人 (3人以上) でのセックス経験											
ある	11	15.3%	43	17.3%	38	21.5%	20	18.9%	112	18.6%	0.62
ない	61	84.7%	205	82.7%	139	78.5%	86	81.1%	491	81.4%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験											
ある	3	4.2%	4	1.6%	8	4.5%	7	6.6%	22	3.6%	0.11
ない	69	95.8%	244	98.4%	169	95.5%	99	93.4%	581	96.4%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験											
ある	5	6.9%	7	2.8%	3	1.7%	3	2.8%	18	3.0%	0.18
ない	67	93.1%	241	97.2%	174	98.3%	103	97.2%	585	97.0%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ (ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ) 使用経験											
ある	0	0.0%	5	2.0%	2	1.1%	1	0.9%	8	1.3%	0.56
ない	72	100.0%	243	98.0%	175	98.9%	105	99.1%	595	98.7%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用											
非常用	56	77.8%	182	73.4%	119	67.2%	69	65.1%	426	70.6%	0.02
常用	11	15.3%	50	20.2%	37	20.9%	17	16.0%	115	19.1%	( 0.16 )
過去6ヶ月間がない	5	6.9%	16	6.5%	21	11.9%	20	18.9%	62	10.3%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP, プレップ) 」認知											
知っている	39	54.2%	173	69.8%	124	70.1%	78	73.6%	414	68.7%	0.04
知らない	33	45.8%	75	30.2%	53	29.9%	28	26.4%	189	31.3%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP, プレップ) 」使用意図											
服薬したくない/どちらかといえば	7	9.7%	32	12.9%	23	13.0%	12	11.3%	74	12.3%	0.18
服薬したい/どちらかといえば	32	44.4%	141	56.9%	101	57.1%	66	62.3%	340	56.4%	
知らない	33	45.8%	75	30.2%	53	29.9%	28	26.4%	189	31.3%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP, プレップ) 」使用経験											
ある	0	0.0%	20	8.1%	11	6.2%	8	7.5%	39	6.5%	0.10
ない	72	100.0%	228	91.9%	166	93.8%	98	92.5%	564	93.5%	

表 2-3 年齢別の比較③ (アンケート ID と検体 ID 一致者のみ)

	24歳以下 n=72		25-34歳 n=248		35-44歳 n=177		45歳以上 n=106		合計 n=603	Pearson カイ2乗 <sup>1)</sup>	
性感染症既往 (複数回答)											
梅毒	4	5.6%	25	10.1%	17	9.6%	19	17.9%	65	10.8%	<b>0.04</b>
A型肝炎	0	0.0%	4	1.6%	1	0.6%	2	1.9%	7	1.2%	0.51
B型肝炎	0	0.0%	8	3.2%	16	9.0%	8	7.5%	32	5.3%	<b>0.01</b>
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	2	1.9%	3	0.5%	0.12
クラミジア	2	2.8%	22	8.9%	22	12.4%	13	12.3%	59	9.8%	0.09
尖圭コンジローマ	1	1.4%	14	5.6%	15	8.5%	10	9.4%	40	6.6%	0.12
淋病	1	1.4%	13	5.2%	13	7.3%	8	7.5%	35	5.8%	0.25
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	2	1.1%	1	0.9%	3	0.5%	0.33
毛じらみ	7	9.7%	49	19.8%	55	31.1%	32	30.2%	143	23.7%	<b>&lt;0.01</b>
性器ヘルペス	1	1.4%	2	0.8%	4	2.3%	4	3.8%	11	1.8%	0.27
その他	1	1.4%	1	0.4%	6	3.4%	0	0.0%	8	1.3%	<b>0.03</b>
いずれもない	57	79.2%	143	57.7%	87	49.2%	41	38.7%	328	54.4%	<b>&lt;0.01</b>
追跡可能な利用者の状況											
スクリーニング判定結果の状況*											
いずれも陰性	60	83.3%	205	82.7%	150	84.7%	87	82.1%	502	83.3%	0.68
いずれか陽性	11	15.3%	40	16.1%	27	15.3%	19	17.9%	97	16.1%	
重複	1	1.4%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.7%	
HIV感染症*											
初めて陽性と知った	3	4.2%	7	2.8%	0	0.0%	1	0.9%	11	1.8%	0.06
陰性だった	69	95.8%	241	97.2%	177	100.0%	105	99.1%	592	98.2%	
梅毒*											
初めて陽性と知った	7	9.7%	16	6.5%	10	5.6%	1	0.9%	34	5.6%	<b>0.04</b>
既往を知っていた	3	4.2%	23	9.3%	17	9.6%	17	16.0%	60	10.0%	( 0.07 )
陰性だった	62	86.1%	209	84.3%	150	84.7%	88	83.0%	509	84.4%	
HIV感染症あるいは梅毒の新規感染状況 (再掲)											
既往を知っていたあるいは陰性だった	62	86.1%	227	91.5%	167	94.4%	104	98.1%	560	92.9%	<b>0.01</b>
初めて感染を知った	10	13.9%	21	8.5%	10	5.6%	2	1.9%	43	7.1%	
結果閲覧の状況											
未	4	5.6%	5	2.0%	5	2.8%	4	3.8%	18	3.0%	0.44
済	68	94.4%	243	98.0%	172	97.2%	102	96.2%	585	97.0%	
結果通知日から直近口グイン日までの日数 (n585,平均3.2日±7.2日,当日-63日)											
7日以内に確認	59	81.9%	212	85.5%	162	91.5%	89	84.0%	522	86.6%	0.11
8日以上経過して確認 (未確認含む)	13	18.1%	36	14.5%	15	8.5%	17	16.0%	81	13.4%	

1) 年齢階級による群間比較。( )内は2群に変数を調整した場合の結果を示す。

2) CBO(Community based organization)の団体名/コミュニティセンター名。( )内は啓発活動の主な対象地域を示す。

3) 啓発対象地域とは、北海道；北海道、東北；1道6県、東京/神奈川；1都6県、愛知；4県、大阪；2府4県、中国・四国；9県、福岡；7県、沖縄；沖縄県の居住地による。

4) 海外の内訳は、中国、台湾、韓国、ベトナム、スリランカ、インドネシア、フィリピン、アメリカ、オーストラリア、フランス、コロンビア、不明。

5) MSM(Men who have sex with men)

6) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

\* HIV感染症、梅毒は、それぞれの既往について感染したことがあると回答した人を『既往を知っていた』とした。本調査ではHIV感染症の既往はみられなかった。スクリーニング判定結果の状況は既往を含んでいる。





## 研究成果の刊行に関する一覧表

### 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
長島真美, 貞升健治, 川畑拓也, 近藤真規子, 草川茂, 立川愛, 松岡佐織	後天性免疫不全 症候群 (エイズ) /HIV 感染症	国立感染症 研究所	病原体 検出マ ニュアル	Web 公開		2018年 10月改訂	<a href="https://www.niid.go.jp/niid/ja/labo-manual.html">https://www.niid.go.jp/niid/ja/labo-manual.html</a>

### 雑誌

著者氏名	論文タイトル名	雑誌名	巻	ページ	出版年
Takahashi N, Matsuoka S, Thi Minh TT, Naruse TK, Kimura A, SHiino T, Kawana-Tachikawa A, Ishikawa K, Matano T, Ngyyen Thi LA	Human lucoyto-antigen associated gag and nef polymorphisms in HIV-1 subtype A/E-infected individuals in Vietnam.	Microbes and Infection	21	113-118	2019
Kato H, Kanou K, Arima Y, Ando F, Matsuoka S, Yoshimura K, Matano T, Matsui T, Sunagawa T, Oishi K 松岡佐織	The importance of accounting for testing and positivity in surveillance by time and place: an illustration from HIV surveillance in Japan	Epidemiol Infect	146	2072-2078	2018
塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由 理	2015年以降の日本国内 HIV 感染発生動向	病原微生物体検 出情報 (IASR)	29	151	2018
塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由 理	都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性	厚生 の 指 標	65(5)	35-42	2018.5
金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一	地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における 調査時点までと過去1年の HIV 検査経験と関連要因	日本エイズ学会 誌	21(1)	34-44	2019.2
金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山政男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一	成人男性の HIV 検査受検, 知 識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態 - 2009年調査と2012年調査の 比較-	日本エイズ学会 誌	19(1)	16-23	2017
7) 嶋根卓也, 今村顕 史, 池田和子, 山本 政弘, 辻麻理子, 長 与由紀子, 松本俊彦	薬物使用経験のある HIV 陽 性者において危険ドラッグ 使用が服薬アドヒアランス に与える影響	日本エイズ学会 誌	20(1)	32-40	2018

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業

MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入に関する研究

令和 2 年度 総括・分担研究報告書

発行日 令和 3 年 3 月 31 日

発行者 研究代表者 塩野徳史（大阪青山大学）

発行所 大阪青山大学 健康科学部 看護学科

〒562-8580 大阪府箕面市新稲 2-11-1

E-mail: s-shiono@osaka-aoyama.ac.jp

Tel:072-737-6973(直通) Fax: 072-722-5190(代表)

令和3年 3月 9日

厚生労働大臣 殿

機関名 公立大学法人 名古屋市立大学  
所属研究機関長 職名 理事長  
氏名 郡 健二郎



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 研究課題名 MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入に関する研究(20HB1006)
- 研究者名 (所属部局・職名) 大学院看護学研究科・准教授  
(氏名・フリガナ) 金子典代・カネコノリヨ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋市立大学大学院 看護学研究科	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 川崎医科大学  
 所属研究機関長 職名 学長  
 氏名 福永 仁夫



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
2. 研究課題名 MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・教授  
 (氏名・フリガナ) 和田 秀穂 ・ ワダ ヒデホ

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋市立大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年 5月 26日

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿  
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立大学法人琉球大学  
所属研究機関長 職名 学長  
氏名 西田 睦



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
2. 研究課題名 MSM に対する HIV 検査提供に有効な要因に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学 准教授  
(氏名・フリガナ) 健山 正男 (タテヤマ マサオ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	琉球大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年 3月 31日

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長)—殿  
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 大阪青山大学  
所属研究機関長 職名 学長  
氏名 久田 敏彦



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 研究課題名 MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入に関する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 大阪青山大学 准教授  
(氏名・フリガナ) 塩野 徳史・シオノ サトシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪青山大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。